

訴人ニ於テ賠償ス可キ債務アルモノトス是即チ天候險惡ナラザリシナラハ保安ノ手續ヲ爲ス  
 ナ得可ク隨テ上告人ニ賠償ノ責任ナカル可キヲ意味スルモノニシテ原判決ハ不可抗力ノ爲  
 メ嘉徳丸(即チ被上告人ノ荷物ヲ積込ミタル船)カ保安ノ手續ヲ爲サザルヨリ生シタル荷物ノ損  
 失チ上告人ニ負ハシメタルモノト云フ可シ果シテ然ラハ原判決ハ法則ニ違背セル不法アルチ  
 免レサルモノトス何トナレハ不可抗力ノ爲ニ生シタル物品ノ損失ハ如何ナル場合ニ於テモ其  
 所有者ノ負擔タル可キハ普通ノ法則ナルカ上ニ運送契約ノ場合ニ於テモ不可抗力ニヨリ喪失  
 シタル荷物ニ付テハ其所有主ニ對シテモ損害賠償ノ權ナキチ法則トナスカ故ナリト云フニ在  
 レトモ○原判決ニ於テ沈没カ衝突ニ原因スル事實ヲ認メシコトハ衝突ニ起因シタル直接ノ原  
 因云々トアル判決ニ因テ之ヲ認知シ得ヘク而シテ此認定ニ依レハ衝突ナキトキハ風浪ノ險惡  
 ナルモ沈没セサルコトノ事實ヲ認メタル理由ニ付キ上告論旨ノ如ク原判決ヲ以テ不可抗力ニ因  
 ル損害チ上告人ニ歸セメタルノ不法アリト云フヲ得ス故ニ此論旨モ亦上告ノ理由ナシ  
 同第十點ハ原判決ハ訴訟手續並ニ民事訴訟法第二百九條ノ規定ニ違背セル不法ノ裁判ナリ  
 凡ソ辯論ハ公開セサル可ラサルモノナルニ明治二十九年十月二十六日ノ辯論ハ公開シタルノ  
 形跡ナシ且辯論ノ公開セラレタルヤ否ヤハ調書ニ依リ明確ニセサル可カラサルコトハ民事第  
 百二十九條ニ規定スル所ナルニ原院ノ調書此手續ニヨラサルハ前述ノ如キ不法アルチ免レス  
 ト云フニ在レトモ○民事訴訟法第二百九條ノ第五號ニハ公ニ辯論ヲ爲シ又ハ公開ヲ禁シタ  
 ルコトアルニ付原院ノ調書ニ唯々(再開ス)トノミアリテ公開ヲ禁シタルコトノ記載ナキ以上之

判第十點

チ以テ公開ヲ禁シタルノ證明ト爲ス能ハサルコト明カナリ而シテ原院ハ調書ハ公開又ハ禁公  
 開トモニ記載ナキニ付キ之ニ據リ右第五號規定ハ不遵守ヲ證明シ得ヘキモ是等ハ不遵守即チ  
 記載方ハ欠缺ハ其欠缺事項ニ限リ證明ハ効力ヲ喪フ迄ニシテ調書其モハ無効ヲ引起スモハ  
 ニアリ不個ハ右第二百二十九條第二項ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シトアリテ之ヲ掲グルコトヲ要スト  
 規定セラレサルニ因リ認知スルチ得ヘシ旁此欠缺ノ爲メ原判決ヲ以テ違法ナル口頭辯論ニ  
 カレタルモノト云フコトヲ得サルニ付キ此論旨モ亦上告ノ理由ナシトス  
 上來説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナリキチ以テ民事訴訟法第四百五十二條ニ依リ之  
 チ棄却スヘキモノトス

○契約履行若クハ損害金請求ノ件

明治三十年十一月二十四日第二民事部判決

○判決要旨

一 一旦成立シタル契約ヲ解除セラレタルモノトスルニハ其解約カ暗黙ノ合意ニ

契約ノ解除○暗黙ノ解除



因ルトキハ其事實又一方ノ解除權ノ行使ニ因ルトキハ其者ノ意思表示又解除條件ノ到來ニ繫ルトキハ其條件到來ノ事實アルコトヲ要ス故ニ是等ノ事實又ハ意思表示ノ有無ヲ確メズ單ニ當事者カ一年有餘間契約ノ履行ヲ抛擲シタリト云フ事實ト他ノ事情トヲ以テ暗黙ノ解除アリタルモノト認定シタル裁判ハ不法ナリ(判旨第一點)

第一審 新潟地方裁判所 第二審 東京控訴院

上告人 永井末松 訴訟代理人 石原毛登馬

被上告人 奥田源治郎 訴訟代理人 南 茂平

右當事者間ノ契約履行若クハ損害金請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十年二月二十六日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告代理人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス

理由

上告論旨第一點ハ凡ソ有効ニ成立シタル契約ハ當事者一方ノ意志若クハ請求ノ有無ニヨリ解セラルヘキモノニアサルハ契約法上ノ一大原則ナリ然ルニ原院カ被控訴人ハ一年有餘ノ間之

レテ放擲シ去リ控訴人ニ對シテ何等ノ請求ヲモ爲サ、リシ事實ニ徴スルトキハ云々ト説明シ一旦有効ニ成立シタル合意カ請求ヲ爲サ、ルトノ一方ノ行爲ニヨリ解除シタルモノト斷定シタルハ契約法ノ法理ヲ誤リ不法ニ事實ヲ確定シタルモノナリト云ヒ其第二點ハ原判決ノ上告人請求ヲ排斥セラレタル理由ハ本訴ノ目的物タル石油罐ハ被控訴人ニ於テ自家ノ商業用ノ爲メニ買入レタルモノナルコトハ右業務上明白ナル所ニシテ石油罐授受ノ運送ハ被控訴人ノ利害ニ緊要關係ヲ有スルモノナリ故ニ被控訴人ニシテ本訴ノ賣買ヲ維持スルノ意思ナラシニハ必ラス速ニ控訴人ニ對シテ其引渡方ヲ照會スヘキ都合ナリト然ルニ被控訴人ハ一年有餘ノ間之ヲ放擲シ去リ控訴人ニ對シテ何等ノ請求ヲモ爲サ、リシ事實ニ徴スルトキハ本訴ノ賣買ハ控訴人申立ノ如ク船舶徵發ノ爲メ豫期ノ如ク石油罐ノ積送リヲ爲スコト能ハサルニ至リタル爲メ當事者ノ間ニ於テ暗黙ニ之ヲ解除シタルモノト認定セサルヲ得ス故ニ此點ニ關スル控訴人ノ申立ハ理由アリト云々ト云フニ在リ抑被上告人カ原院ニテ上告人請求ニ對スル抗辯ノ一トシテ唱フル所ハ船舶徵發ノ爲メ運送スル能ハサルニ由リテ合意上賣買ハ自然ニ消滅シタリト云フ理由ナリシ然レトモ此事實ノミニテハ被上告人ニ引渡運延ノ積ナキ理由タルヘケレトモ未タ以テ賣買消滅ノ理由トナラスシテ其抗辯ノ不當ナルコト明瞭ナリ然ルニ右判決ハ之ニ加フルニ一事實ヲ以テ即チ上告人カ一年有餘ノ間放擲シテ引渡請求ヲ爲サ、リシ事實ト相徴照シテ本訴賣買ハ解除セラレタルモノト認定セラレタリ謂ユル被控訴人ハ一年有餘ノ間之ヲ放擲シ去リ控訴人ニ對シ何等ノ請求ヲ爲サ、リシ事實ハ原院ハ何ニ據リテ之ヲ援引セラ



レタルヤ此點ハ原院ニ於テ曾テ問題トナリタルコト之ナキハ口頭辯論調書ニ明カナリ果シテ然ラハ當事者ノ何レヨリモ提出セサル事實ナルコト論テ俟タサルニ拘ハラズ裁判所カ想像上援引シテ裁判ノ資料ニ供セラレタルモノニシテ違法ノ判決タルヲ免レス又前陳判決ニ於ケル推理方法ハ一年有餘請求セサシシ事實ノ確定セラレタル後ナラサルヘカラス然ルニ其確定並ニ理由ヲ明示セサルハ少クトモ理由ヲ付セサル不法ノ判決ナリト云フニ在リ

依テ一件記録ヲ調査シ之ヲ按スルニ被告入カ上告人ノ請求ニ對シ抗辯セシ要旨ハ石油鐵賣買ノ契約ヲ爲シタルニ相違ナキモ上告人ト之ヲ爲シタルモノニアラス被告上告人ハ長岡石油會社ト爲シタルモノナレハ本訴ニ付テハ左ノ二個ノ抗辯ヲ爲ス即チ上告人ハ契約當事者ニアラサルヲ以テ本訴請求ニ應スルヲ得ス第二假リニ上告人ハ契約ヲ爲シタルモノトスルモ相手方ハ代金ヲ提供セスシテ此請求ヲ爲スモノナレハ不當ナリ且契約ノ當時日清戰爭ノ爲メ船舶ヲ徵發セラレ爲メニ運送スル能ハサルニ立至リシモノナレハ此事情ヨリ契約ハ自然消滅シタルモノナリ第三上告人ノ請求ノ目的ハ二途ニ出テ契約ヲ履行セザレハ損害ヲ請求スルトノコトナレハ訴訟法ノ規定ニ違背スルニ付キ之ニ應スルコトヲ得ストノ旨趣ヲ以テシタルコトハ原院口頭辯論調書ニ載セテ明カナリ而シテ原判決ニ所謂一年有餘ノ間之ヲ放擲シ去リタリトノコトハ被告入カ原院ニ提出シタル控訴狀ヲ始メ原院口頭辯論調書中ニ之ヲ主張シタル事跡ノ見ルヘキモノナシ凡ソ契約ニシテ一旦成立シタル上ハ何年ヲ過クルモ其權義ハ時効ニ係ラサル限リハ有効ニシテ原判決カ暗黙ノ解除即チ當事者カ暗黙ノ合意ヲ以テ解約シタルモノト

判例第一點

スルトキハ其事實アルコトヲ要ス又一方カ暗黙ノ解除權ヲ有スル場合ニ於テ其一方解除シタルモノトスルトキハ其意思ハ表示若シ解除條件ニ繋ル場合ニ於テ其條件到來シタリトスルトキハ其到來シタル事實アルコトヲ要ス然ルニ原判決ハ既ニ契約ノ成立シタル事實ヲ認メテ如何ナル事實若クハ意思ハ表示アリシヤ又ハ如何ナル條件ノ到來セシ事實アリシヤヲ確メスシテ當事者ハ主張シテ確定シタル事實ニ非サル事項即チ一年有餘ノ間之ヲ放擲シ去リタリト云フ事實ヲ舉ケ之ニ加フルニ被告入カ船舶徵發ノ爲メ豫期ハ如ク石油鐵賣買積送ヲ爲シ能ハサリシ事情ヲ付シ以テ當事者間ニ於テ暗黙ニ契約ヲ解除シタルモノト認定シタルハ法律ニ違背シテ事實ヲ確定シタル不法ノ裁判タルヲ免カレズ即チ上告其理由アリ

上來説明スル如ク本件上告其理由アルヲ以テ民事訴訟法第四百四十七條第一項ノ規定ニ依リ原判決ノ全部ヲ破毀シ同法第四百四十八條第一項ノ規定ニ從ヒ事件ヲ原院ニ差戻スヲ相當トス是主文ノ如ク判決ヲ爲ス所以ナリ

○強制執行ニ對スル異議ノ件

明治三十年十一月二十四日第二民事部判決

○判決要旨

時効中斷



一 執行文ノ付與ヲ受ケルハ權利行使ノ着手ナルカ故ニ其付與ハ時効中斷ノ効力アリ

第一審 水戸地方裁判所土浦支部 第二審 東京控訴院

上告人 野澤安三郎 訴訟代理人 佐久間長四郎

被上告人 湯原 外一名

右當事者間ノ強制執行ニ對スル異議事件ニ付東京控訴院カ明治三十年六月十七日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告論旨ハ裁判執行期限ニ付テハ明治十一年司法省丁第九號達ニヨリ滿五ケ年ヲ以テ時効ノ成就スルコトハ大審院ノ明カニ認メラル、處ナリトス本件被上人カ上告人ニ對シ執行ヲ求メタル私訴判決ハ其裁判言渡シ書ニ明治二十三年七月八日ノ判決ニシテ此判決ノ執行ヲ求メタルハ明治二十九年七月中被上告人ハ水戸地方裁判所土浦支部へ執行文ノ附與ヲ求メ同月二十三日上告人ノ住宅ニ臨ミ強制執行ヲ爲シタリ元來右ノ私訴判決ハ既ニ明治二十五年七月中ニ於テ濟方シタルモノナルヲ以テ旁右私訴判決ノ滿五ケ年ヲ經過シ時効ニ罹リタルモノナリト

ノ申立ヲナシタルニ原院ハ其判決理由ニ於テ凡ソ勝訴者ハ判決ニ依リ確定シタル處ノ自己ノ權利ヲ強ヒテ實行セント欲セハ必ス先以テ執行力アル正本ノ下附ヲ求メサルヘカラス云々控訴人カ乙一號證ノ如ク明治二十四年九月十一日適法ニ執行力アル正本ノ下附ヲ受ケタル以上ハ控訴人ハ私訴判決ニ因リ確定シタル處ノ自己ノ權利實行ニ着手シタルモノト謂フヲ得ヘク從テ時効ノ經過ヲ中斷シタルモノト得フヲ得ヘキニ依リ同日以後未タ五ケ年ヲ經過セサル明治二十九年七月中ニ於テ強制執行ニ着手シタルハ不當ノ所爲ニ非ストスアルモ本件被上告人カ上告人ニ對スル強制執行ハ明治二十三年七月八日ノ私訴判決ニ對シ明治二十九年七月中執行文付與ノ申請ヲ爲シタルモノニシテ私訴判決ノアリタルヨリ滿六ケ年ノ後其執行文付與ヲ受ケタルモノナリ尤モ乙一號證ハ明治二十四年九月中一旦執行文ノ付與ヲ受ケタルモノトスルモ右ノ執行文ヲ以テ上告人ニ對抗シタルコトナキハ被上告人カ明ラカニ認メ得ラル、處ニシテ此所爲ヲ以テ時効ヲ中斷スルノ効アリト云フヲ得ス然ルニ原院カ乙一號證ヲ採テ時効中斷ノ効アリトシタルハ裁判執行ニ關スル時効ノ法則ヲ不當ニ適用シタル不法ノ裁判ナリト云フニアルモ○執行文附與ノ年月ニ關スル被上告人ノ辯解ハ多數ノモノニ對シ執行ヲ爲スニハ一通ノ執行力アル正本即乙第一號證ノミニテハ不足ナルニヨリ更ニ數通ノ正本即乙第一號證ノ附與ヲ得タルモノナリト云フニアリテ原判決之ヲ採用シタルモノナルコトハ原審廷ニ於ケル調査ノ記事及原判決理由全體ニ照ラシ自ラ明ラナレハ原判決ハ裁判執行ニ關スル時効ノ法則ヲ不當ニ適用シタル如キ不法アルモノニアラス如何トナレハ被上告人ノ執行シタル判決

時効中斷



正本ハ明治二十九年七月申ノ附與ナリトスルモ本訴確定判決ノ如キ多數ノ對手人アリテ一應ノ正本ヲ以テ之ヲ執行スルニ足ラサル場合ナルニ於テハ必シモ蓋キニ附與セラレタル判決正本即乙第一號證ニヨリ執行セサレハトテ之カ爲メ其効力消滅ニ歸スヘキ道理コレナク而シテ執行文ハ附與ハ權利行使ハ着手ナルニ因リ其附與ハ時効中斷ハ効力ヲ有スルコトハ言テ俟カサル所ナルヲ以テナリ要スルニ原判決ハ相當ニシテ上告人ノ論スル所ハ其理由ナシトス上來説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ之ヲ棄却スヘキモノトス

○預ケ金請求ノ件

明治三十年十一月二十五日第一民事部判決

○判決要旨

一 物産ノ委託販賣ヲ目的トスル會社ハ營業トシテ貸金ヲ爲スヲ得スト雖トモ其營業外ニ金錢ノ貸借ヲ爲スモ妨ケナシ(判旨第二點)

第一審 秋田地方裁判所

第二審 宮城控訴院

上告人 福田久右衛門

訴訟代理人

沼田幸太郎  
沼田宇源太

被上告人 加賀谷保吉

右當事者間ノ預金請求事件ニ付宮城控訴院カ明治三十年六月二十八日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告論旨第一點ハ凡ソ金錢上ノ計算ニ關スル事ハ縱令ヒ少許ノ差異ト雖トモ必ス之レヲ明確ニセサル可ラス上告人ハ原院ニ於テ新甲一號證即チ加賀谷保吉一己ノ取引ニ關スルモノハ月數ヲ以テ利子計算ヲ爲スヘキ約束ニシテ本件金員利子ハ日歩計算ナレハ之ヨリ符合スヘキ理由ナク假リニ新甲第一號證利子ヲ日歩トシテ計算スルモ決シテ被上告人申立ノ利子ヲ得ルコト能ハサルコトヲ(控訴狀第二項第三項)以テ新甲第一號證トハ全ク別箇ノ取引ニシテ決シテ被上告人申立ノ如キニアラサルコトヲ主張セシテ其利子ノ相異ハ原判決モ亦明ニ之レヲ認メタリ然ラハ此ノ相異アルニ拘ハラズ同一ノ取引ナリト斷定セントセハ必ス何故ニ此ノ相異ヲ生シタルヤヲ判定セサルヘカラサルニ原判決ハ何等ノ説明ヲ付セサルハ必要ナル主張ニ對シ判決ヲ與ヘサルモノニシテ要スルニ理由不備ノ不法アリト云フニ在レトモ○原院ハ乙第一



二三號證ニ依リ被上告會社カ加賀谷保吉一己人ノ名義ヲ假リテ上告人ニ係爭金額ヲ貸與シタル事實ナリトノ心證ヲ得タルニ因リ甲第一號證ト新甲第一號證ト利子ノ點ニ於テ少差アルカ如キハ其心證ヲ動カスニ足ラスト說明シ即チ右兩號證中ノ利子ノ差異ハ該認定ヲ妨ケサル理由ヲ付スルモノナレハ尙ホ其上ニ利子ニ差異アル原因マテ說明スルノ要ナシ

同第二號株式會社ノ業務ハ必ス法律ノ規定ニヨリ定款ノ條項ニ從ハサルヘカラサルハ勿論若シ之ニ違背スルトキハ則チ會社法違反タルヲ免レズ被上告會社ハ物產委託株式會社ニシテ貸金業ヲ營ムヘカラサルコトハ明ニシテ被上告人モ元ヨリ爭ハサル所ナリ而シテ被上告人ハ新甲第一號證貸金ハ表面上ニ一箇人ナル加賀谷保吉名義ナルモ其實被上告會社ノ貸金ナルコトヲ主張シテ本件ノ義務ヲ免レントスル者ナレハ是レ自ラ自己ノ不法行爲ヲ主張シテ攻撃方法トスルモノニシテ法律上元ヨリ採用スヘカラサル所トス然ルニ原院ハ全然之ヲ採用シ以テ上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ即チ法律ニ違背シタル不法アリト云フニ在リ○按スルニ物產ノ委託ヲ受ケ其販賣ヲ目的ト爲ス被上告會社カ其營業トシテ貸金ヲ爲スハ許ス可カラサルコトナリト雖トモ其營業外ニ於テ金銀ノ貸借ヲ爲スハ毫モ妨ケナキ事項ナリトス而シテ本件係爭貸金カ被上告會社ハ營業外ニ於ケル貸借ナルハ原判決事實摘示ノ趣旨ニ徴シテ明カナレハ原院カ其貸借ヲ認メテ裁判ヲ爲シタルモ毫モ論告ノ如キ不法ノ廉アルコトナシ

以上說明ノ如ク本件上告ハ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ之ヲ棄却スヘキモノトス

判旨第二點

○優先權確認ノ訴

明治三十年十一月二十六日第二民事部判決

○判決要旨

- 一 適法ニ調製セラレ且孰レノ債權者モ異議ヲ申立テスシテ適法ニ實施セラレタル配當表ハ終局的判決ノ性質ヲ帶ヒ裁判所及ヒ各債權者ヲ絶對ニ羈束シ得ル確定決定ノ効力ヲ有ス
  - 一 此ノ確定決定ニ對シ不服ノ訴權ヲ有スルモノハ民事訴訟法第六百三十四條ニ明揭スル所ノ異議ヲ申立タル債權者ニ限リ其他ノ債權者ハ斯ル訴權ヲ有セス
- (參照) 異議ヲ申立タル債權者前條ノ期間ヲ怠リタルトキト雖トモ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ妨ケラルルコト無シ(民事訴訟法第六百三十四條)
- 一 配當實施後之ニ不服ヲ唱ヘ訴ヲ起シテ不動産上ノ抵當權ヲ主張スルニハ配當表ニ對シ異議ヲ申立タルコトヲ要ス

配當表實施ノ効力○配當表實施ニ對シ不服ノ訴權ヲ有スル者○配當實施後不動産上ノ抵當權ノ主張 八十七



第一審 富山地方裁判所 第二審 大阪控訴院

上告人 阿部孫右衛門 訴訟代理人 小島重太郎  
被上告人 高島茂兵衛 訴訟代理人 原嘉道

右當事者間ノ優先債權認事件ニ付大阪控訴院カ明治二十九年十二月三日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告代理人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告ニ係ル訴訟費用ハ上告人之ヲ負擔ス可シ

理由

上告論旨ハ原裁判ハ裁判ニ理由ヲ付セス且ツ法則ヲ不當ニ適用シタル不法アリ本件ハ上告人カ抵當權ヲ有セシ地所ヲ魚津區裁判所ニ於テ強制執行ノ爲メニ競賣ニ付シ其賣得金ハ抵當債權者タル上告人ニ歸スヘキ者ナルニ被上告人カ取得シタル者ナレハ其取戻ヲ訴ヘタルモノニシテ實體法上ノ權利ヲ主張スル訴訟ニシテ強制執行ニ關スル異議ノ訴ニハ非ス故ニ本訴ヲ提起スルニハ競賣代金配當實施ノ期日ニ異議ヲ申立タルヲ必要條件トスルノ理ナシ然ルニ原院ニ於テ控訴人カ被控訴人ニ對シ本件不動産上ノ抵當權ヲ主張スルニハ競賣代金配當實施ノ期日ニ異議ヲ申立タルヲ要スト判示シテ本訴ヲ却下シタハ裁判ニ理由ヲ付セス法則ヲ不

當ニ適用シタル不法アリト思料ス民事訴訟法第六百三十四條ニ異議ヲ申立タル債權者前條ノ期間ヲ怠リタルキト雖云々トアルハ前條ヲ受ケテ異議ノ訴ト普通民法上ノ訴ト區別アルヲ示シタル迄ニシテ債權者カ異議ヲ申立前條ノ期間ヲ遵守セサルモ之カ爲メニ民法上訴權ヲ失却スヘキ結果ヲ生セストノ意ヲ明カニシタル迄ナリ故ニ異議ヲ申立サルノ一事ヲ以テ普通民法上ノ訴權ヲ失却スルノ理ナキハ明白ナリト云フニ在リ〇依テ案スルニ上告人所論ノ如ク配當表ハ異議ニ基クテ民法上ノ訴ト區別シ配當表ニ對シ異議ヲ申立サル債權者ニ於テ常ニ民法上ノ訴ヲ起スニトナリ得ルモノトセハ配當手續中幾分ノ規定ニシテ徒法ニ屬スルハ勿論右ノ論旨ヲ貫クトキハ配當表ニ對シ異議ヲ申立タル上法定期間内ニ訴ヲ提起シ其異議ヲ排斥セラレ敗訴シタル債權者モ亦其訴ハ異議ニ基クテ民法上ノ訴トハ無關係ナリトノ理由ニ因テ確定判決ノ存在スルニモ拘ハラス更ニ民法上ノ訴ヲ起シ自己ハ優先債權ヲ主張スルコトヲ得ヘキ理合ニシテ既ニ實施セラレタル配當表ハ確定ノ期ヲ知ルハカラサルコトニ至ルハミナラス抑モ異議ノ訴ナルモノハ債權者間ニ於テ實體法ニ基キ權利ハ有無若クハ優劣ヲ争フモノニシテ裁判所モ亦之ヲ判斷スルニ外ナラサレハ更ニ民法上ノ訴ヲ提起スルキハ結局同一ノ問題ニ對シ再ヒ判決ヲ與フルコトニ歸着シ法律上奇怪ナル結果ヲ見ルニ至ルカ故ニ本件ハ實體法上ノ權利ヲ主張スル訴訟ニシテ強制執行ニ關シテ異議ヲ訴ニアラス云々ニ基ケル上告論旨ハ採用スルコトヲ得ス蓋シ法律ハ民事訴訟法第六百二十八條以下各條ニ規定セラレ通リ財團ノ分配問題ヲ配當手續自體ニ於テ終局的ニ整理スルコトヲ欲シ之カ爲メ各債權者ニ



實施ノ効力○配當表實施ニ對シ不服ノ訴權ヲ有スル者○配當實施後不動産上ノ抵當權ノ主張  
 與、フ、ル、ニ、配、當、表、ニ、對、ス、ル、異、議、申、立、ノ、唯、一、ノ、方、法、ヲ、以、テ、シ、只、例、外、ト、シ、テ、異、議、ヲ、申、立、タ、ル、債、權、者、  
 ニ、限、リ、事、後、受、取、金、返、還、請、求、ノ、特、別、訴、權、ヲ、許、シ、タ、ル、迄、ニ、付、キ、此、法、律、ヲ、推、究、ス、ル、ト、キ、ハ、適、法、ニ、調、  
 製、セ、ラ、レ、又、孰、レ、ノ、債、權、者、モ、異、議、ヲ、申、立、ス、シ、テ、適、法、ニ、實、施、セ、ラ、レ、タ、ル、配、當、表、ハ、終、局、的、判、決、ノ、性、  
 質、ヲ、帶、ヒ、裁、判、所、ヲ、モ、各、債、權、者、ヲ、モ、絶、對、ニ、鞏、束、シ、得、ル、確、定、決、定、ノ、効、力、ヲ、有、ス、ル、事、此、確、定、決、定、ニ、  
 對、シ、不、服、ノ、訴、權、ヲ、許、サ、レ、タ、ル、者、ハ、獨、リ、民、事、訴、訟、法、第、六、百、三、十、四、條、ニ、明、規、セ、ラ、ル、ハ、所、ノ、異、議、ヲ、  
 申、立、タ、ル、債、權、者、ノ、ミ、ニ、限、リ、其、他、ノ、債、權、者、ニ、至、テ、ハ、斯、ル、訴、權、ハ、許、與、ナ、キ、事、及、ヒ、原、判、決、ニ、於、テ、配、  
 當、表、ノ、實、施、後、之、ニ、不、服、ヲ、唱、ヘ、訴、ヲ、起、シ、テ、不、動、産、上、ノ、抵、當、權、ヲ、主、張、ス、ル、ニ、ハ、配、當、表、ニ、對、シ、異、議、  
 ヲ、申、立、タ、ル、ヲ、要、ス、ト、判、斷、シ、タ、ル、ハ、相、當、ニ、シ、テ、不、法、ニ、ア、ラ、サ、ル、事、ヲ、知、了、セ、ラ、ル、可、シ、終、リ、ニ、原、  
 判、決、書、ヲ、閱、ス、ル、ニ、其、事、實、揭、示、ノ、部、ニ、記、載、ノ、如、ク、上、告、人、ハ、(乙)第、二、號、證、委、任、狀、ノ、如、ク、丹、羽、九、郎、三、  
 郎、ナ、ル、者、ヲ、代、人、ト、シ、テ、配、當、實、施、ノ、期、日、ニ、出、頭、シ、異、議、ヲ、申、立、シ、メ、タ、ル、モ、只、配、當、調、書、ニ、之、ヲ、記、載、  
 セ、サ、ル、ノ、ミ、)云、々、ト、陳、述、シ、原、院、ハ、其、判、決、理、由、ニ、於、テ、右、ノ、陳、述、申、異、議、ヲ、申、立、タ、リ、ト、ノ、事、項、ヲ、排、斥、  
 シ、タ、ル、カ、爲、メ、原、判、決、ニ、於、テ、上、告、人、ハ、配、當、期、日、ニ、出、頭、シ、配、當、表、ヲ、閱、覽、シ、ナ、カ、ラ、之、ニ、對、シ、異、議、ヲ、  
 申、立、ス、同、意、ヲ、表、シ、タ、ル、モ、ト、認、メ、ラ、ル、ヘ、キ、次、第、ニ、付、キ、上、文、辯、明、ノ、如、キ、特、別、ノ、規、定、ヲ、設、セ、ス、啓、  
 通、ノ、條、理、ニ、於、テ、モ、上、告、人、ヨ、リ、配、當、表、ニ、對、シ、後、日、不、同、意、ヲ、唱、フ、ル、コ、ト、ヲ、得、サ、ル、理、合、ニ、シ、テ、上、告、  
 人、ノ、請、求、ハ、此、點、ニ、依、ル、モ、亦、排、斥、セ、ラ、ル、ハ、キ、モ、ノ、タ、リ、旁、々、原、判、決、ハ、上、告、論、旨、ノ、如、キ、不、法、ナ、シ、ト、  
 ス

上來說明ノ如ク本件上告ハ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百五十二條ニ依リ之ヲ棄却

スハキモノトス

### ○預納柏取戻請求ノ件

明治三十年十一月二十七日第一民事部判決

#### ○判決要旨

一 明治六年第二百十五號布告代人規則第五條ノ規定ハ專ラ注意ニ出テタルモノ  
 ニシテ委任狀ノ授受ナキカ爲メ其代理契約ヲ無効ト爲スノ意ニアラス(判旨第  
 四點)

(參照) 凡ソ本人ヨリ代人ヲ任シ他人ト契約取引等ヲ爲サント欲スルトキハ必ス實印  
 ナ押シタル委任狀ヲ與フヘシ但シ其家業ヲ取扱フ場所ニ於テ通常ノ事務ヲ取扱ハシ  
 ムルノ類ハ別段委任狀ヲ與フルニ及ハス(明治六年第二百十五號代人規則第五條)

第一審 青森地方裁判所 第二審 函館控訴院  
 上告人 久慈喜一 訴訟代理人 信岡雄四郎  
 被上告人 圓子權四郎  
 代人規則○委任狀ノ授受ナキ代理契約



右當事者間ノ預ケ縮箱取戻請求事件ニ付函箱控訴院カ明治三十年五月二十一日言渡シタル判  
決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點原列ハ乙壹號證一ハ控訴人ノ否認ニ係ルモ其總藏名下ニアル印影ト甲三號證ノ總  
藏名下ニ押捺シタル印影トヲ對照シ之レヲ視ルニ同一印影ニシテ毫モ異ナル所ナク云々說明  
セリ乙一號證ノ一ハ上告人ノ否認スル所且ツ私署證書ナレハ舉證者タル被上告人ハ檢眞其他  
適當ノ方法(筆蹟鑑定印鑑定等)ニテ其成立ノ眞正ナルヲ證明スルニ非レハ對抗ノ力ナキモノナ  
リ然ルニ原院又ハ第一審ニ於テ被上告人ハ是等適當ノ方法ヲ盡サ、リシニモ拘ラス甲第三號  
證ノ久慈總藏名下ノ印影ト對照シ異ナルナシトノ漫然タル理由ヲ付シ其成立ノ眞正ヲ認メラ  
レタリ且ツ甲三號證ハ原院ニ於テ被上告人ノ否認スル所ニシテ明治二十九年十月二十六日口  
頭辯論調書引用當事者雙方各認メサル證書ナニ通對照シ同一ナリトテ其眞正ヲ認ムル上ニ於  
テ何等ノ効ナキモノナリ然ルニ前記ノ如ク說明セシハ是理由不備且ツ採證ノ法則ニ違背シタ  
ル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○私署證書ノ否認トハ其署名者若クハ其相續人等ニ於テ  
之ヲ爲ス場合ヲ云フモノトス上告人ハ本案乙第一號證ノ署名者若クハ其相續人等ニアラサル  
カ故ニ此場合ニ於テ上告人カ之ヲ否認スト云フハ其當ナ得サルナリ又甲第三號證ハ上告人ニ

於テ眞正ナリトシテ提出シタル證書ナルノミナラス原院ノ口頭辯論調書ヲ查閱スルニ被上告  
人ニ於テ甲第三號證ハ他人ノモノナレハ認否ヲ申立ルコト出來スト申立テ明カニ之レカ眞否  
ヲ爭ハス然ルヲ以テ原院カ乙第一號證ト甲第三號證トノ久慈總藏名下ノ印影ヲ對照シテ其眞  
正ナルコトヲ認メタルモ上告論旨ノ如キ不法ノ裁判ニアラス

上告第二點原判決ハ控訴人ト久慈總藏トハ叔甥ノ間柄ニシテ乙一號證ノ二乃至五ニ掲クル被  
控訴人ノ債務ハ素ト同人ヨリ總藏ニ對スルモノヲ書改メタルコトハ控訴人ニ於テモ認ムルノ  
ミナラス其金額及貸借ノ年月日モ亦乙一號證一ノ前段ニ表示スル金額及貸借ノ年月日等ニ相  
符合スルヲ視レハ控訴人ト總藏トハ親戚ノ關係アルヲ以テ控訴人ノ合意上總藏ハ控訴人ニ代  
リ正實ニ乙一號證一ノ如ク締結シタルニ因リ今日被控訴人ノ手裡ニ乙一號證一ニ依レハ單ニ其前段ニ  
掲クル金額ノミニ付濟方トナリタル文意ニ止マラス明治十八年一月中授受シタルモノモ亦其  
効ナキコト明瞭ナリ云々說明セリ乙一號證ノ二乃至五ノ被上告人ノ債務ハ被上告人カ久慈總  
藏ニ對シテ負フ處ノ債務ヲ上告人債務ノ名義ニ書キ改メタルコトハ被上告人ノ原院ニ於ケル  
答辯ナリ而シテ乙一號證一ハ被上告人カ總藏ニ對シ負ヒシ處ノ債務ニ付キ切金シタルコトハ  
是又被上告人ノ原院ニテ自陳スル處ナリ(明治二十九年十月二十六日辯論調書引用)尙ホ甲一號  
證ハ元來被上告人ヨリ上告人ニ對スル債務ナルコトハ被上告人ノ認ムル所ナリトス(明治二十  
九年十月二十六日辯論調書引用)此點ニ付被上告人ハ甲一號證ハ差入レタルニ相違ナキモ現品



預ラスト主張スルモ右ハ甲一號證々書面記載ノ事項ニ抵觸スル申立ニシテ其申立ノ信ヲ置クニ足ラサルハ勿論ナリ而シテ甲一號證ハ乙一號證ノ二乃至五ニ關係ナク成立シタル債務ナルコト被上告人陳述ニテ明瞭ニシテ一點ノ疑ハナキモノナルニモ係ハラヌ原院ニ於テ乙一號證ノ一ニ含ミ居ルモノ、如ク說明シ上告人ノ請求ヲ排斥セシハ理由不備ノ判決ナリト云フニ在レトモ○乙一號證申明治十八年以前ニ係ル證書類雙方ニ有之候トモ一切無効タルヘシトノ記載アリ而シテ甲一號證ハ明治十八年一月三十一日ノ成立ニシテ即チ明治十八年六月以前ニ係ルモノナレハ原院カ乙一號證ノ記載ニ依テ甲一號證ヲ無効ニ歸シタルモノト判定シ以テ其理由ヲ說明シタルモノナレハ原院判決ハ理由不備等ノ不法アルコトナシ

上告第三點原院判決ハ○細ノ如キ現物ヲ控訴人ノ主張スルカ如ク拾數年間實際預ケ置キタル事實アリト信スルヲ得サレハ控訴人ハ被控訴人ニ對シ本請求ヲ爲スヘキ權利ナキモノトスレ云々說明セリ前段論スル如ク甲一號證ハ當事者間ニ授受相成リタルモノナレハ其當時ニ於テ物件ノ授受アリシハ明瞭ノコトナリ既ニ然ラハ被上告人ヨリ其權利關係ノ滅失ヲ證明セサル以上ハ甲一號證ノ權利存在シタリト認ムヘキヲ相當トス況ンヤ○細ノ如ク代替物ナルニ於テオヤ然ルニ被上告人ノ權利消滅ニ付何等ノ立證ナキニ前記ノ通り說明シ去リタルハ是亦理由不備ニシテ且證據ニ關スル法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリト云フニ在レハ○本案訴訟記録ヲ査閱スルニ所爭ノ○細細細細ハ現品ヲ以テ預ケタリトハ上告人ノ主張スル所ニシテ且ツ上告人ハ其現品取戻シヲ請求シ若シ其現品存在セサルニ於テハ其代價ノ辨償ヲ請求スト云フニアルコト

明瞭ニシテ代替物ノ請求ニアラサレハ原院カ○細細細細ノ如キ現物ヲ十數年間實際預ケ置キタル事實アリト信スルヲ得ストト說明シタルハ不當ニアラス況ンヤ上告第二點ニ於テ說明セシ如ク原院ハ既ニ甲一號證ハ乙一號證ニ依テ無効ニ歸シタルコトヲ判定シタルモノニシテ本上告點ニ於ケル原院ノ說明ノ如キハ其附加ノ理由ニ過キサルモノニ於テテヤ故ニ上告論旨ハ適法ノ理ナシ

上告第四點代理委任ニハ法律上委任狀ヲ必要トスルコトハ明治六年第二百十五號布告代人規則第五條三(上略)必ス實印ヲ押シタル委任狀ヲ與フ可シト規定シ其第二項ニ於テ例外ノ場合ヲ揭ケ又同第七條ニ於テ委任狀ノ書式ヲ定メタル等ニ依リテ明瞭ナリ然ルニ被上告人ハ訴外久慈龜藏カ上告人ノ委任狀ヲ所持セル事實ヲ申立テ又之レカ立證ヲモ爲サヌ原院モ亦其事實ヲ認メスシテ漫然控訴人ノ合意上龜藏ハ控訴人ニ代リ正實ニ乙一號證ノ一ノ如ク締約シタルニ因リ云々ト判決シ龜藏ヲ以テ上告人ノ代理人ナリト斷定セラレタルハ代人規則ニ違背シタル違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○明治六年第二百十五號布告代人規則第五條ハ規定ハ專ラ注意ニ出テタルモノハニシテ委任狀ハ授受ナキカ爲メ其代理契約ヲ無効ト爲スヘキハ意ニアラヌ故ニ原院カ其委任狀ナキモ他ノ證據ニ據リ龜藏カ上告人ノ代理者ト認メタレハトテ之ヲ以テ代人規則ニ違背シタル不法ノ判決ト云フヲ得サルモノナリ

上告第五點私署證書ト雖トモ相手方カ之ヲ認メタル場合ニ於テハ最モ強大ナル證據力ヲ有スルモノニシテ單ニ裁判官カ其事實ヲ信用スルヲ得スト云フヲ以テ之ヲ排斥シ得ヘキモノニ非

判旨第四點

代人規則○委任狀ノ授受ナキ代理契約



サルハ殆ント論ヲ俟タス而シテ本件甲第一號證預リ證書ハ被上告人ノ認ムル所ナルニ原院カ「嗣ハ柏ノ如キ現物ヲ云々十數年間實際預ク置キタル事實アリト信スルヲ得サレハ控訴人ハ被控訴人ニ對シ本請求ヲ爲スヘキ權利ナキモノトス」ト判決セラレタルハ證據ニ關スル法則ヲ不當ニ適用セラレタルモノナリト云フニ在レトモ○本案ノ争點ハ甲第一號證ノ成立如何ニ在ラヌシテ甘鯛ハ柏カ現物ニテ預ケタルモノナルヤ否ヤニ在リ而シテ被上告人ハ現物ニテ預リタルモノニアラストシテ之ヲ争フモノナリ此場合ニ於テ裁判所ハ他ノ證據アルニ於テハ現物ヲ預ケタルモノニアラスト判定シ得ヘキハ勿論ナリ況ンヤ原判決ハ上告第三點ニ於ケル末段ニ說明セシ如クナルニ於テオヤ

以上說明セシ如ク上告論旨ハ總テ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ照シ之ヲ棄却スル所以ナ

○名譽回復請求ノ件

明治三十年第三百二十七號  
明治三十年十一月二十九日第二民事部判決

○判決要旨

一名譽回復ノ訴訟ニ於テ謝罪文ヲ交付スルコト、之ヲ新聞紙ニ廣告スルコトノ

二个ノ請求アルトキ其中如何ナル行爲ヲ以テ適當ノ處分ナリトスルヤヲ判定スルハ事實裁判官ノ職權ニ屬ス

第一審 岡山地方裁判所

第二審 大阪控訴院

上告人 三宅柳吉

訴訟代理人 岡崎正也

被上告人 河本鹿造

右當事者間ノ名譽回復請求事件ニ付大阪控訴院カ明治三十年五月二十六日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告論旨ハ本訴被上告人ノ請求ハ上告人カ被上告人ニ對シ其名譽ヲ毀損スヘキ暴言ヲ爲シタリトノ原因ニ基キ上告人ヨリ本件ノ謝罪文ヲ差出サシメ而シテ右謝罪文ヲ上告人名義ヲ以テ新聞紙上ニ廣告セシメントスルニ在リトス依テ右本訴第二請求ハ第一請求ノ成否如何ニ因リ決セラルヘキハ當然ノ筋合ナリトス蓋シ右本訴請求ノ趣旨ハ上告人ヲシテ右謝罪文ヲ差出サシメ同時ニ右謝罪文ヲ差出シタル事實ヲ發表スルカ爲メ上告人名義ヲ以テ右謝罪文ノ廣告ヲ爲サシメントスルモノナレハ已ニ謝罪文ヲ差出スヘキ義務ナキ以上ハ從テ右謝罪文ヲ差出シ

名譽回復ノ適當處分



タル廣告ヲ爲スヘキ義務ナキハ當然ニシテ二者離ルヘカラサル筋合ナリトス然ルニ原裁判ニ於テハ上告人ニ於テ右謝罪文ヲ差出スヘキ義務ナキ事ヲ認メラレタルニ不拘右謝罪文ヲ上告人名義ヲ以テ事實之ヲ差出シタルモノ、如ク新聞紙上ニ廣告ヲヘキ義務アリト判決セラレタルハ判決ノ基本タル理由ニ於テ阻礙既觸ヲ免レサル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○依テ訴訟記録ヲ査閲シ之ヲ審察スルニ本件被上告人カ原院ニ於テ爲シタル一定ノ申立ハ第一審判決ノ全部ヲ廢棄ス被控訴人ハ控訴人ノ名譽回復ノ爲メ左ノ謝罪文ヲ控訴人ニ引渡シ并ニ中國日報岡山日報山陽新報廣告欄内へ五號活字ヲ以テ三日間廣告スヘシ云々トアリテ即チ謝罪文ヲ上告人ヨリ被上告人ニ交付スル事ト其謝罪文ヲ三新聞紙上ニ廣告スル事トノ二個ノ請求ヲ爲シタルモノナリ而シテ原院ハ其判決主文ニ「原判中ノ一部ヲ廢棄ス被控訴人ハ控訴人ノ名譽回復ノ爲メ控訴狀ニ記載ノ謝罪文ヲ中國日報岡山日報及ヒ山陽新報ノ三新聞廣告欄内へ五號活字ヲ以テ三日間廣告スヘシ云々ト」掲ケ其理由トシテ「前畧被控訴人ハ控訴人ノ名譽ヲ回復スル爲メ其請求ニ應ジ控訴狀記載ノ謝罪文ヲ新聞紙ニ廣告スヘキハ相當ノ處分ト認ム然レモ控訴人カ被控訴人ニ對シ控訴狀記載ノ如キ謝罪文ヲ被控訴人ヨリ控訴人ニ引渡スヘシトノ請求ハ本案ニ付名譽回復ヲ爲ス適當ノ處分ト認メ難キヲ以テ其請求ハ之ヲ排斥ス云々ト」説明シタルモノトス而シテ本件ノ場合ニ於テ如何ナル行爲ヲ以テ適當ノ處分ト爲スヤ否ヤヲ判定スルハハ原院ハ職權ニ屬スルヲ以テ數箇ノ請求中其一ヲ採テ其他ヲ排斥スルモ之ヲ不當ト云フヲ得ヌ要スルニ上告論旨ハ原院ハ職權ニ立入り徒ニ苦情ヲ述フルモノニシテ上告ノ理由トスルニ足

カス

上文辯明ノ如ク本件上告ハ其理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ之ヲ棄却スル所以ナリ

○立木伐採權確認請求ノ件

明治三十年第三百五十五號  
明治三十年十一月二十九日第二民事部判決

○判決要旨

一 強制競賣ニ付テハ賣主ハ裁判所ノ認ムル最高價格ヲ以テ其目的物ノ所有權ヲ移轉セシムルコトニ付キ豫メ合意シタルモノト見做スヘキハ當然ナリ從テ強制競賣ニ於テモ合意カ所有權移轉ノ要素タルコトハ普通競買ト異ナルコトナシ(判旨第一點)

第一審 甲府地方裁判所谷村支部 第二審 東京控訴院

上告人 小俣龜右衛門 訴訟代理人 芹澤孝太郎

被上告人 中村正信 矢野祐儀

強制競賣



右當事者間ノ立木代採權確認請求事件ニ付明治三十年六月十六日東京控訴院カ言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點ハ原判文ニ於テ凡山林ノ賣買トイフハ地盤ト立木トハ之ヲ合併シテ賣買シタルモノト認ムヘキハ當然ナリト雖是一應ノ推定タルニ過キス故ニ或事情ニ依リ之ヲ分離シテ賣買シタルモノト推定シ得ヘキハ論ヲ俟タスト説明シ以テ本件ノ競賣中ニ立木ヲ包含セザル旨ヲ判定シタルハ不當ニ法則ヲ適用シタル違法ノ裁判ナリ凡ソ一般ニ土地ト云ヒ又ハ山林ト云フトキハ其指稱スル所地上ノ木竹ヲ包括スルハ法律上當然ノ意義ナレトモ若シ殊ニ或ル場合ニ於テ所有者ノ意思兩者ヲ分別スルニ在ルコト明カナレトキハ裁判上其意思ニ從フテ之ヲ解釋スルハ亦固ヨリ相當ナリトス故ニ當事者ノ合意ニ因ルヘキ賣買ノ場合ニ於テハ其賣買證書中單ニ山林ト稱スルトキモ原裁判ノ如ク或事情ニ據テ兩者ヲ分離シテ賣買シタルト推定スルハ取テ不當ニアラスト雖本件ノ如ク強制競賣ヲ以テ所有權ヲ移轉シタル場合ハ大ニ之ト異リ其移轉タル索ヨリ所有者ノ意思ニ因ルモノニアラズシテ專ラ裁判所ノ決定スル所ナレハ決定ノ趣旨如何ヲ解釋スルハ一ニ裁判所ノ告示ニ據ルノ外毫モ所有者及競賣人ノ意思ヲ取ルヲ許サス然ルニ原裁判所カ當事者ノ合意ニ基ク山林ノ賣買ヲ以テ強制競賣ニ依ル山林ノ移轉ト同視

判旨第一點

シ前者ニ對スル解釋ノ法則ヲ取ツテ直チニ之ヲ後者ニ擬シタルハ所謂不當ニ法則ヲ適用シタル者ニテ其判決ノ違法タルハ固ヨリ論ヲ俟タスト云フニ在リ○按スルニ強制競賣モ一ハ賣買ナルニ依リ賣主ハ裁判所ノ認ムル最高價格ヲ以テ其目的物タル不動産ノ所有權ヲ移轉セシムルコトニ付豫メ合意ヲ爲シタルモノト見做スヘキハ當然ニシテ合意カ所有權移轉ハ要素ナルヘキコトニ付テハ強制競賣ト普通賣買トハ間ニ何等ハ差違アルヲ視ス故ニ原裁判所ハ上告人カ競落許可ヲ受ケタル山林ハ單ニ地盤ハミニシテ立木ヲ包含セストハコトヲ實價ト競賣金トハ差違即チ特殊ナル事情ニ基キ判定シタルハ相當ニシテ原判決ハ上告所論ノ如キ違法ナシ其第二點ハ原判文末項ニ乙第四號證ノ如キ本件競賣中ニハ立木ヲ包含セザルモノナリトノトヲ認メ得ヘキモノニ非スト判示セラレタルハ裁判ニ理由ヲ付セザル瑕瑾アルモノトス蓋シ乙第四號證ハ本件山林競落ニ付被上告人中村正信ヨリ執行裁判所ニ提出シタル抗告ニ對シ甲府地方裁判所ノ與ヘタル決定書ニシテ同書中被上告人カ本件ノ競賣立木ヲ包含スルモノト自認シ居ルヲ見ルヘキモノアリ何人モ之ヲ普通ニ解釋スレハ上告人ノ原裁判所ニ於テ主張シタル如ク被上告人ノ自認ヲ認ムヘキハ當然ナルニ原裁判所ハ右普通ノ解釋ノ取ルヘカラサル理由ヲ説明スルコトナクシテ單ニ本件立木ヲ包括シタリトノ證據トスルニ足ラスト判定シタルハ裁判ニ理由ヲ付セザル不法アルモノナリト云フニアルモ○本論旨ハ原裁判所ノ職權ニ立入り證據ノ取捨ヲ非難スルニ過キサレハ以テ上告適法ノ理由ト爲スニ足ラス

上文辯明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキニ依リ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ從



○大審院民事部裁判長及部員氏名表

第一民事部

裁判長

部長 判事 中村元嘉

部員

判事 井上正一

判事 小松弘隆

判事 岡村爲藏

判事 本多康直

判事 西川鐵次郎

判事 河村善益

本部ノ所管

人事、米穀、物品、證券、金錢

本部ノ開廷日

木曜日

判事氏名表

土曜日

第二民事部

裁判長

院長 判事男爵南部要男

部員

判事 寺島直

判事 増戸武平

判事 今村信行

判事 藤田隆三郎

判事 芹澤政温

判事 中尾真晃

判事 和田收藏

本部ノ所管

地所附水利、建物附家賃、損害要償、雜事

本部ノ開廷日

三



列傳名表

月 曜 日

水 曜 日

金 曜 日



大審院刑事判決錄



總目録

刑法

公賣ノ揭示札ノ文書トシテノ性質ノ事……………一  
二人以上共ニ人ヲ毆打シ其創傷等シキ場合ニ於ケル擬律ノ事……………三  
公商刑法附則第五十五條ノ認定ノ事……………六  
公商ニ依ラスンテ賣買シタル贓物ノ無償還給ノ事……………二  
外國人ニシテ本邦人カ其事情ニ通セサルヲ奇貨トシ名ヲ金融ニ藉リ金  
圓ヲ騙取シタル所爲ノ事……………元  
町村助役ノ公文書保管ノ責任ノ事……………二  
例外ノ沒收ノ事……………七  
賭具ノ附屬物ノ沒收ノ事……………七  
犯罪ノ直接ノ用ニ供セサル賭博器具ノ沒收ノ事……………七  
偽證罪ノ自首(刑法第二百二十六條)ハ公訴提起後ニ適用セサル事……………四  
委托物費消罪ノ目的物ハ贓物ナリトノ事……………三



他人ノ盜捺セシ印影ヲ行使シタル所爲ノ事..... 一五

官衙保存ノ偽造文書ノ沒收ノ事..... 一六

紙幣偽造ノ認定ノ事..... 一七

町村組合ノ管理者ニシテ其監守ニ係ル金員有價證券等ヲ竊取シタル所爲ノ事..... 一〇一

藥品ヲ使用シテ廢紙ニ押捺シタル印影ヲ白紙ニ寫取り之ヲ他ノ證書ニ轉寫シタル所爲ノ事..... 一〇二

實父名義ノ小切手ヲ偽造シ銀行ヨリ金圓ヲ騙取シタル所爲ノ事..... 一〇三

證書面ノ返濟期日ヲ變更シタル所爲ノ事..... 一〇四

強姦負傷罪ノ性質ノ事..... 一〇三

詐欺取財ヲ爲スニ因ル官文書偽造行使ノ所爲ノ事..... 一〇七

官文書偽造ニ因ル官印偽造ノ所爲ノ事..... 一〇七

刑事訴訟法

重罪公判下調ノ受命判事ノ公判ニ參座セザル事..... 一〇

重罪公判ノ下調々書ニ於ケル被告人ノ署名捺印ノ事..... 一〇

判決ヲ以テ公判始末書ニ於ケル記事ノ誤謬ヲ訂正シ得ヘキ事..... 一三

公商(刑法附則第五十五條)ノ認定ノ事..... 一六

檢事ノ作成シタル檢證調書ニ於ケル關係人ノ供述ノ事..... 二〇

檢證處分ト其調書作成トノ間ニ遷延ノ事情アル場合ニ於ケル調書ノ効力ノ事..... 二五

事實參考人ノ調書ヲ以テ證人ノ調書トシテ斷罪ノ資料ニ供シタル裁判ノ事..... 二六

新證憑ニ基キ再起訴ヲ爲ス場合ニ於テ免訴前ノ書類ヲ證據トナシタル裁判ノ事..... 三四

訴訟記録錯誤ノ再審ノ事..... 四七

告訴ノ拋棄ニ因テ公訴權消滅シタル場合ニ於ケル公訴ノ處分ノ事..... 四九

一個ノ控訴ニ對スル二個ノ判決ノ事..... 五〇

止宿人ノ性質ノ事..... 五九

雇人ノ意義ノ事..... 六一



豫審決定ノ効力ノ事..... 六九

重罪事件ニ付被告數名ニ對シ一名ノ辯護人ヲ選定シタル措置ノ事..... 七〇

紙幣偽造ノ認定ノ事..... 七〇

判決ノ形式ノ事..... 七〇

判決ノ實體ノ事..... 七〇

公訴判決ノ擬律點ヲ破毀セシ場合ニ於ケル私訴判決ニ及ホス効力ノ事..... 七〇

不利益ノ變更ノ意義ノ事..... 七〇

犯罪ニ因テ生シタル義務ノ追認ノ事..... 七〇

事實ノ認定ト法律ノ適用ト齟齬シタル擬律錯誤ノ判決ノ事..... 七〇

被告人カ辯護人ヲ用フル權利行使ノ範圍及ヒ時期ノ事..... 七〇

告訴調書ノ効力ノ事..... 七〇

町村制

町村助役ノ公文書保管ノ責任ノ事..... 七〇

酒造税法

酒類請賣營業人ノ代理人ニシテ酒造税法ニ違犯シタル場合ニ於ケル制  
裁ノ事..... 七五



事件目錄

事件	關係事項	判決日付	番號	訴訟關係人	丁數
公文書偽造行使ノ件	公賣指示札ノ信憑力	十一月一日	七七二號	被告 宮内文三郎	一
官文書偽造ノ件	下調ノ受命印事、下調々書ノ署名	十一月一日	八〇八號	被告 寺田升四郎	二
毆打創傷ノ件	二人共毆、公判始末書ノ訂正	十一月一日	八二三號	被告 橋本倉吉	三
詐欺取財私訴ノ件	公商ノ認定	十一月一日	八七六號	原告 藤岡政太郎 被告 藤岡政太郎	三
故殺未遂ノ件	檢事ノ臨檢調書	十二月二日	七八七號	被告 藤岡政太郎	三
私書偽造行使詐欺取財ノ件	贓物ノ還給	十二月二日	九一二號	原告 藤岡政太郎 被告 藤岡政太郎	三
謀殺ノ件	檢證調書作成ノ遷延	四月四日	八九四號	被告 梅田鐵吉	三
竊盜ノ件	調書ノ採擇	四月四日	九二〇號	被告 酒井爲之助	三
詐欺取財ノ件	詐欺取財罪ノ構成	四月四日	九九七號	被告 桑原那一	三
公文書偽造行使ノ件	公文書保管ノ責任	四月四日	一〇一六號	被告 桑原那一	三

事件目錄



事件目録

- 毆打致死ノ件
- 賭博ノ件
- 偽證ノ件
- 委託物費消ノ件
- 強盜再審ノ件
- 有夫姦ノ件
- 詐欺取財ノ件
- 印影盗用私書偽造等ノ件
- 強盜殺人ノ件
- 監守盜ノ件
- 私印盗用等ノ件
- 私書偽造行使等ノ件

再起訴ノ證據	五十一日	八五三號	被告	永井庄三郎	二
例外ノ沒收、賭具ノ附屬物、賭具總體ノ沒收	五十一日	九二八號	被告	伊藤武起助	三
偽證罪ノ自首	五十一日	九八九號	被告	長野京藏	四
委託物費消罪ノ贓物	八十一日	九九三號	被告	川崎新三郎	五
訴訟記録錯誤ノ再審	八十一日	再審五九號	被告	大塚峰藏	六
告訴ノ拋棄ニ因ル告訴ノ處分	九十一日	八三三號	被告	岩田高造	七
一控訴ニ對スル二判決	九十一日	八四〇號	被告	和田是運	八
他人盜捺ノ印影行使	九十一日	九三八號	被告	清水條之助	九
止宿人ノ性質	十一日	九五四號	被告	横山幾太郎	十
雇人ノ意識	十一日	一〇〇四號	被告	猪股正規	十一
官衙保存ノ偽造文書	十二日	九六四號	被告	加藤一二	十二
豫審決定ノ効力	十五日	六九〇號	被告	水野次郎	十三

紙幣偽造行使等ノ件

- 監守盜等ノ件
- 詐欺取財ノ件
- 監守盜ノ件
- 私印盗用等ノ件
- 酒造税法違反ノ件
- 詐欺取財私訴ノ件
- 私印盗用等ノ件
- 拐帶及詐欺取財ノ件

被告數名ノ辯護人、偽造紙幣ノ認定	十五日	七九八號	被告	澤山喜四郎	一
判決ノ形式、判決ノ實體、疑律點ノ破毀	十五日	八〇九號	被告	竹崎伊藏	二
不利許變更ノ意識	十五日	八七三號	被告	淺野鐵次郎	三
町村組合管理者ノ監守盜	十六日	七四四號	被告	二宮興讓	四
印影ノ轉寫	十六日	九三六號	被告	足立源左衛門	五
酒造税法ノ違反	十六日	九八五號	被告	四方民之助	六
犯罪ニ因テ生シタル義務ノ追認	十九日	八〇五號	被告	川上文次郎	七
疑律錯誤	十九日	九六二號	被告	阪本平次郎	八
辯護人ヲ用フル權利	十九日	一〇〇〇號	被告	青山吉松	九

事件目録



事件目録

私書偽造行使ノ件  
強姦致傷ノ件  
官文書偽造等ノ件

返濟期日ノ變更	十一月二十日	一〇四四號	被告	原山 勇	一三〇
強姦致傷ノ性質、告訴調書ノ効力	十一月二十日	一〇四六號	被告	藤卷 新作	一三一
實質上ノ一罪	十一月二十九日	八九五號	被告	押領司 佐市	一三二

四

いろは索引

此索引ハ専ラ法律上ノ用語ニ依リ其頭音ヲ取テいろはノ順ニ從テ排列編纂ス止ムヲ得サルニ非サルハ形容詞若クハ普通名詞ヲ用ヒス〇頭音ハ必スシモ字音ノ假名遣ニ拘ハラヌ人ノ通常言フ所ノ音聲ニ據ル例之ほうチほうニ入ルトカ如シ

[S]

委托物費消罪ノ贓物

委托物費消罪ノ目的物ハ贓物ナリ

一控訴ニ對スルニ判決

全部控訴ノ場合ニ於テ其一部ニ對シテ理由アリ他ノ部ニ對シテ理由ナキトキハ當然ニ個ノ判決ヲ爲スヘキモノトス

印影盗用罪ノ成立

(他人盗捺ノ印影行使。參看)

印影ノ意義

(他人盗捺ノ印影行使。參看)

印影ノ轉寫

藥品ヲ使用シテ廢紙ニ押捺シタル印影ヲ白紙ニ寫取リ之ヲ他ノ證書ニ轉寫シタル所爲ハ私印盗用罪ニシテ私印偽造罪ニアラス

印影偽造ノ詐欺取財ニ伴隨スヘキ所爲

(實質上ノ一罪。參看)

いろは索引

丁數

五

一〇三

[は]

判決ニ依ル訂正

(公判始末書ノ訂正。參看)

判決

(告訴ノ拋棄ニ因ル公訟ノ處分。一控訴ニ對スルニ判決。參看)

判決ノ形式

認定シタル事實及ヒ適用スヘキ法則ヲ明示スルハ判決ノ形式ナリ

判決ノ實體

認定シタル事實ニ對シ法則ニ規定シタル範圍内ニ於テ適當ノ刑ヲ當行スルハ判決ノ實體ナリ

犯罪ニ因テ生シタル義務ノ追認

犯罪ニ因テ生シタル義務ハ不成立ナルヲ以テ追認スルヲ得ス

二人共毆

二人以上共ニ人ヲ毆打スルモ其創傷ニシテ等シキトキハ刑法第三百五條ヲ適用セス

六

六

二七

三



〔ほ〕

認定 (公商ノ認定、偽造紙幣ノ認定。參看)  
沒收 (例外ノ沒收、賭具ノ附屬物、賭具總體ノ沒收。官衙保存ノ偽造文書。參看)  
保存文書ノ沒收 (官衙保存ノ偽造文書。參看)  
辯護人ノ選定 (被告數名ノ辯護人。參看)

〔へ〕

辯護人ヲ用フルノ權利 (被告ノ辯護人ヲ用フル權利ハ公判ノ進行ヲ妨ケサル範圍内ニ於テ之ヲ行フコトヲ得ヘシ從テ公判開廷ノ際ニ至リ辯護人ヲ用フル爲メニ延期ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ聽許セサルモ不法ニナラス)  
返濟期日ノ變更 (出訴期限ヲ經過シタル證書面ノ返濟期日ヲ變更シ未タ出訴期限ヲ經過セサルモノ、如何ク作成シタル所爲ハ私書變造行使罪ヲ構成ス)

〔と〕

賭具ノ附屬物 (賭具ヲ入レタル箱ハ賭具ノ附屬物ナリ從テ

〔ち〕

現場ニ在ルトキハ之ヲ沒收ス  
賭具總體ノ沒收 (犯罪直接ノ用ニ供シタルト否トチ間ハス現場ニ在ル賭博ノ器具ハ總テ之ヲ沒收ス)  
同居人 (止宿人ノ性質。參看)  
調書ノ效力 (檢證調書作成ノ遷延。告訴調書ノ効力。參看)  
調書ノ採擇 (事實參考人ノ調書ヲ以テ證人ノ調書トシテ斷罪ノ料ニ供シタル裁判ハ不法ナリ)  
町村助役ノ責任 (公文書保管ノ責任。參看)  
町村組合管理者ノ監守盜 (町村組合ノ管理者ニシテ其監守ニ係ル金員有價證券等ヲ竊取シタルトキハ監守盜罪ヲ構成ス)  
毆打創傷 (二人共贓。參看)  
公ノ雇人 (雇人ノ意義。參看)

〔を〕

三三三

〔わ〕

私ノ雇人 (雇人ノ意義。參看)

〔か〕

關係人ノ供述 (檢事ノ檢證調書。參看)  
還給 (贖物ノ還給。參看)

外國人ノ作偽 (詐欺取財罪ノ構成。參看)

官吏 (雇人ノ意義。參看)

官衙保存ノ偽造文書 (偽造文書ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリ從テ官衙ニ保存スルモノト雖モ亦之ヲ沒收ス)

監守盜 (町村組合管理者ノ監守盜。參看)

〔よ〕

豫審決定ノ効力 (豫審ノ決定ハ公判ノ判決ヲ拘束セス)

〔九〕

他人盜捺ノ印影行使 (印影盜用罪ハ其影蹟ヲ行使スルニ因テ成立ス從テ他人ニ於テ盜捺シタル印影ナリト雖モ之ヲ行使シタル者アルトキハ其行使者ハいろは索引)

三三三

〔れ〕

印影盜用罪ヲ犯シタルモノトス  
代理人ノ酒造税法違犯 (酒造税法ノ違犯。參看)  
例外ノ沒收 (刑法第二百六十一條第二項ハ同法第四十四條ノ例外ナリ)

〔そ〕

贖物ノ還給 (公商ニ依リ買取シタル贖物ヲ除ク外現所有者ハ被害者ニ無償還給ヲナスヘキモノトス)  
贓物 (委託物毀消罪ノ贓物。參看)

〔む〕

訴訟記録錯誤ノ再審 (公正證書ヲ以テ犯罪ノ當時二十歳未満ノ者ニ對シ減等セスシテ判決シタルコトヲ證明シタルトキハ再審ノ訴ヲナスコト得)

〔な〕

仲次營業 (公商ノ認定。參看)

〔む〕

無償還給 (贓物ノ還給。參看)

〔や〕

無免許酒類製造 (酒造税法ノ違犯。參看)  
雇人ノ意義



いろは索引

ひ

刑事訴訟法第二百三條第四號ニ所謂雇人トハ一人ニ雇傭セラルト者ヲ指示シ官吏公吏ヲ包含セス

揭示札

(公賣揭示札ノ信憑力。參看)

検事ノ作成シタル檢證調書ニシテ關係人ノ供述ヲ録取シタルトキハ其摺印捺印アルヲ要ス然ラサレハ其供述ヲ證據トナスヲ得ス

檢證調書作成ノ遷延

檢證區分ト其調書作成トノ間ニ遷延ノ事述アルモ不法ニアラス

決定ノ効力

(豫審決定ノ効力。參看)

不利益變更ノ意義

刑事訴訟法第二百六十五條第一項ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サストハ原判決ヲ變更シテ其刑ヲ重クシ又ハ原判決ノ認メサル刑ヲ認ムルコトヲ許サストノ法意ナリ

不成立ノ義務追認

四

こ

(犯罪ニ因テ生シタル義務ノ追認。參看) 文書偽造ノ詐欺取財ニ伴隨スヘキ所爲

公賣揭示札ノ信憑力

(實質上ノ一罪。參看) 公賣ノ揭示札ハ之ヲ揭示セサル以前ニアリテモ其性質上信憑力ヲ有スル文書ナリトス

公判ニ參座セサル受命判事

(下調ノ受命判事。參看)

公判始末書ノ訂正

判決ヲ以テ公判始末書ニ於ケル記事ノ誤謬ヲ訂正スルコトヲ得

誤謬ノ訂正

(公判始末書ノ訂正。參看)

公商ノ認定

材木賣買ノ仲次營業者ヲ以テ刑法附則第五十五條ニ所謂公商ト認ムヘキモノナルヲ否ヤノ問題ハ事實上ノ判斷ニ屬スヘキモノトス

公商ノ賣買

(贓物ノ還給。參看)

六

五

三

ふ

公文書保管ノ責任

町村助役ハ町村ノ公文書類ヲ保管スルノ責任ヲ有ス

公訴提起後ノ自首

(偽證罪ノ自首。參看)

告訴ノ拋棄ニ因ル公訴ノ處分

告訴ノ拋棄ニ因テ公訴權消滅シタル場合ト雖モ一旦正當ニ提起セラレタル公訴ノ處分ハ判決ヲ以テ之ヲ終局ス

公訴ノ處分

(告訴ノ拋棄ニ因ル公訴ノ處分。參看)

公吏

(雇人ノ意義。參看)

公訴判決ト私訴判決トノ關係

(擬律點ノ破毀。參看)

小切手ノ偽造行使

(擬律點。參看)

公判進行中ニ於ケル辯護人選定ノ申請

(辯護人ヲ用フルノ權利。參看)

強姦負傷罪ノ性質

いろは索引

二

四

さ

て

強姦致傷罪ハ一罪ニシテ強姦ト創傷ト各別ニ一罪ヲ構成スルモノニアラス

告訴調書ノ効力

一旦適法ニ作成セラレタル告訴調書ハ告訴取下ノ爲メ無効ニ歸スヘキモノニアラス

訂正

(公判始末書ノ訂正。參看)

參考人ノ調書

(調書ノ採擇。參看)

詐欺取財罪ノ構成

外國人ニシテ他人ニ金錢ヲ貸與スルノ資力ナク又金融ヲナスノ信用ナキニ拘ラス本邦人カ其事情ニ通セサルヲ奇貨トシ金融ニ名ヲ籍リ金圓ヲ騙取シタル所爲ハ詐欺取財罪ヲ構成ス

再起訴ノ證據

新證據ニ依リ再起訴ノ提起アリタルトキハ免訴前ニ於テ蒐集シタル書類モ亦事件ノ證據ニ供スルコトヲ得

再審

(訴訟記録錯誤ノ再審。參看)

錯誤ノ記録ニ基ケル判決

五

三

元

三



いろは索引

【き】

（訴訟記録錯誤ノ再審。参看）  
 詐欺取財ヲ爲スニ因リ文書ヲ偽造シタル所爲  
 （實質上ノ一罪。参看）  
 共毆  
 （二人共毆。参看）  
 供述ノ證據  
 （檢察ノ檢證調査。参看）  
 金融名義ノ詐欺  
 （詐欺取財罪ノ構成。参看）  
 偽證罪ノ自首  
 刑法第二百二十六條ハ偽證罪ノ公訴提起後ニ自首シタル場合ニ適用セス  
 偽造文書ノ沒收  
 （官衙保存ノ偽造文書。参看）  
 禁制物件  
 （官衙保存ノ偽造文書。参看）  
 偽造紙幣ノ認定  
 偽造紙幣ナリト否ノ事實ヲ認定スルハ承審官ノ職權ニ屬ス  
 擬律點ノ破毀  
 公訴ノ判決ヲ破毀スル場合ト雖モ其破毀ノ

六 七

【こ】 【め】

點ハ單ニ擬律ノ部ニ止マルトキハ私訴ノ判決ニ何等ノ影響ヲ及ボサス  
 擬律錯誤  
 事實ノ認定ニ於テ實父名義ノ小切手ヲ偽造シ銀行ヨリ金圓ヲ騙取シタル所爲アルコトヲ認メナカラ法律ノ適用ニ至リ實父ヲ以テ被害者ナリトシテ論罪ノ言渡ヲ爲シタル裁判ハ擬律錯誤ノ不法アリ  
 免訴前ノ蒐集證據  
 （再起訴ノ證據。参看）  
 信憑力  
 （公賣指示札ノ信憑力。参看）  
 下調ノ受命判事  
 重罪公判ノ下調ハ其事件ヲ裁判スル裁判長又ハ受命判事ニ於テ爲スヘキモノトス然レトモ其判事ニシテ疾病事故アリテ公判ニ參座スルコト能ハサルカ爲メ他ノ判事ニ代リテ參座スルコトアルモ其下調ハ不法ニアラス  
 受命判事ノ下調  
 （下調ノ受命判事。参看）  
 下調々書ノ署名

10

重罪公判ノ下調々書ニハ被告人ノ署名捺印アルヲ必要トセス  
 署名捺印  
 （檢察ノ檢證調査。参看）  
 證人ノ調書  
 （調査ノ採擇。参看）  
 助役ノ責任  
 （公文書保管ノ責任。参看）  
 新證據ノ再起訴  
 （再起訴ノ證據。参看）  
 自首  
 （偽證罪ノ自首。参看）  
 止宿人ノ性質  
 止宿人ハ同居人ニアラス  
 重罪事件ノ辯護人  
 （被告數名ノ辯護人。参看）  
 紙幣偽造ノ認定  
 （偽造紙幣ノ認定。参看）  
 私訴判決ト公訴判決トノ關係  
 （擬律點ノ破毀。参看）  
 酒造税法ノ違犯  
 酒類賣買營業人甲者ノ代理人乙者ニシテ其

いろは索引

二五

天

【ひ】

業務擔當中免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタルトキハ乙者ハ酒造税法第二條第二十二條ノ制裁ヲ免カルトナ得ス  
 出訴期限後ノ證書ヲ變造シタル所爲  
 （返濟期日ノ變更。参看）  
 時効後ノ證書ヲ變造シタル所爲  
 （返濟期日ノ變更。参看）  
 實質上ノ一罪  
 詐欺取財ヲ爲スニ因リ官文書ヲ偽造行使シタル所爲ハ實質上ノ一罪ニシテ刑法第三百九十九條第二項ニ依リ重キ官文書偽造行使ノ一罪ト成リ別ニ詐欺取財罪ヲ構成セス而シテ官文書偽造ニ因ル官印偽造モ亦刑法第二百六條ニ依リ重キ官印偽造ノ一罪ナリ從テ詐欺取財ヲ爲スニ因リ官文書及ヒ官印ヲ偽造行使シタル所爲ハ數罪俱發ヲ以テ論スヘキモノニアラス  
 被告人ノ署名捺印  
 （下調々書ノ署名。参看）  
 費消罪ノ贓物  
 （委託物費消罪ノ贓物。参看）  
 被告數名ノ辯護人  
 重罪事件ニ付被告數名ニ對シ一名ノ辯護人ヲ選定スルモ不法ニアラス

七

七

一



法 文 表

	丁數
刑法	
四四條.....	三七
二〇六條.....	三七
二二六條.....	四二
二六一條二項.....	三七
三〇五條.....	三
三九〇條二項.....	一七
刑事訴訟法	
一二三條四號.....	六一
二六五條一項.....	六
刑法附則	
五五條.....	一六
酒造稅法	
二條.....	一五
二二條.....	一五

法文表



月日目錄

宣告月日  
十一月一日  
十一月一日  
十一月一日  
十一月二日  
十一月二日  
十一月四日  
十一月四日  
十一月四日  
十一月五日  
十一月五日  
十一月五日

月日目錄

番號  
七七二號  
八〇八號  
八二三號  
八七六號  
八七九號  
九一二號  
八九四號  
九二〇號  
九九七號  
一〇一六號  
八五三號  
九二八號  
九八九號

判決結果  
棄却  
棄却  
棄却  
棄却  
破毀  
棄却  
棄却  
破毀  
棄却  
棄却  
棄却  
棄却  
棄却  
棄却

原裁判所  
東京  
長崎  
東京  
東京  
東京  
宮城  
大坂  
東京  
東京  
長崎  
東京  
宮城  
廣島

丁數  
一  
〇  
三  
六  
〇  
二  
五  
六  
元  
三  
三  
三  
四



十一月八日	九九三號	棄却	東京	二
十一月八日	再審五九號	破毀	長野重罪裁判所	四
十一月九日	八三三號	破毀	名古屋	五
十一月九日	八四〇號	棄却	宮城	五
十一月九日	九三八號	棄却	大阪	五
十一月十一日	九五四號	棄却	長崎	六
十一月十一日	一〇〇四號	棄却	長崎	六
十一月十二日	九六四號	棄却	名古屋	六
十一月十五日	六九〇號	棄却	東京	七
十一月十五日	七九八號	棄却	東京	七
十一月十五日	八〇九號	一部破毀	長崎	八
十一月十五日	九七三號	棄却	東京	九
十一月十六日	七四四號	棄却	廣島	一〇
十一月十六日	九三六號	一部破毀	名古屋	一〇
十一月十六日	九八五號	棄却	大阪	一五

十一月十九日	八〇五號	棄却	大阪	二七
十一月十九日	九六二號	一部破毀	大阪	三〇
十一月十九日	一〇〇〇號	棄却	宮城	三三
十一月廿二日	一〇四四號	棄却	東京	三三
十一月廿二日	一〇四六號	棄却	東京	三三
十一月廿九日	八九五號	一部破毀	長崎	三三

總計三十四件全部破毀……………二十六件  
 一部破毀……………四件



人名音字目錄

人名	番號	原裁判所	丁數
伊藤庫之助外二名 <small>被告</small>	九二八號	宮城	三
岩田高藏 <small>被告</small>	八三三號	名古屋	九
猪股正規 <small>被告</small>	一〇〇四號	長崎	六
石川茂吉外十三名 <small>被告</small>	七九八號	東京	七
市川質外三名 <small>被告</small>	八〇九號	長崎	八
橋本倉吉 <small>被告</small>	八二三號	東京	三〇
原山勇 <small>被告</small>	一〇四四號	東京	三〇
二宮興讓 <small>被告</small>	七四四號	廣島	三〇
小山田治右衛門外一名 <small>私訴被告 上告人</small>	九一二號	宮城	三
大塚峯藏 <small>被告</small>	再審五九號	見野重罪 裁判所	四
岡田壽寧外三名 <small>被告</small>	六九〇號	東京	六
大崎伊藏外三名 <small>被告</small>	八〇九號	長崎	六

人名音字目錄



人名音字目錄

押領司佐市被告.....八九五號 長崎 一七

和 田 是 逆被告.....八四〇號 宮城 一七

和 田 牧 太 郎 外 十 三 名 被 告.....七九八號 東京 一七

渡 邊 重 次 郎 外 一 名 被 告.....一〇〇〇號 宮城 一三

柿 崎 武 助 外 二 名 被 告.....九二八號 宮城 一七

加 藤 一 二 被 告.....九六四號 名古屋 一七

片 田 傳 左 衛 門 外 十 三 名 被 告.....七九八號 東京 一七

川 上 文 次 郎 外 十 三 名 被 告.....八〇五號 大阪 一七

橫 山 幾 太 郎 被 告.....九五四號 長崎 一七

四 方 民 之 助 被 告.....九八五號 大阪 一五

武 田 節 義 外 一 名 被 告.....八七六號 東京 一六

瀧 澤 菊 吉 外 三 名 被 告.....六九〇號 東京 一六

竹 崎 清 外 三 名 被 告.....八〇九號 長崎 一八

永 井 庄 三 郎 被 告.....八五三號 宮城 一三

長 野 京 藏 被 告.....九八九號 廣島 一四

わ

か

よ

た

な

む

う

く

ま

ふ

中 川 髮 治 外 十 三 名 被 告.....七九八號 東京 一七

中 川 榮 之 助 外 十 三 名 被 告.....七九八號 東京 一七

中 川 幸 七 上 告 入 被 告.....八〇五號 大阪 一七

梅 田 鐵 吉 被 告.....八九四號 東京 一五

上 原 莊 吉 外 十 三 名 被 告.....七九八號 東京 一七

上 原 幾 四 郎 外 十 三 名 被 告.....七九八號 東京 一七

桑 原 邦 一 被 告.....一〇一六號 長崎 一三

黑 川 新 助 上 告 入 被 告.....九九三號 東京 一四

窪 田 庄 治 外 十 三 名 被 告.....七九八號 東京 一七

前 田 清 外 一 名 被 告.....七七二號 東京 一七

松 澤 光 四 郎 外 十 三 名 被 告.....七九八號 東京 一七

藤 岡 政 太 郎 被 告.....七八七號 大阪 一〇

福 田 喜 助 外 十 三 名 被 告.....七九八號 東京 一七

福 田 武 次 郎 外 三 名 被 告.....八〇九號 長崎 一六

藤 卷 新 作 被 告.....一〇四六號 東京 一三

人名音字目錄



人名音字目錄

[こ]	小池倉 吉外十三名 <small>被告</small> .....	七九八號	東京	七
	小林五 市外十三名 <small>被告</small> .....	七九八號	東京	七
[え]	エス、セベリム <small>被告</small> .....	九九七號	東京	元
[て]	寺田升四郎 <small>被告</small> .....	八〇八號	長崎	二
	寺崎三郎 <small>被告</small> .....	九九三號	東京	四
[あ]	淺野鐵次郎 <small>被告</small> .....	九七三號	東京	九
	足立源左衛門 <small>被告</small> .....	九三六號	名古屋	二
[さ]	青山吉松外一名 <small>被告</small> .....	一〇〇〇號	宮城	三
	酒井爲之助 <small>被告</small> .....	九二〇號	東京	元
	酒井次郎外三名 <small>被告</small> .....	六九〇號	東京	六
	澤山喜四郎外十三名 <small>被告</small> .....	七九八號	東京	七
	阪井八郎次外十三名 <small>被告</small> .....	七九八號	東京	七
	阪本平次郎 <small>被告</small> .....	九六二號	大阪	三
[ま]	木村春 東 <small>被告</small> .....	八七六號	東京	六
[み]	宮内文三郎外一名 <small>被告</small> .....	七七二號	東京	一

[じ]	實澤起 作外二名 <small>被告</small> .....	九二八號	宮城	七
	水野次郎外三名 <small>被告</small> .....	六九〇號	東京	六
	篠山巳之吉外一名 <small>被告</small> .....	八七六號	東京	六
	進藤伊兵衛 <small>被告</small> .....	九一二號	宮城	二
	清水條之助 <small>被告</small> .....	九三八號	大阪	五
[も]	物部ス、外一名 <small>被告</small> .....	九一二號	宮城	二

人名音字目錄



# 大法院審刑事判決錄

## 第三輯 第十卷

### ○公文書偽造行使ノ件

明治三十年七月二日號  
明治三十年十一月一日宣告

#### ○判決要旨

公賣ノ揭示札ハ之ヲ揭示セサル以前ニアリテモ其性質上信憑力ヲ有スル文書ナリトス

第一審 水戸地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 宮内文三郎  
前田清

辯護人

小島重太郎  
岸本辰雄  
高木格之助  
磯部四郎

右公文書偽造行使被告事件ニ付明治三十年六月二十四日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ  
公賣揭示札ノ信憑力



公賣揭示札ノ信憑力

對シ被告等ヨリ上告ヲ爲シタリ仍テ本院ハ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告兩名并ニ辯護人小島重太郎上告ノ趣旨ハ原裁判ニ干與シタル刑事事件桐靜雄ハ肩書ニ東京控訴院刑事代理トアルモ其所屬裁判所ノ記載ナキハ刑事訴訟法第二百五條ニ違背シタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○控訴院刑事ノ代理ハ其控訴院所在地ノ地方裁判所ノ刑事事件ノ判決ニ充ツヘキコトハ構成法第三十六條第二項ニ規定スル所ナレハ殊更ニ其所屬ノ裁判所ヲ記載スルヲ要セス而シテ刑事訴訟法第二百五條ニハ其裁判ヲ爲シタル裁判所云々刑事裁判所書記共ニ署名捺印スヘシトアリテ代理刑事タルトキ其所屬ノ裁判所ヲ記載スヘシトノ規定アルニ非サレハ之ヲ記載セザリシトテ該法條ニ違背シタルモノト云フヲ得ス」被告兩名擴張書要旨第一ハ本按ノ公賣揭示ハ明治二十六年三月二十日ニ於テ正當ニ成立シタル原本カ要村役場ニ公簿トシテ在備シ又被告前田清カ登時ノ書記タリシ相被告小澤良之助ニ命シ期日ニ先チ揭示ノ用ニ供センカ爲メ右原本ニ依リ延紙ニ謄寫セシメタル事實モ押収ノ延紙ニ認メタル揭示ニ徴シ明白ナリ今試ミニ原本ト延紙ノ謄本ト偽造視セラルルハ板ノ揭示トチ對照スルニ三個共ニ一字一句ノ相違アルチ見ス果シテ然ラハ縱シヤ板ノ揭示ハ原裁判所カ認ムル如ク公賣ノ期日後ニ調製シタルモノト假定スルモ法律上偽造罪ヲ組成スヘキ要素ヲ欠キタルモノトス何トナレハ文書ノ偽造ハ眞實ニ背キ虛偽ノ事實ヲ眞實ノ如ク造リタル場合ヲ指シタルモノナレハナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ閱スルニ(前略)於是被告三名ハ右錄助ヨリ訴訟ヲ提起セラル

コトヲ豫期シ云々揭示板ヲ偽造シ以テ其揭示ニヨリ正當ノ公告ヲ爲シタルコトヲ證センコトヲ謀リ要村役場ニ於テ豫テ右公賣ノ手續ヲ履行シタル如キ體ヲ裝ハンカ爲メ作リ置キタル公賣揭示案ニ基キ云々告示第一號揭示板ヲ偽造シ云々」アリテ該公賣揭示案ナルモノハ揭示板ヲ偽造センカ爲メ豫メ之ヲ作製シ置キタルモノナレハ村長タリシ被告前田清書記タリシ相被告小澤良之助之ヲ作製シタルハ正當ニ職務ノ執行ヲ爲シタルモノニアラサルナリ故ニ其該揭示案ハ公簿トシテ役場ニ備用シアルモ違ハ形式上ニ過キサルモノニシテ其實質ニ至テハ正當ノ公簿トシテ論スルヲ得ヘキモノニアラサルナリ既ニ然レハ本件揭示板ノ文詞ニ於テ其揭示案ト全然同一ニシテ些ノ異ナル處ナキニモセヨ其根元タル揭示案ニシテ前掲說示ノ如クナル上ハ揭示板ノ偽造タルコト言テ俟タサルナリ故ニ原院カ本件ノ揭示板ヲ文書偽造トシテ處斷シタルハ相當ノコトナリトス」其第二ハ被告前田清ハ辯護人ヲシテ役場在備ノ小幡部落財產公賣ニ付告示文郡衙ヘ報告ト題スル公簿ノ原本ヲ第一二審廷ニ提出セシメ本案揭示ノアリシ事實ヲ證明セリ而シテ該報告文ニ依レハ明治二十六年三月二十日以降公賣ノ揭示ヲ爲シタルコトハ揭示滿了ノ前日ニ成立シタル右公簿ニ照ラシ明白ナリ況ンヤ助役トシテ該公簿ニ連印シタル宮内才助ノ如キハ全ク被告等ト正反對ノ位置ニ居ルモノナレハ最モ信憑スルニ足ル公簿ナルニ於テチチ然ルニ原院カ其公簿ニ對シ一片ノ理由ヲ付セス之ヲ度外視シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○證據ノ取捨ハ原承審官ノ職權ニ專屬スルモノナレハ排斥シタル證據ニ付之レカ理由ヲ說示スルノ要ナキモノトス」其第三ハ證人磯山幾太郎ノ豫審調査ヲ

公賣揭示札ノ信憑力



查阻スルニ同人ハ公費揭示ノ登時其揭示場ニ行カサレハ揭示ノ有無ハ共ニ知得セストノ證言ニ外ナラサルニ原院カ該調書ヲ本件斷罪ノ資料トセシハ不法ナリト云ヒ被告前田清上告趣意ノ第四ハ原院ニ於テ證人巡查粉川子之次郎カ民事延ノ證言ト豫審廷ニ於テノ證言ト彼此抵觸ノ廉ナキニアラサル等ノコトアルヨリ被告利益ノ爲メ石橋子之助ナルモノヲ證人トシテ喚問アラントトナ請求セシニ之ヲ棄却シテ被告ニ利益トナルヘキ證憑ヲ提出スル權利ヲ拒絕シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○證據ノ取捨及ヒ證人喚問ノ申請ヲ許否スルハ原承審官ノ職權ニ專屬スルモノナレハ右等ノ點ニ對スル論難ハ適法上告ノ理由ナシ

辯護人岸本辰雄小島重太郎擴張書ノ要旨第一ハ官文書偽造罪ヲ構成スルニハ其一條件トシテ眞實ノ變更アルヲ要ス而シテ其眞實ノ變更ハ事ヲ證明スルニ足ルヘキ文書(信憑力)ヲ有スル文書ニ於テ爲サレタルコトヲ要スルハ一般ノ定論ナリ然ルニ本件ノ事實ハ此要件ヲ欠クモノナリ揭示札ニハ其性質上一定ノ場所即チ揭示場ニ於テ揭示シアル場合ニ於テハ公ケノ信憑力ヲ有スル公文書タルヘキモノナルモ其揭示場ヲ離レテ存在スルトキハ何ノ信憑力ヲモ有セサルモノナリ然ルニ原院ハ何等ノ信憑力ナキ該文書ノ記載ヲ以テ公文書偽造罪ニ問擬シタルハ疑律ノ錯誤アル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○文書偽造罪ノ構成ニ付信憑力ノ有無如何ヲ論スルハ其文書自體ノ性質上ニ於テ信憑力ヲ具備セシカ否ヤニ歸着スヘキモノトス今ヤ本件揭示札ハ如キハ未タ之ヲ揭示セサル以前ニアリテモ其性質上信憑力ヲ具有セシ文書タルヘキコトハ言ヲ俟カサレハ原院カ本件被告等ノ所爲ヲ公文書偽造ノ所爲ト認メタルハ相當ニシテ

上告ハ其理由ナシ其第二ハ原院カ斷罪ノ證據トシタル證人大場藤右衛門外三名ノ豫審調書中「刑事訴訟法第二百二十三條ニ觸ル、廉ナキヲ以テ式ノ如ク宣誓ヲ爲サシメタリトノミアリテ果シテ之ヲ訊問シタルヤ否ハ之ヲ知ルニ由ナシ否之ヲ訊問シタリト認ムルヲ得ヘカラサルナリ之ヲ訊問セスシテ證人ヲ訊問シタルモノトセハ是レ同法第二百一十一條ニ違背スル不法アルモノト云ハサルヘカラスシテ原院カ之ヲ採用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○各證人ノ調書中刑事訴訟法第二百二十三條ニ觸ル、廉ナキヲ以テ云々トアルニ據レハ之ヲ訊問シテ始メテ抵觸ノ廉ナシト認メタルコトハ明白ニシテ若シ之ヲ訊問セサレハ抵觸ノ有無ヲ知ルニ由ナキモノトス」其第三ハ第一審裁判ニ於テハ山崎伊助外四名ノ自訴狀ナルモノヲ斷罪ノ證據ニ供シタリ然レトモ該自訴狀ナルモノハ被告人ニ示シ辯解ヲ求メタルモノニアラス又一件記録ニ添付シアラス故ニ第一審裁判所ニ於テ之ヲ斷罪ノ證據ニ供シアルハ不法ナリ然ルニ原院ニ於テ第一審判決ヲ取消サ、ルハ不法ナリト云フニ在レトモ○第一審公判始末書中立會檢事ノ辯論ノ部ニ該自首狀ナルモノハ本日參考書類トシテ差出シタル旨ノ記載アリ而シテ裁判長ハ檢事ヨリ參考書類トシテ差出シタルモノモ他證據書類ト共ニ被告ニ示シタル旨同始末書中ニ明載シアリ且ツ該自首狀ナルモノハ本件記録ニ別冊トシテ添付シアレハ第一審裁判所ハ虛無ノ證據ヲ採用シタルモノニアラサルノミナラス之ヲ被告ニ示シテ辯解ヲ爲サシメタルコト明白ナリ故ニ原院カ第一審判決ヲ取消サ、ルヲ以テ不法ナリトノ論旨ハ其理由ナシ其第四ハ原院ノ判旨ヲ然阻スルニ揭示案ナルモノハ正當ニ作製シタルモノト認メラレタルモノト解釋スルヲ



得ヘシ果シテ然リトセハ該揭示案ニ基キ揭示板ニ記スルモ決シテ文書ノ偽造ヲ爲シタルモノト云フ可ラス故ニ被告等カ該文言ヲ揭示札ニ記スルモ文言カ其眞實ニ反セサルヲ以テ無形的ノ變更ナキモノナリ又之ヲ書記スヘキ資格アルモノニ於テ記載シタルモノナレハ有形的ノ變更モ亦之レナキモノナリ即チ被告等ノ所爲ハ單ニ之ヲ揭示シタルコトナキニ之ヲ揭示シタリトスル詐言ヲ加ヘテ欺瞞シタル事實タルニ外ナラスト云フニ在レトモ○右論旨ハ結局被告ノ擴張書第一ノ趣旨ト同一ニ歸スレハ同說明ニ依リ了解スヘシ其ニハ假リニ一步ヲ譲リ揭示板ハ有形若クハ無形的ニ眞實ノ變更アリトスルモ揭示案ノ文言ニシテ偽造ナシトセハ文書偽造罪構成ノ要素タル害ヲ生シ若クハ害ヲ生シ得ヘキ事實ナキモノナリ之ヲ生シ又ハ生シ得ヘキハ文書ノ偽造其モノニアラスシテ詐言其モノヲ信スルト否ヤトニアリトス且該揭示板ナルモノハ毫モ證明力ナキモノナルヲ以テ該揭示板ノミカ偽造ナルト否ヤトニ依リ害ヲ生シ若クハ害ヲ生シ得ヘキモノニアラス然ルニ原院カ被告等ニ對シ文書偽造罪ノ所爲アルモノトシ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ疑律錯誤ノ判決ナリト云フニ在レトモ○揭示ノ有無ハ賣買ノ効力ニ重大ノ影響ヲ生スヘキモノナレハ本件揭示札偽造ノ如キハ害ヲ生シ若クハ害ヲ生シ得ヘキコトハ言テ俟タサルナリ故ニ原院カ文書偽造ノ行使罪ニ問擬シタルハ疑律ノ錯誤ニアラス」被告兩名辯護人木村格之助擴張書ノ要旨ハ明治二十六年三月二十日付ノ公賣揭示案ハ村長書記助役等ノ連署アルノミナラス所轄郡役所ニ於テモ公簿トシテ存在セシ事實ニ徴スレハ該揭示案ハ眞成ノ公簿タルコト明確ナリ然ルニ原院ニ於テ豫テ右公告ノ手續ヲ履行シタル如キ體ヲ裝ハ

シカ爲メ造リ置キタル公賣揭示案ニ基キ云々ト恰モ公賣揭示ノ原本ヲモ假粧ノ偽物ナルカ如ク判定シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○事實ノ認定ハ原承審官ノ職權ニ專屬セシモノナレハ其認定ニ對スル論難ハ適法上告ノ理由ナシ」第二擴張書ノ趣旨ハ第一審判決證據列記ノ部ニ押収物件トアリテ如何ナル物件ヲ指シタルモノナルカ知ルヲ得サレハ判決ニ理由ヲ欠キタル不法ノ判決ナリ然ルニ第二審ニ於テ之ヲ取消サレハ不法ナリト云フニ在レトモ○押収物件トハ一件記録中ニ假込ミアル差押物件目錄ニ依リ其物件ノ何々タルヲ容易ニ知り得ヘクシハ證據ノ明示ヲ欠キタル不法ノ判決ト云フヲ得ス從テ原院カ第一審判決ヲ取消ササルハ相當ナリトス

被告宮内文三郎辯護人高木益太郎辯明書ノ要旨第一ハ第一審判決證據列記ノ部ニアル宮内文三郎ノ家宅搜索調書ヲ視ルニ第一乃至第五項ニ於テ前田清宮内發和等カ申立タル處ヲ掲ケタル如ク豫審判事ノ取調ニ對スル關係人ノ陳述ヲ錄取シタルニモ不拘關係人ヲシテ記名調印セシムルノ手續ヲ盡サレシハ違法ノ措置ニシテ乃チ判事ノ取調及ヒ關係人ノ陳述ハ之ヲ無効ナリト云ハサルヘカラス然ルニ第一審カ無効ノ陳述ヲ掲ケタル家宅搜索調書ヲ有効ノモノト看做シ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ノ裁判ナルニ原院ハ此不法ノ裁判ニ對スル被告ノ控訴ヲ棄却セシハ不法ナリト云フニ在レトモ○該家宅搜索調書ナルモノヲ閱スルニ前田清宮内發和久保伊助等ノ陳述ハ公賣處分ニ關スル一切ノ書類并ニ公賣揭示札ノ所在ニ付テノ申立ニシテ全ク搜索處分ノ手續ニ關スル事項ヲ叙述セシニ過キサルモノナレハ清等ノ署名捺印ナキヲ



以テ違法ノ家宅搜索調査ト云フヲ得ス既ニ該調査ニシテ違法ヲラサル上ハ第一審裁判所カ之ヲ採用シタルノ不法ヲラサルコトハ勿論原院カ被告ノ控訴ヲ棄却シタルモ素ヨリ相當ノコトナリトス其第二ハ本件宮内文三郎方ノ家宅搜索調査ヲ視ルニ即時其調査ヲ作成セスシテ更ニ轉シテ他人ノ家宅搜索ヲ終了シタル後之ヲ作成シタルハ違法ナルニモ不拘第一審ヲ採テ以テ斷罪ノ證據トセシハ不法ナリト其第三ハ該搜索調査ハ搜索ノ現場即チ宮内文三郎方ニ於テ之ヲ作成セスシテ要村役場ニ於テ之ヲ作成セシハ違法ニシテ無効ノモノナルニ第一審カ之レヲ斷罪ノ資料ニ供セシハ不法ナリト其第四ハ本件豫審判事カ宮内文三郎方ヲ搜索スル際ニハ同人ノ家族宮内發和ヲ立會セシメタル事跡アレトモ其調査ヲ完結スル際ニハ同人ヲ立會セシメスシテ之ヲ完結シタルハ不法ノ措置ニシテ該調査ハ無効ニ歸スヘキモノナルニ第一審カ之ヲ斷罪ノ證據ニ供セシハ不法ナリト以上第二乃至第四ノ如キ不法アル第一審ノ判決ニ對スル被告ノ控訴ニ付原院カ第一審ノ判決ヲ取消サスシテ被告ノ控訴ヲ棄却セシハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ該家宅搜索調査ヲ查閱スルニ被告宮内文三郎ノ現住居ト行方郡要村役場トニ於テ爲シタル搜索處分ハ迅速連續シテ爲スノ必要アリテ恰モ一ノ搜索處分ト異ナラサルノ場合ナレハ即時現場ニ於テ各個格別ニ之ヲ作製セス其處分ノ全ク終リタル場合ニ於テ合セテ之ヲ作製スルモ違法ノ調査ト云フヘキモノニアラス又搜索處分ノ際同居ノ親族ヲ立會セシムヘシトハ刑事訴訟法第四百條第二項ニ規定スル處ナレハ此規定ニ從ヒ之ヲ立會セシメタル事跡ノ見ルヘキアレハ其調査ヲ完結スルニ際シ之ヲ立會ハシメザリシトテ違法ノ措置ナリト云フテ

得ス故ニ原院カ本件搜索調査ヲ採用シタル第一審判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ理由ナシトシテ棄却セシモ決シテ不法ノ判決ニアラス其第五ハ本件豫審判事カ家宅搜索處分ヲ爲スニ當リ被告入ニ之ヲ通知シタルコトナリ從テ被告又ハ其代人ハ之ニ立會セザリシモノニシテ即チ本件ノ家宅搜索調査ハ被告人ノ辯護權ヲ剝奪シタル違法處分ニ依リ成立シタル調査ナレハ有効ノモノニアラサルコトハ勿論ナリ然ルニ第一審カ之ヲ有罪ノ心證ニ供シタルハ不法ナリ從テ此不法ノ判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ原院カ棄却セシハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第四百八條ニ被告人ハ臨檢搜索云々ノ處分ニ立會ヒ又ハ代人ヲ立會ハシムルコトヲ得トアルモ被告人ニ之ヲ通知スヘシトノ規定アルニアラサレハ該處分ヲ違法ナリト論難スルヲ得ス故ニ該處分ニ基キタル調査ヲ第一審カ斷罪ノ證據トナシタルハ不法ノ判決ニアラス○テ從テ該判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ原院カ棄却シタルハ不法ニアラス被告宮内文三郎辯護人磯部四郎擴張書ノ趣旨第一ハ原院ハ偽造ノ揭示板ヲ以テ偽造ノ官文書ナリトシテ裁判セラレタレトモ揭示板ノ物體其モノノ性質タル公正ノ帳簿其他ノ物ト異ナルモノニシテ其確實信表ノ點ニ於テ公文書ト云フヘキモノニアラス然ルニ原院カ斯ノ如キ判決ヲ下サレタルハ法則ヲ不當ニ適用セラレタルモノナリト云フニ在レトモ○揭示札ハ公文書ヲ掲記シタル上ハ其確實信表ノ點ニ於テ他ノ公文書ト毫モ異ナル處アラサレハ原院ガ之ヲ公文書偽造ニ問難シタルハ相當ナリトス其第二ハ原院ハ被告文三郎ニ對シ官文書偽造行使ノ罪責アリトセラレタリト雖モ一件記録ノ内行使ノ點ニ關シテハ檢事ノ起訴ナキモノナルニ拘ハラ



ス之ヲ審按セラレタルハ法則ヲ適用セサル違法アルモノナリト云フニ在レトモ○起訴ノ訴目ニシテ官文書偽造ト掲ケアル上ハ行使ノ所爲モ包含セシトハ言テ候々サルナリ何トナレハ官文書ノ偽造ハ偽造ノミヲ以テ犯罪ヲ構成セス行使ノ所爲アリテ始メテ犯罪ヲ完成スヘキモノナレハナリ故ニ本論旨ハ其理由ナシ

同辯護人第二擴張書ノ趣旨ハ高木辯護人ノ辯明書第一乃至第三ト同一ナルニ付右説明ニ譲リ爰ニ再説セス

右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年十一月一日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○官文書偽造ノ件

明治三十年第八〇八號  
明治三十年十一月一日宣告

○判決要旨

(判旨第二點) 重罪公判ノ下調ハ其事件ヲ裁判スル裁判長又ハ受命判事ニ於テ爲スヘキモノトス然レトモ其判事ニシテ疾病事故アリテ公判ニ參座スルコト

能ハサルカ爲メ他ノ判事之ニ代リテ參座スルコトアルモ其下調ハ不法ニ非ス

(判旨第三點) 重罪公判ノ下調々書ニハ被告人ノ署名捺印アルヲ必要トセス

第一審 長崎地方裁判所 第二審 長崎控訴院

被告人 寺田升四郎 辯護人 花井卓藏

明治三十年七月八日長崎控訴院ニ於テ右升四郎カ官文書偽造等ノ被告事件ノ控訴ヲ審理シ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告カ上告ノ要旨ハ明治二十九年十二月二十日朝郵便事務取扱ノ際日ノ浦郵便局ヨリ到着セシ警留郵便物四個ノ内平戸郵便電信局ノ引受ケニ係ル第三二番及ヒ志佐郵便局五六七四番ノ二個ヲ同局内ニ於テ竊取シ第二前記ノ郵便物ヲモ佐々郵便局ヨリ竊越シタルカ如ク裝ヒ以テ犯跡ヲ蔽ハントシ前同日同局内ニ於テ佐世保郵便電信局ニ送ル警留郵便物送達證ニ實際竊越シタル郵便物貳個ノ外被告カ竊取シタル郵便物ニ當ル長崎志佐六七四長崎平戸參貳等ノ文字ヲ記入シテ共ニ竊越シタルカ如クニ偽造シ他ノ警留郵便物ニ添テ之ヲ佐世保郵便電信局ヘ差送りタル事ナキハ勿論之ヲ原院カ認メタル如クセハ共謀ヲ長崎ニ置キ尙受信人ノ印鑑ヲ偽造スルニ非サレハ到底出來得可キ筈ナキハ勿論ナルニ刑法第二百三條第一項第三百六十六條第三百七十六條等ニ依リ處斷セラレタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ判決ナリト云フニ在リテ○原



裁判官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラサルヲ以テ上告ノ理由ナシ  
 辯護人花井中藏カ上告擴張書第一點ハ刑事訴訟法第二百三十七條ノ法意ニ依レハ重罪事件ニ  
 付テハ必ス事件ヲ審判スル裁判長又ハ受命判事ニ於テ下調即チ被告人ニ對シ一應ノ訊問ヲ爲  
 スヘキ主趣ナリト信ス而シテ本件ノ下調ヲナシタル受命判事ハ竹中知敬ニシテ同判事ハ事件  
 ナ審判シタル人ニ非ス果シテ然レハ原判決ハ此點ニ於テ該法則ニ背キタル手續ヲ以テ裁判ヲ  
 ナシタル不法アルニ歸着スヘシト云フニ在リ○因テ按スルニ刑事訴訟法第二百三十七條ハ事  
 件ヲ審判スル裁判長又ハ受命判事ニ於テ一應被告人ヲ訊問スヘシトハ法意ナルコトハ勿論ナ  
 リ然レトモ其下調ヲ爲シタル受命判事ハ公判開廷ヲ爲スニ當リ疾病其他ノ事故ニ依リ陪席ス  
 ルコト能ハサル場合ニ於テハ他ノ判事カ之ニ代リ陪席ヲ爲スハ當然ハコトニシテ而シテ受命  
 判事ハ代リタルトキハ更ニ被告人ヲ訊問スヘシトノ規定ナシ本件ノ下調ヲ爲シタル受命判事  
 ハ事故アリテ公判廷ニ出席セザリシモノト推定スヘキヲ以テ原裁判ハ法則ニ背キタル不法ア  
 リト云フヲ得ス

旨第二點

同第二點ハ本件ノ下調調査ニハ被告ノ署名捺印アルナシ刑事訴訟法第二百三十七條ニハ書記  
 ハ本條ノ訊問ニ付特ニ調査ヲ作ルヘシトアリ既ニ訊問ニ關スル調査作成ノ明文アル以上ハ一  
 般調査ノ式ニ依準シ被告人ヲシテ署名捺印セシムヘキハ言ヲ俟タサル所ナリ而シテ本件ノ調  
 査其式ヲ欠クコト如此果シテ然ラハ本件ハ適法ナル下調調査ナキト一般ニシテ原裁判ハ此點  
 ニ於テ下調ヲ爲サスシテ直ニ公判ヲ開廷シタル不法アルニ陷ルヘシト云フニ在レトモ○重罪

判旨第三點

下調ノ調査ニ被告人ヲシテ承認セシム且署名捺印セシムヘキ規定ハ之レナキニ依リ本件下調  
 調査ニ被告ヲシテ署名捺印セシムサルモ不法ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本案上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十年十一月一日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○毆打創傷ノ件

明治三十年第八二三號  
明治三十年十一月一日宣告

○判決要旨

(判旨第二點) 二人以上共ニ人ヲ毆打スルモ其創傷ニシテ等シキトキハ刑法第  
 三百五條ヲ適用セス

(參照) 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各  
 自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサルトキハ其重傷ノ刑  
 ニ照シ一等ヲ減ス但シ教唆者ハ減等ノ限ニアラス(刑法第三  
 百五條)

(判旨第三點) 判決ヲ以テ公判始末書ニ於ケル記事ノ誤謬ヲ訂正スルコトヲ得

二人共毆○公判始末書ノ訂正



第一審 宇都宮地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 橋本倉吉 辯護人 花井卓藏

右倉吉カ毆打創傷被告事件ニ付明治三十年七月二十四日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告上告第一點ハ被告ハ原判決ニ記載シタルカ如キ犯罪行為ヲ爲シタルコトナシ然ルニ原院ニ於テ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在リテ○原裁判官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キスシテ適法上告ノ理由ナシ  
同第二點及ヒ辯護人花井卓藏カ上告擴張書ノ第一要旨ハ原判決中被告人共ハ手又ハ下駄ヲ以テ寅吉ヲ亂打シ云々數ヶ所ノ傷ヲ負ハセ云々トアリテ而シテ其傷ヲ成スノ輕重ニ至リテハ一モ説明スル所ナシ果シテ然レハ本件ハ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサルモノナルヲ以テ刑法第三百五條後段ノ規定ヲ適用スヘキモノナリ然ルニ單ニ同法第三百一條第二項ノミヲ適用シテ處斷シタルハ擬律錯誤及ヒ理由不備ナリト辯護人擴張書ノ第二點ハ前段ノ論旨相立ストスルモ原判決ハ本件ニ付二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル事實ヲ認定シタルモノナルヲ以テ同法第三百五條前段ノ規定ハ必ス適用セサルヘカラス然ルニ原院ノ所措茲ニ出テナルハ是又擬律錯誤及理由不備ノ欠點アルモノト信スト云フニ在レトモ○原判文ニ認ムル事實ニ依レハ被告倉吉ハ高畑春吉外三名ト共ニ高樹寅吉ト口論ハ未被告等ハ手又ハ下駄等ヲ以テ

判旨第二點

寅吉ヲ亂打シ且同人ヲ三四間ハ崖下ニ突落シ數ヶ所ニ傷ヲ負ハセ各傷孰レモ二十日以内ハ疾病休業ニ罹ラシメタルモノニテ傷ニ輕重ナク各等シキ者ニ付單ニ刑法第三百一條第二項ヲ適用シ同法第三百五條ヲ適用セサルハ相當ニシテ擬律ニ錯誤ナキハ勿論理由ニ於テモ不備ト認ムヘキ點ナシ因テ本論旨モ總テ上告ノ理由ナシ

辯護人擴張書ノ第三點ハ第一審廷ニ於テ辯護人ヨリ證人ノ喚問ヲ申請シタルニ裁判長陪席判事ハ合議スルコトナク檢事陪席判事ト合議シテ其請求ヲ却下シタル事跡アリ是其公判始末書ノ證明スル所ナリ而シテ檢事ニ於テ證人喚問ノ許否ヲ合議決定スルノ權能ナキハ言ヲ俟タサル所ナリ果シテ然レハ被告ノ控訴ハ爰點ニ於テ理由アリ別言セハ第一審ノ公判手續ハ爰點ニ於テ不法アルニ歸ス然ルニ原院ニ於テ被告ノ控訴ヲ理由ナシトシテ棄却シタルハ刑事訴訟法第二百六十一條後項ノ規定ニ背反スル欠點アリ但シ原判決ハ檢事云々トアルハ全ク裁判長云々ノ誤寫ナリト説明セラレタレトモ法律ノ規定ニ基キ作成セラレタル公判始末書ハ性質上正確ナリト推測スヘキハ當然ニシテ裁判官カ自由ニ其作成効力等ヲ判斷シ得ヘキモノニアラスト信スト云フニ在リ○因テ第一審公判始末書ヲ查閱スルニ檢事ハ陪席判事ト合議ハ上云々トアルハ原判文ニ説明シタル如ク訊問手續ハ前後ヲ參照スルニ全ク裁判長云々ハ誤リナルコト明カナルヲ以テ第一審判決ヲ相當ナリトシ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ決シテ不法ニアラス右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本案上告ハ之ヲ棄却ス

判旨第三點

明治三十年十一月一日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

二人共毆○公判始末書ノ訂正



○詐欺取財私訴ノ件

明治三十年第八七六號  
明治三十年十一月一日宣告

○判決要旨

材木賣買ノ仲次營業者ヲ以テ刑法附則第五十五條ニ所謂公商ト認ムヘキモノナルヤ否ヤノ問題ハ事實上ノ判斷ニ屬スヘキモノトス

(參照) 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ依リ買取シタル物品ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルコトヲ得ス(刑法附則第五十條附則第五項)

第一審 浦和地方裁判所 第二審 東京控訴院

私訴上告人 篠山巳之吉 訴訟代理人 高木益太郎

私訴被上告人 木村春東

右刑事被告入島村幸藏ニ對スル公訴ニ附帶セル私訴事件ニ付明治三十年七月二十九日東京控訴院ニ於テ審理ノ末原判決ハ之ヲ取消ス被控訴人篠山巳之吉ハ島村幸藏ヨリ買受ケ東京市深川區西永町壹番地堀越新太郎方ニ現在スル槻成角貳尺角長貳丈七尺壹本同貳尺四寸角長貳丈

五尺一本ヲ被控訴人武田節義ハ島村幸藏ヨリ買受ケ埼玉縣松伏領小川仙藏方ニ現在スル槻成角材一尺九寸角長二丈二尺一本同一尺四寸角長二丈五尺一本同一尺八寸角長一丈三尺一本ヲ被控訴人ニ返還スヘシ私訴費用ハ第一二審トモ被控訴人ノ負擔トスト言渡シタル判決ニ對シ巳之吉節義ハ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ相手方春東ハ答辯書ヲ差出シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ  
上告趣意書ノ要旨ハ原判決ニ「島村幸藏カ木材ノ公商ニアラサルコトハ控訴人ノ立證ニ係ル百問村々長ノ取調書ニ徴シ明確ナルヲ以テ云々トアルモ右村長ノ取調書ナルモノハ現籍調ノ照會ニ對スル回答書ニシテ立證トハ認メ難シ然ルニ原院カ之ヲ立證トシ島村幸藏カ公商ニ非スト判決シタルハ不法ナリト云ヒ辯護士高木益太郎カ上告辯明ノ要旨第二點ハ百問村村長ノ取調書ヲ視ルニ「前科ナシ一資方ナシ一勳位官職ナシ右取調方御照會相成候ニ付即取調及回答候也」ト記載アルノミニシテ固ヨリ幸藏ノ木材商ナルヲ否ヤノ取調ヲ爲シタルモノニ非ス故ニ原判決カ該取調書ニ據リ同人ノ木材商ニアラサルコト明確ナリト判斷シタルハ不法ナリト云ヒ同第三點ハ本訴ニ付テハ島村幸藏ヨリ上告人ニ材木ヲ賣却シタル時即チ明治二十九年九月三日ニ於テ同人ハ材木商ナリシヤ否ヤノ事實ヲ研究スルヲ要ス然ルニ原院ハ此點ノ審料ヲ遂クス同年十月十二日ニ於ケル村長ノ身分調ニ基キ何等ノ説明チモ爲サス直チニ賣買當時ニ於テ同人ハ材木商ニアラスト判斷チ下シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○百問村々長ノ取調書ヲ查閱スルニ島村幸藏ノ肩書ニ單ニ農業ト記載シアリテ其木材商ナルコト若クハ木材商兼



業ナルコトノ記載ナシ故ニ原院カ右取調書ニ據リ島村幸藏カ木材ノ公商ニアラスト判定シタルハ相當ニシテ以上ノ論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ採擇事實ノ認定ヲ非難スルニ止リ適法上告ノ理由ナシ同辯護士カ上告辯明ノ要旨第一點ハ本件記録ヲ調査スルニ第一被告上告人ノ作成ニ係ル告訴狀ニ「百間村大字百間東平民材木仲次被告入島村幸藏」ト撰ク次ニ「被告島村幸藏ハ材木若クハ立木等賣買ノ仲次キチ業トシ告訴人方ハ屢賣込ミタルモノナリトアリ」第二被告幸藏ノ明治二十九年十月十九日付第一回豫審調書ニ「職業ハ材木商」トアリ第三百間村受持巡查ノ報告書ニ「被告ハ本年ノ職業ナル桶職ヲ廢シ材木仲賣トナリ山林ノ材木ヲ買取リ營業ト爲シ居ル」トアリ第四豫審終結決定書ニ「被告幸藏ハ材木賣買仲次ヲ爲スコトヲ業トスルモノニシテ云々」トアリ島村幸藏ノ材木賣買業タリシ事顯然タリ而シテ第一審裁判所ニ於テ其判決事實摘示ノ部ニ「民事原告人請求ノ要旨ハ刑事被告人島村幸藏ハ材木賣買ノ仲次ヲ業ト爲スモノニシテ是迄屢々民事原告人方ハ賣込ヲナシ居ルコトアリシニ依リ云々」トアル如ク又其判決理由ノ一部ニモ「民事原告人ハ幸藏材木賣買ヲ營業トスルモノナルコト民事原告人ノ爭ハサル處ナレハ」トアル如ク被告上告人ハ第一審ニ於テ島村幸藏ハ材木賣買ヲ以テ營業トスルモノナルコトヲ自認シタル事跡明確ナリトス上告人ハ原院公判始末書ニモ「被告控訴代理人曰ク島村幸藏ハ公商者タルコトヲ主張ス又曰ク公訴書類申鈴木藤吉ノ調書ニテ島村幸藏ノ材木商ナルコトハ一審廷ノ民事原告人ノ申立ヲ證據ニ引用ス」ト載セアル如ク被告上告人ノ自認ヲ援用シテ幸藏ノ材木商タルコトヲ主張シタリ而シテ第一審ニ於ケル裁判上ノ自認ハ第二審ニ於テモ其

効力ヲ有スヘキモノナルヲ以テ原院ハ當然此自認ヲ採用スヘキ筈ナルニ事爰ニ出テサルノミナラス恰モ上告人ハ何等ノ立證ヲナサルモノ、如ク看做シ被告上告人ノ裁判上ノ自認ヲ無視シテ同人ノ自認ニ反スル事實ヲ斷定シタルハ不法ナリト云フニ在リ。因テ審按スルニ島村幸藏カ材木賣買ノ仲次キチ業トスルコトハ上告論旨ハ如ク被告上告人ノ認ムル所ナルモ其仲次ナルモノハ因果シテ刑法附則ニ所謂公商ト認ムヘキモノナルハ否ヤハ全ク事實上ハ問題ニ屬ス而シテ第一審判決ニ於テハ被告上告人ニ於テ島村幸藏カ材木賣買營業者タルコトヲ認メタル如ク判定シタルモ原院ハ之ヲ不當トシ取消シタルモノナレハ右第一審判決ヲ採用シテ原院判決攻撃ノ材料ト爲スコトヲ得ス要スルニ本論旨モ亦原院ノ職權ニ屬スル事實認定ノ非難ニ過キサレハ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
上告ニ關スル費用ハ上告人等ノ負擔トス

明治三十年十一月一日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス



○故殺未遂ノ件

明治三十年第七八七號  
明治三十年十一月二日宣告

○判決要旨

検事ノ作成シタル檢證調書ニシテ關係人ノ供述ヲ錄取シタルトキハ其署名捺印アルヲ要ス然ラサレハ其供述ヲ證據トナスヲ得ス

第一審 奈良地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 藤岡政太郎 辯護人 牧野充安

右故殺未遂被告事件ニ付明治三十年六月二十八日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士牧野充安ノ辯論檢事岩野新平ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告趣意第一點本件ニハ巡查福澤彌三郎ノ檢證調書ト檢事竹岡丕仲ノ檢證調書トアリ然ルニ原判決ニ單ニ檢證調書ト掲ケテ斷罪ノ證據ト爲シタルハ右二通ノ孰レヲ指シタルモノナルヤ分明ナラス故ニ原判決ハ證據ノ明示ヲ欠キタル違法アリト云フニ在リ第二點ハ若シ原判決ニ二通ノ檢證調書ヲ採用シタリトセハ檢事竹岡丕仲ノ檢證調書ハ關係人ノ供述ヲ錄取シアルニ拘ラス之ヲ讀聞ケ署名捺印セシメサル等ノ違法アルヲ以テ無効ノ調書ナルニ之ヲ證據ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在リ○依テ訴訟記録ヲ查閱スルニ本件ニハ警部代理巡查福澤彌三郎ハ檢證調書ト檢事竹岡丕仲ハ檢證調書アリテ檢事ハ調書ニハ被害者花岡小原其他中村久吉藤

岡ハマヲ訊問シ其供述ヲ錄取シアルニ拘ハラズ之ヲ讀聞ケタル事跡ナク署名捺印セシメサルヲ以テ該調書ハ刑事訴訟法ハ規定ニ違背シタル無効ノ記載アリ而シテ原判決證據列舉ハ部ニ單ニ檢證調書ト掲ケタルハ即右二個ノ檢證調書ヲ指シタルモノト解釋セサルヘカラサルヲ以テ原判決ニ檢事ハ檢證調書全部ヲ證據トシテ採用シタルハ違法ニシテ破毀スヘキ原因アリトス  
既ニ此點ニ於テ破毀ノ原因アリト認メタルニ依リ他ノ上告論旨ニ對シテハ一々説明ヲ與ヘ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本件ヲ名古屋控訴院ニ

明治三十年十一月二日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治三十年第九一二號  
明治三十年十一月二日宣告

○判決要旨

公商ニ依リ買取シタル贓物ヲ除クノ外現有者ハ被害者ニ無償還給ヲナスヘキ

贓物ノ還給



モノトス

(参照) 贓物轉讓シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ依リ買取シタル物品ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直ニ還給セシムルコトヲ得ス若シ公商ニ依ラヌシテ買取シタル物品ハ無償還給ヲ拒ムコトヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉價ヲ求ムルコトヲ得(刑法附則第百五十五條)

第一審 秋田地方裁判所大曲支部 第二審 宮城控訴院

公訴私訴上告人 進藤伊兵衛 辯護人 飯田宏作  
岡崎正也

私訴被上告人 小山田治右衛門  
物部スズメ

右伊兵衛カ私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十年七月八日宮城控訴院ニ於テ本件控訴ハ之ヲ棄却ス被告入及民事被告人三名ハ民事原告人請求ノ本件地所ヲ民事原告人所有名義ニ登記書換ノ手續ヲ爲スコシト言渡シタル公訴私訴ノ判決ニ對シ被告及民事被告人ヨリ上告ヲ爲シ原院檢察長古莊一雄ハ公訴上告ニ對シ民事原告人ハ私訴上告ニ對シ答辯書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ檢察官野新平辯護士飯田宏作岡崎正也ノ辯明ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

公訴上告ノ趣意ヲ要スルニ被告カ物部スズメニ差戻シタル戻リ證書ト本件ノ戻リ證書ハ別物ニシテ被告カ民事廷ニ於テ捧呈シタル證書ハ本件ノ證書ト別物ナルヲ以テ被告ハ原審ニ於テ之ヲ證明シタルニ此點ニ對シ何等ノ理由ヲ付セスシテ偽造ナリト測斷シタルハ不當ナリト云フ

ニ在レトモ○本件偽造ノ點ニ付テハ原判決ニ其偽造ノ事實ヲ明示シアリテ理由ヲ付セザルノ不法ナク又被告ノ抗辯ニ對シ一々説明ヲ爲スヲ要セス上告ハ其理由ナキモノトス

被告ノ私訴上告趣意ヲ要スルニ刑事訴訟法第二條ニ私訴ハ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ストアリテ贓物ノ還給ハ民事原告人ニ屬スヘシト雖トモ其權利ノ行使ハ民法ニ從フモノトス而シテ本件地所ハ民事ノ確定判決アリテ其判決ノ執行上被告ノ所有名義ニ歸シタル以上ハ直チニ取戻スコトヲ得サルモノトス然ルニ原院カ贓物ナルカ故ニ民事ノ確定判決アルモ直チニ取戻シ得可シト判決シタルハ不法ニ法則ヲ適用シタル判決ナリト云フニ在レトモ○本件地所ノ所有名義ヲ被告ニ歸シタル民事判決ハ買戻契約履行ノ訴訟ニ對シ與ヘタルモノニシテ原判決ハ犯罪ニ基因スル贓物返還ノ訴訟ニ對スルモノナレハ二個ノ判決各其訴訟ノ原因ヲ異ニスルヲ以テ民事判決ノ確定ヲ本件私訴ニ及ホスコトヲ得ス依テ原判決ハ相當ニシテ上告ハ其理由ナシ

民事被告人ノ上告趣意ヲ要スルニ第一ハ本件ノ詐欺取財ニ係ルモノハ贓物ニアラス然ルニ之ヲ贓物ナリトシテ刑法附則ニ依リ處斷シタルハ不當ナリ又民事原告人ハ金三百圓ヲ受取り賣戻ヲ爲シタルハ全ク承諾ナキニ非ス故ニ上告人ノ如キ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ原告人ノ請求ニ應スル能ハスト申立タルニ此點ニ對シ何等ノ判決ヲ與ヘザリシハ不法ナリト云フニ在レニ○刑法第三編第二章第六節ハ贓物ニ關スル罪ニシテ其箇中ノ第四百一條ニ詐欺取財其他ノ犯罪ニ關スル物件云々トアルニ依レハ詐欺取財ニ係ル物件モ亦タ贓物ナリトス故ニ原院カ本件係争物ヲ贓物ナリトシテ處斷シタルハ相當ナリ又原院公判始末



書ニ依レハ民事被告代理人ノ抗辯トシテ申立テタル所ハ民事判決ノ確定ニ依リ被告伊兵衛ノ名義ニナリタルモノナレハ其判決ニ對シ再審ヲ求メタル後ニ非サレハ同人ニ係リ請求スルヲ得スト云ニアリテ其争點ニ對シ原院カ判決ヲ與ヘタル上ハ争點ニ判決ヲ與ヘサルノ違法ナシトス」第二ハ被告伊兵衛ノ私訴上告趣意ト同一ナルヲ以テ重テテ説明セス飯田辯護士ノ擴張論旨ハ刑法附則第五十五條ハ私訴即チ私權利ノ訴訟ニ關スル規定ニシテ民法ノ規定ト同一性質ナレハ之レカ解釋モ同條ト類似ノ場合ニハ之ヲ準用スルヲ要ス況ンヤ一層理由ノ當然ナル場合ニ於テオヤ蓋シ同條ニ於テ公商ニ依リ買取シタルトキハ買取者ニ責ムヘキ過失ナク且無價ニテ還給セシムルハ市場ノ信用ヲ妨ケ其害犯罪ノ害ヨリ大ナルカ爲メナルコトハ疑ナク而シテ原判決ノ認定ニ依レハ本件不動産ハ確定判決ノ効果上伊兵衛ノ所有名義ニ登記サレシ後數轉シテ上告人ノ所有トナレリ如此不動産ヲ買取シタル上告人ニ責ムヘキ過失ナキコト公商ニ依リ買取シタルト同一ナリ又確定判決ノ信用ハ市場ノ信用ヨリ一層強大ナル保護ヲ要スルハ言チ俟タス隨テ其信用ヲ妨クルノ害ハ市場ノ信用ヲ妨クル害ヨリ大ナリ故ニ該條ヲ準用シテ被上告人ノ請求ヲ排斥スヘキニ原院ニ於テハ上告人ニ無價還給ヲ言渡シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑法附則ニ於テハ贓物現存スルトキハ被害者ニ無價還給スルヲ以テ通則トシ其第五十五條ハ公商ニ依リ買取シタル場合ハ之カ例外ナリトス故ニ本件ハ如上告人カ公商ニ依リ買取シタルニ非サル事實ニハ右法條ヲ適用スルコトヲ得ス依テ原院如上告人ニ無價還給ヲ言渡シタルハ違法ニ非ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本按公訴私訴ノ上告ハ總テ之ヲ棄却ス私訴上告裁判費用ノ内被告伊兵衛ノ上告ニ關スル部分ハ伊兵衛ニ於テ之ヲ負擔シ民事被告人ノ上告ニ關スル部分ハ民事被告人小山田治右衛門ニ於テ之ヲ負擔ス可シ  
明治三十年十一月二日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○謀殺ノ件

明治三十年第八九四號  
明治三十年十一月四日宣告

○判決要旨

檢證處分ト其調書作成トノ間ニ遷延ノ事迹アルモ不法ニアラズ

(參照) 豫審判事ハ犯罪ノ性質、方法、日時、場所及ヒ被告人ノ人違ナキコトヲ證明スヘキ  
模倣ニ付調書ヲ作ルヘシ(刑事訴訟法第百三條一項)

第一審 新潟地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 梅田 鐵吉 辯護人 卜部喜太郎

檢證調書作成ノ遷延



右被告ニ對スル謀殺被告事件ニ付明治三十年八月二十八日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告織吉上告趣意第一點ハ原院ノ認定シタル事實ニテハ原院カ適用シタル法條ノ犯罪ヲ構成セス即チ原院判決ハ疑律錯誤アルモノトスト云フニ在レトモ○原院判決ヲ査閱スルニ其認ムル所ハ豫メ謀テ實父龜七ヲ殺害シタルモノナレハ原院カ之ヲ刑法第三百六十二條ニ問擬シテ處斷シタルハ相當ニシテ疑律上錯誤ノ點アルコトナシ其第二點ハ被告人ハ原院カ認定シタルカ如キ罪ヲ犯シタルコトナク一件記録中原院認定ノ如キ事實ヲ證スルモノナシ然ルニ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本論旨ハ原院ノ職權ニ專屬スル事實ノ認定證據ノ取捨ヲ非難スルニ過キヌシテ上告適法ノ理由トナラス

辯護人卜部喜太郎上告趣意擴張ノ趣旨ハ原院ハ豫審判事ノ作リタル檢證調査ヲ斷罪ノ料ニ供シタルトモ右檢證調査中明治三十年一月六日ノ檢證ニ關スル部分ハ刑事訴訟法第三百三條ノ規定ニ從ハサル違法ノ調査ナリ何トナレハ刑事訴訟法第三百三條ノ規定ニ依レハ豫審判事ハ犯罪ノ性質方法日時場所及被告人ノ人違ナキコトヲ證明ス可キ模樣ニ付檢證ヲ爲スニ際リ現ニ見聞シタル事項ヲ直ニ調査ニ作ルコトヲ命シタルモノナルニ原院カ採用シタル檢證調査ノ一半ハ明治三十年一月六日ニ檢證シタル結果ニ付明治三十年一月七日ニ作リタルモノニテ檢證ヲ爲シタル際ニ作リタルニ非ス恰モ豫審判事カ今日被告人證人等ヲ訊問シテ明日其調査ヲ作リ

タルニ同シ依テ原院カ斯ノ如キ違法ノ檢證調査ヲ證據トシテ採用シタルハ不法ナリト云フニ在レテ○右檢證調査ヲ審查スルニ檢證處分ハ明治三十年一月六日午後三時四十分ニ始メ同六時ニ至リ一旦中止シ翌七日午前七時ニ始メ零時二十分ニ終了シタルモノハニシテ其調査ヲ作リタルハ即チ右處分終了ハ日ニ在リテ檢證處分ヲ終リタル後其調査ヲ作ルマテ謂ハレナク迂延シタリト認ムヘキ事跡ナキミナラズ假リニ多少迂延シタリトスルモ其調査ハ信憑力ニ多少ハ影響アルヘキモ之ヲ無効ノモノト云フヘカラス故ニ本論旨ハ右檢證調査ハ其作製上謂ハレナク迂延シタルコトナキヲ以テ之ニ對スル批難ハ謂ハレナキノミナラズ假リニ迂延シタリトスルモ之ヲ不法ナリト論スルコト能ハサルナリ隨テ原院カ探テ斷罪ノ資料ニ供シタルモ不法ニアラス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ  
本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年十一月四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス



○竊盜ノ件

明治三十年第九二〇號  
明治三十年十一月四日宣告

○判決要旨

事實參考人ノ調書ヲ以テ證人ノ調書トシテ斷罪ノ料ニ供シタル裁判ハ不法ナリ

第一審 長野地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 酒井爲之助 辯護人 花井卓藏

右竊盜被告事件ノ控訴ニ付明治三十年九月十五日東京控訴院ニ於テ審理ノ末本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡タル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ  
辯護人カ上告事件辯明書ノ要旨ハ原院判決ハ事實參考人トシテ訊問ヲ受ケタル綿田ヤスノ陳述ヲ證言ノ効力アルモノトシテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在リ  
○因テ訴訟記録ヲ查閱スルニ綿田ヤスハ豫審調書ニ本人ハ被告酒井爲之助ノ祖母ナルコトヲ認メタルヲ以テ事實參考人トシテ取調ヘテ爲ス旨ヲ告知セリトアリテ同人ハ證人トシテ訊問ヲ受ケタルモハニ非ス然ルニ原院カ右調書ヲ以テ證人ノ調書ナリトシ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ニシテ己ニ此點ニ於テ原院判決ハ破毀ヲ認ムル上ハ他ノ論旨ニ對シ說明ヲ與フルハ要ナシ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ則テ原院判決ヲ破毀シ本件ヲ宮城控訴院ニ移

シ更ニ適法ノ審判ヲ爲サシム

明治三十年十一月四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十年第九九七號  
明治三十年十一月四日宣告

○判決要旨

外國人ニシテ他人ニ金錢ヲ貸與スルノ資力ナク又金融チナスノ信用ナキニ拘ラス本邦人カ其事情ニ通セサルヲ奇貨トシ金融ニ名ヲ籍リ金圓ヲ騙取シタル所爲ハ詐欺取財罪ヲ構成ス

第一審 横濱地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 ホルトカレ四人  
エス、セ、ベリム

右エス、セ、ベリム詐欺取財被告事件ニ付明治三十年十月一日東京控訴院ニ於テ横濱地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ審理シタル末棄却ノ判決ヲ爲シタルニ服セス被告ハ上告ヲ爲シタリ

詐欺取財罪ノ構成



大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ  
 上告趣意書ノ要旨ハ原判決ハ被告カ他人ノ依頼ヲ取ケテ金員借受ノ周旋ヲ爲シ其報酬トシテ  
 金參圓餘ヲ受取タルハ欺罔騙取ノ行爲ナリト云フモ被告カ受取リタル金員ハ勞力ノ報酬トシ  
 テ得タルモノニシテ即チ當事者カ合意授受シタル金員ナレハ決シテ法律ノ禁制スル所ニ非サ  
 ルハ論ヲ駁タス本件被告ハ積極的ニ他人ヲ欺罔スル手段ヲ講シタルニアラスシテ任意ニ贈ラ  
 レシ金員ヲ受取リタルニ外ナラサルノミナラス他人ニ或ル事ノ周旋ヲ託スルニ多少ノ報酬ヲ  
 與フルハ當然ニシテ本件ノ如キ僅々三圓ノ金員ハ周旋ノ實效ニ充當スルモ尙不足ヲ生スルニ  
 アラスヤ果シテ然ランカ積極的欺罔ノ所爲存セサルヲ以テ刑法ノ所謂詐欺取財ヲ構成スル條  
 件ニ欠クル所アルモノナリ然ルニ原院カ以上ノ事實ヲ認メナカラ刑法第三百九十條ニ間擬シ  
 タルハ疑律錯誤ノ判決ナリト云フニ在リ○然レトモ原判決認定ノ事實ヲ約スレハ被告ハ他  
 相被告三名ト申合セ被告ハ他人ニ金錢ヲ貸スノ資カナク又金融ヲ爲スハ信用ナキニ拘ハラ  
 ス身外國人ニシテ本邦人カ其事情ニ通セサルヲ幸トシ金主トナリ他三名ハ被告ハ資金ヲ周旋ス  
 ルモハハ如ク變ヒ原島小一郎ニ對シ金壹萬二千圓ヲ貸與スト欺ハリ共謀者代ル種々ハ口實  
 ナ設ケテ小一郎ヨリ數回ニ金百數十圓ヲ騙取シタル事實ナリ而シテ被告カ論スル金三圓ハ右  
 騙取金員中ノ一部ニシテ名ヲ被告ヘノ土産代リニ藉リ小一郎チシテ差出サシメ騙取シタルモ  
 ノニ係レリ原判決ハ被告カ謂フカ如キ金員借入レノ周旋ヲ委託セラレ之レカ報酬トシテ合意  
 上授受シタル金員ナリト認メタルコト決シテ之ヲ要スルニ本論旨ハ原判決ノ認メサル事實

ヲ掲ケ來リテ原判決ノ認メタル事實ト爲シ以テ原判決ヲ批難スルニ在レハ固ヨリ上告ノ理由  
 ト爲ルヘキニアラス  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ判決スル左ノ如シ  
 本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年十一月四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○公文書偽造行使ノ件

明治三十年第一〇一六號  
 明治三十年十一月四日宣告

○判決要旨

町村助役ハ町村ノ公文書類ヲ保管スルノ責任ヲ有ス

(參照) 町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス(町村制第七  
 十條第一項)

町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ  
 (町村制第六十八條)

公文書保管ノ責任



町村ノ諸證書及ヒ公文書類ヲ保管スル事(同條第

第一審 佐賀地方裁判所 第二審 長崎控訴院

被告人 桑原邦一

右公文書偽造行使被告事件ニ付明治三十年十月六日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ  
上告趣旨ノ第一點ハ助役ハ町村制第七十條ニ規定スル如ク町村長ノ事務ヲ補助スルニ在テ特ニ町村長カ町村會ノ同意ヲ得テ僅ニ町村行政事務ノ一部ヲ分掌スルコトアルノミ其他町村長故障アル時之ヲ代理スルコトアルニ過キシステ決シテ當然助役ノ職權ニ屬スル行爲アルコトナシ然ルニ原判文ニハ被告邦一ハ佐賀縣杵島郡西川登村助役ヲ奉職シ同村役場ニ於テ其職務取扱中トハ村長ノ指揮命令ニ遵ヒ其事務ヲ補助シタルモノカ若クハ村長不在其他ノ故障ニテ臨時代理ヲ爲シタルモノカ將タ村會ノ決議ヲ經タル分掌事務ニ屬スルモノカ其事實理由ヲ付セサルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判文ニ西川登村助役ヲ奉職シ同村役場ニ於テ基職務取扱中云々ト明示シアル上ハ其職務ヲ取扱ヒタルハ村長ノ指揮命令ニ遵ヒ之カ事務ヲ補助シタルト村長ノ不在其他ノ故障ニ付臨時代理ヲ爲シタルト又村會ノ決議ヲ經タル分掌事務ニ屬スルモノナルトナ間フコトヲ要セス即チ其原因ノ如何ニ拘ハラズ助役ノ職務ヲ取扱フ際本案ノ所爲ニ行ヒタリトノ事實ヲ明示スルヲ以テ足レトス故ニ右原因ノ如何ヲ明示セサ

ルモ之ヲ以テ事實ノ理由ヲ付セサルモノト認ムルコトヲ得ス

同第二點ハ本件ノ偽造書類タル書類受付簿加籍目錄異動目錄戶籍目錄等ハ町村制第六十八條第六項ノ規定ニ依リ當然村長ノ管掌ス可キ公文書ナリ而シテ村會ノ決議ヲ經テ助役ノ分掌ニ屬シタル事柄ハ同條第二三四項ニ限ルコトハ押収ノ村會決議ニ照ラシテ明瞭ナルヲ以テ被告ノ管掌ス可キ公文書ニ非サルコトハ毫モ疑ナシ然ルニ原院カ被告ニ管掌ノ責アリト爲シ刑法第二百五條ヲ適用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○町村制第七十條第一項ニ町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ストアリ既ニ助役ニ於テ町村長ノ事務ヲ補助スル職責アル上ハ同第六十八條第六號ニ規定スル町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事ニ付テモ亦其職責アルコト固ヨリ論チ俟タズ故ニ原院ニ於テ本案ノ文書ハ被告ニ管掌ノ責アルモノト爲シ刑法第二百五條ヲ適用シタルハ相當ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年十一月四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス



○毆打致死ノ件

明治三十年第八五三號  
明治三十年十一月五日宣告

○判決要旨

新證據ニ依リ再起訴ノ提起アリタルトキハ免訴前ニ於テ蒐集シタル書類モ亦  
事件ノ證據ニ供スルコトヲ得

第一審 福島地方裁判所若松支部 第二審 宮城控訴院

被告人 永井庄三郎 辯護人 兒玉一英

右庄三郎カ毆打致死被告事件ニ付明治三十年六月十七日宮城控訴院ニ於テ福島地方裁判所ノ  
判決ニ對スル被告ヨリノ控訴ヲ審理シ原判決ハ之ヲ取消ス被告庄三郎ヲ輕懲役六年ニ處ス云  
々ト言渡シタル判決ヲ不法ナリトシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢察長古莊一雄ハ答辯書ヲ差出シ  
タリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
被告カ上告ノ要旨ハ原判決ニ(前略)遂ニ江川新内ト口論ヲ爲シ其末憤怒ノ餘リ殺意アリシニア  
ラサルモ唯之ヲ打懲サント欲シ兩人共ニ其場ニ有合セタル鈍體ノ物件ヲ以テ同人ヲ共毆シ其  
前額部ニ創傷ヲ負ハセ腦震盪ヲ起サシメ直ニ死ニ致シ云々但新内ノ負ヒタル創傷ハ一箇ニシ  
テ右ハ被告ト要旨ノ内何レカ負ハシメタルモノナルヤ判然セサルモノト判示シ有罪ノ言渡ヲ  
爲シタルハ不法ナリト思料ス又要旨ハ被告カ新内ヲ土間ニ引出シタト申立アルモ右ハ惡意ヲ  
以テ有罪ト陳述シタルモノナリ尙ホ其出口ハ束ヨリスルモ北ヨリスルモ間敷ハ一尺トハ違ハ

サルナリ云々ト云フニアレトモ○本件ハ二人共毆シテ人ヲ死ニ致シ其傷ヲ成スハ誰レナルヤ  
ヲ知ル能ハサルヨリ毆打致死ノ刑ニ一審ヲ減シ二人ヲ同一ノ刑ニ處シタルモノナレハ原判決  
ハ相當ナリ其他ノ論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ取捨ヲ批難スルモノニシテ上  
告適法ノ理由ナシ

辯護士兒玉一英ノ上告擴張要旨ノ第一點ハ原院判決中犯罪ノ證據トシテ表示セラレタル所ニ  
依レハ以上ノ事實ハ鈴木重達江川新太郎平賀伸貞鈴木萬次郎萬波久四郎相良宜重鈴木忠作平  
賀サイ及ヒ吉田要吉ノ豫審調書トノミアリテ被告人ノ陳述ナルヤ又參考人ノ陳述ナルヤ將々他  
被告人ノ供述ナルヤ知ルニ由ナシ夫レ諸般ノ證據ハ判事ノ判斷ニ一任スト雖モ苟モ法律ニ於  
テ被告人ノ訊問證人ノ訊問鑑定人ノ供述等ヲ明カニ規定セラレタル上ハ其豫審調書ハ證人ノ  
陳述トシテ採用セラレタルモノナルヤ將々參考人又ハ被告人ノ陳述トシテ採用セラレタルモ  
ノナルヤナ明示セサルヘカラス然ラサレハ如何ナル違法ノ調書ト雖モ其證人又ハ參考人及ヒ  
被告人ト云ハスシテ只單ニ豫審調書ト云フトキハ何時ニテモ合法ト云フニ至ルヘシ果シテ然  
ルトキハ法律上被告人證人參考人鑑定人等ニ對スル訊問規定ヲ爲スノ必要ナカルヘシ然ルチ  
原院ノ判決ハ漠トシテ其何ノ豫審調書ナルヤナ明示セサルヲ以テ法律ニ違背シタルモノト確  
信スト云フニアレ也○鈴木重達江川新太郎平賀伸貞鈴木萬次郎萬波久四郎相良宜重鈴木忠作  
平賀サイハ證人ニシテ吉田要吉ノ參考人ナルコトハ其各豫審調書ニ依リ明瞭ナルヲ以テ其區  
別ヲ判決書ニ詳記セサルモ證據ノ明示ヲ缺キタルモノト云フヲ得ス同第二點ハ同シク證據ノ



一トシテ醫師宇南山誠一耶ノ鑑定書ト示サレタルモ上告人ハ豫審ニ於テ一度免訴ノ決定ヲ受ケ後再起訴ニ依テ受理セラレタルモノナルヲ以テ違キニ免訴セラレタル事件ニ付テノ證據ハ勿論無効タルヘキモノナリ故ニ前第一點ノ豫審調書モ皆再度ノ訊問調書ニ係ルモノトス然ルニ鑑定書ハ免訴以前ノ事件ニ付テハ之アルモ再起訴ノ事件ニ付テハ鑑定書アルコトナシ只宇南山誠一耶ノ訊問調書トシテ採用セラルルハ格別鑑定書トシテハ無効ト云ハソヨリハ寧ロ被告事件ノ證據中ニ之レアラサルモノヲ採テ斷罪ノ資料ニ供セラレタルモノナルヲ以テ是又違法ノ判決ナリト確信スト云フニアレトモ○豫審ニ於テ一旦免訴トナリタル事件ハ訴訟記録ト雖モ新ナル證據アリテ再起訴トナリタルトキハ即チ同一事件ナルコトハ勿論ナルニ付免訴前ニ蒐集シタル書類モ亦證據タルハ効ヲ失却スヘキモノニアラス故ニ原院カ免訴前豫審判事ニ於テ鑑定セシメタル醫師ノ鑑定書ヲ採テ本件斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ニアラサルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十年十一月五日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○賭博ノ件

明治三十年第九二八號  
 明治三十年十一月五日宣告

○判決要旨

(判旨第四點) 刑法第二百六十一條第二項ハ同法第四十四條ノ例外ナリ

(參照) 賭博ノ器具財物現場ニ在ル物ハ之ヲ沒收ス(刑法第二百六十一條第二項)

法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルコトヲ得ス(刑法第四十四條)

(判旨第五點) 賭具ヲ入レタル箱ハ賭具ノ附屬物ナリ從テ現場ニ在ルトキハ之ヲ沒收ス

(判旨第八點) 犯罪直接ノ用ニ供シタルト否トヲ問ハス現場ニ在ル賭博ノ器具ハ總テ之ヲ沒收ス

第一審 秋田地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 (伊藤武助) 辯護人 (沼田宇源太)  
 (伊藤庫之助) (高木益太郎)

明治三十年八月三日宮城控訴院ニ於テ右武助起作外一名ニ對スル賭博庫之助ニ對スル賭博房  
 例外ノ沒收○賭具ノ附屬物○賭具總體ノ沒收



屋給與被告事件ヲ審理シ原判決ハ之ヲ取消ス被告武助(中畧)起作庫之助ヲ各重禁錮一月十五日ニ處シ罰金十圓ヲ附加ス押收ノ緋フランネル布圍同切地碁石駒骨牌菓子札小篋及碁石菓子札等在中ノ桐箱ハ之ヲ没収ス其他押收ノ金七十圓守袋寶丹鐵三ヶ在中ノ紙入風呂敷各一個及當公廷ニ提出シタル書類ハ各所有主ニ還付スト言渡シタル判決ヲ不當トシ被告武助起作庫之助ハ上告ヲ爲シ原院檢察長古莊一雄ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理判決スルヲ左ノ如シ

被告三名上告趣意ハ被告等ニ於テハ金錢ヲ賭セサル花合ヲ爲シタルモノナルニ原院カ金錢ヲ賭シタルモノト爲シ有罪ノ判決ヲ與ヘタル不法ナリト云フニ在テ○徒ニ事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ原山トナラス同辯護士沼田宇源太上告理山擴張書ノ要旨ハ賭博犯ナルモノハ其器具ト金錢トニツテ備リ且ツ現ニ行爲ヲ爲スモノナラサルヘカラサルハ刑法第二百六十一條ノ法文ニ照シテ明カナリ而シテ本件ノ菓子札ナルモノハ政府ノ許可ヲ得テ花骨牌附屬品トシテ販賣スルモノニシテ食物ノ代表ニ用ユルモノナリ然ルニ原院ニ於テ現場ニ於テ金錢ノ現在セサリシコトヲ認メナカラ臆測ヲ以テ右菓子札ヲ金錢ニ代用シ之ヲ以テ現ニ賭博ヲ爲シタルモノト斷定シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○刑法第二百六十一條ハ金錢ヲ賭シテ博奕ヲ爲スモノナルコトヲ要スルモ必シモ現金ノ賭博ニ存在スルヲ以テ要件トスル者ニアラサルコト論ヲ待タス而シテ原院ハ右菓子札ヲ以テ金錢ニ代用シタルモノト認ム其現場ニ於テ取押ヘタルヲ以テ同條ニ適當スルモノト爲シ有罪ノ判決ヲ與ヘタルモノナレハ其判決

正當ナリ尙ホ辯護士ハ裁判官ノ臆測ヲ以テ事實ヲ推定シタルモノノ如ク論争スルモ原院ハ證據ヲ明示シ職權ヲ以テ事實ノ認定ヲ爲シタルモノニシテ論旨ノ如キ不法アルコトナシトス又同辯護士ハ同辯護士ノ上告論旨ヲ採用スル旨申立タリ

起作辯護士原嘉道ノ上告擴張書第一點ノ要旨ハ元來他物ヲ以テ金錢ニ代用スルトキハ必ス其物ハ幾何ノ金錢ニ代用スルヤヲ定メサルニ於テハ毫モ代用ノ効ナキモノナリ然ルニ原院ハ幾何ノ金額ニ代用シタルヤヲ示サスシテ碁石菓子札ヲ金錢ニ代用シ云々ト記シ直ニ金錢ヲ賭シテ博奕ヲ爲シタルモノト判決シタルハ理由不備ナリト云フニ在レトモ○現ニ碁石菓子札ヲ以テ金錢ニ代用シタルコトノ明示アル上ハ犯罪ノ事實充分ニシテ碁石菓子札幾個ヲ以テ幾何ノ金錢ニ代用シタルヤノコト迄ヲ詳記スルノ必要ナキモノナルヲ以テ原院ハ其代用シタル金額ヲ詳記セサルニ止マリ初メヨリ其金額ノ定メナキモノト爲シタルニアラサルハ明瞭ナレハ原院判決ハ論旨ノ如ク理由不備ノモノニアラス○第二點ハ刑法第二百六十一條第二項ニ賭博ノ器具財物其現場ニアルモノハ之ヲ没収ストアルハ現場ニ在ルモノハ設令現ニ之ヲ賭博ノ用ニ供シタルノ證據ナキモ尙之ヲ犯罪ノ用ニ供スルモノト見做シテ没収ストノ精神ニシテ決シテ同法第四十四條ニ例外ヲ設ケ所有者ノ誰タルヲ論セス總テ之ヲ没収ストノ律意ニアラスト何トナレハ所謂賭具ナル花札等ハ禁制物ニアラサルニ若シモ所有者ノ誰タルヲ論セスシテ之ヲ没収スヘキモノトスルトキハ所有者ノ承諾ナクシテ擅ニ使用シタルモノモ尙犯人ノ附加刑トシテ之ヲ没収スル不當ノ結果ヲ生スレハナリ故ニ之カ没収ノ言渡ヲ爲スニハ必ス犯人ノ所有ニ係



判旨第四點

ルカ又ハ所有者ナキコトノ明示ヲ爲サ、ルヘカフサルモノナルニ原判文ニ其明示ヲ欠キタルハ理由不備ナリト云フニ在レトモ○刑法第四十四條ノ外特ニ同第二百六十一條第二項ヲ規定シタルニ依レハ同項第四十四條ノ例外ト解釋スルハ相當ニシテ論旨ノ如ク狹隘ノ意義ニ解スルヲ得、不要スルニ其所有者ノ誰タルコト等ハ本件ノ判決ニ必要ナキヲ以テ原判文ニ之ヲ明示セサルモ理由不備ニアラストス『第三點ハ本件ノ桐箱ハ賭具ヲ入レタルニ過キスシテ之ヲ博奕ニ使用シタルコトハ原院モ認メサル所ナリ然ルニ尙ホ之ヲ沒収シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○賭具ヲ入レタル桐箱ハ賭博ノ器具ニ附屬セルモノナルヲ以テ現場ニアリタルコトヲ明示シテ之ヲ沒収シタル原判決ハ相當ニシテ批難スヘキコトナシ

判旨第五點

同辯護士朝倉外茂鐵上告趣意擴張書第一點ハ相辯護士沼田宇源太上告趣意書同原嘉道上告趣意擴張書第一點ト同一ノ主旨ニ歸スルヲ以テ重テ說明セス『第二點ハ原判文ニ山形縣巡查某々ノ認ムル所トナリ云々トアレトモ一作記錄中山形縣巡查カ本件ニ關與シタル事跡アルコトナケレハ原院ハ虛無ノ事實ニ依テ判決ヲ與ヘタル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○右山形縣云々トアルハ秋田縣ノ誤記ナルコト記錄上明瞭ナルヲ以テ其誤記ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス』第三點ハ原嘉道ノ上告趣意書第三點ト同一ノ主旨ニ歸スルヲ以テ重テ說明セス同辯護士高木錠太郎上告趣意書第一點ノ要旨ハ本件ニ付押収ニ係ル骨牌ハ百二十九枚ナルヲ押収目錄ニ依テ明カナリ而シテ第一審裁判所ニ於テハ骨牌九十六枚ヲ沒収シタルニ原院カ骨牌全部即百二十九枚ヲ沒収シタルハ被告人ノ不利益ニ判決ヲ變更シタル不法ルモノナリ

判旨第八點

ト出フニ在リ○因テ訴訟記錄ヲ檢スルニ上告論旨ノ如ク押収ノ骨牌ハ百二十九枚ニシテ第一審カ沒収シタルハ九十六枚ナリ然ルニ原院ニ於テ被告人ノ控訴ニ對シ其全部ヲ沒収シタルハ原判決ヲ不利益ニ變更シタル不法ナルヲ免カレス故ニ原判決申右骨牌沒収ニ係ル一部ハ破毀スヘキモノトス『第二點ハ原判文ニ山形縣巡查云々ト記載シアルニ基テ論旨ナレハ相辯護士朝倉外茂鐵上告趣意書第二點ニ對スル說明ニ依リ自ラ了解スヘキヲ以テ別ニ說明セス』第三點ハ刑法第二百六十一條ニアル賭博ノ器具云々ハ直接ニ犯罪ノ用ニ供シタルモノナルヲ要スルナリ然ルニ原判決ハ被告等カ緋フランチル皮ノ上ニ切地ヲ掛ケタル布團ヲ用ヒ花札ヲ打合スル所ニ數キタリトテ之ヲ沒収シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○直接ニ犯罪ノ用ニ供シタルト否トニ論ナカ現場ニ在ル賭博ノ器具ハ總テ之ヲ沒収スヘキモノナルコト法文上自ラ明カナルヲ以テ原院カ右ノ事實ヲ明示シテ之ヲ沒収シタルハ相當ナリトス

以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ被告三名ニ對スル骨牌沒収ノ一部ヲ破毀シ之ヲ東京控訴院ニ移ス其他ノ上告ハ同第二百八十五條ニ從ヒ棄却ス  
明治三十年十一月五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス



○偽證ノ件 明治三十年第九八九號  
明治三十年十一月五日宣告

○判決要旨

刑法第二百二十六條ハ偽證罪ノ公訴提起後ニ自首シタル場合ニ適用セス

(参照) 此節(偽證ノ罪)ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス(刑法第二百二十六條)

第一審 山口地方裁判所 第二審 廣島控訴院

被告人 長野京藏

右偽證被告事件ニ付明治三十年十月六日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
上告ノ趣意ハ原判決ノ認定ニ據レハ被告ハ明治三十年五月十七日他人ノ地所返還請求事件ノ證人トシテ陳述ヲ爲スニ當リ偽證ヲ爲シタルモノニシテ同年七月二十四日偽證被告事件公訴提起後ニ其ノ偽證ノ旨ヲ檢事局ニ自首シタリ而シテ其自首ヲ爲シタル時期ハ右地所返還請求事件ノ裁判宣告前ナリ故ニ本件ハ刑法第二百二十六條ニ依リ免刑ノ言渡ヲ爲スヘキモノナルニ原院カ被告ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○刑法第二百二十六條ハ偽證罪ノ發覺セサル前ニシテ且ツ其偽證ヲ爲シタル事件ハ裁判宣告ニ至ラサル前ニ自首シタルモノハニ適用スヘキ規定ナルヲ以テ本件ハ如ク既ニ偽證罪ハ公訴提起後ニ自首シタル場

ニ適用スルヲ得ス故ニ原判決ハ相當ニシテ上告論旨ハ其理由ナシトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十年十一月五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○委託物費消ノ件 明治三十一年第九九三號  
明治三十年十一月八日宣告

○判決要旨

委託物費消罪ノ目的物ハ贓物ナリ

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

公訴上告人 寺崎三郎

私訴上告人 黒川新助 訴訟代理人 丸山名政

右三郎ニ對スル委託物費消被告事件及附帶私訴ニ付明治三十年十月五日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被告三郎ヨリ公訴判決ニ對シ民事被告人黒川新助代理人丸山名政ヨリ私訴判決ニ對シ各上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル  
委託物費消罪ノ贓物



左ノ如シ

被告三郎上告趣意ハ被告ハ原院カ認メタルカ如キ犯罪ヲ爲シタルコトナキニ原院ハ不當ニ事實ヲ認メ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○事實ノ認定ハ原承審官ノ職權ニ專屬スルモノナレハ其當否ニ付テノ論難ハ上告適法ノ理由トナラス而シテ其認定シタル事實ヲ見ルニ被告ノ所爲ハ刑法第三百九十五條ニ該當スヘキニ罪俱發ニ係ルヲ以テ同條及同第百條ヲ適用シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ相當ニシテ毫モ不法ノ廉アルコトナシ

私訴上告人黒川新助代理人丸山名政ノ上告趣意ハ原院カ上告人ノ控訴ヲ棄却シタルハ本件ノ掛物ヲ以テ贓物ト爲シタルニアリ然レトモ贓物ハ盜罪詐欺取財罪等直接財産ニ對スル犯罪ニ付テノミ存在スヘク背信罪ニ之レ有ルヘカラス委託物費消罪ハ背信罪ナリ何トナレハ受托者カ寄託者ノ信用ニ反シテ其受託義務ヲ盡サトルニ基ク者ナレハナリ背信ニハ贓物ナル觀念ノ生スヘキ理ナキニ原院カ本件私訴ノ基本タル犯罪ヲ委託物費消罪ナリト認メ上告人ニ贓物返還ノ義務アリト爲シタルハ失當ノ見解ニシテ法律ヲ不當ニ適用シタル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○犯罪ニ關シタル物件カ贓物タルコトハ獨リ盜罪詐欺取財罪等直接財産ニ對スル犯罪ニ付テハミ存在スル者ニアラサルコトハ刑法中贓物ニ關スル節ハ下ニ第四百一條ニ詐欺取財罪其他ノ犯罪ニ關シタル物件云々トアルニ依テ明カナリ本件ハ係争ハ掛物ヲ賣却シタル犯罪ナリト爲シタルハ原院決ニモ引用シタル本件公訴判決ニ依リ明白ナレハ其掛物ハ右犯罪ニ關スル物件即チ贓物ナルコト亦論ヲ待メサルナリ必竟本論旨ハ委託物費消罪ニ關スル

贓物ナントハ誤解ニ基クモノニシテ上告適法ノ理由ナシ

同代理人ノ上告趣意擴張ノ第一ハ凡ソ私訴トシテ損害賠償又ハ贓物ノ返還ヲ請求セントスルニハ犯罪ニ因リ生シタル被害ノ事實ヲ證明スルヲ要ス然ルニ本件公訴私訴ノ判決ニ於テ認メラレタル所ニ依レハ是真瀧ノ親音畫幅ハ被上告人ヨリ三郎へ華族宗家へ賣却スルノ條件ヲ以テ其賣却方ヲ委任シタルヲ右三郎ニ於テ擅ニ之ヲ上告人ニ賣却シタリト云フニアリテ一モ被害ノ原因ヲ明示セス抑モ宗家へ賣ラスシテ上告人ニ賣リタルハ被上告人へ對シ如何ナル損害ヲ與ヘタルヲ判文上毫モ之ヲ認知スル能ハス從テ被上告人ハ刑事訴訟法第二條ニ所謂民法上ノ被害者ト認ムルニ由ナキヲ以テ本件私訴ヲ提起スルノ原因ヲ有セサルモノナリ然ルニ原院カ被上告人ノ請求ヲ容レ控訴ヲ棄却シタルハ刑事訴訟法第二條ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院決ノ引用シタル上訴判決ニ於テ本件畫幅ヲ擅ニ上告人ニ賣却シテ費消シタリト判定シ此所爲ノ委託物費消罪ヲ構成スルコトハ被告三郎ノ上告趣意ニ對シ證明シタル如クナル已上ハ即チ被上告人富吉ハ其所有ノ畫幅ヲ費消セラレタルモノト云フヘキヲ以テ被害ノ實質明白ニシテ原院決モ亦此理由ヲ明示セリト云フヘシ其第二ハ前掲判決ノ認定ニ依レハ本件ノ目的タル畫幅ハ刑事被告人寺崎三郎カ華族宗家へ賣却方ノ委託ヲ受ケナカラ擅ニ之ヲ上告人へ入質シ後賣却シ該物件ヲ費消シタル事實ハ公訴判決文ニ認ムル如ク明ナレハ即チ被告三郎ハ委託物件ノ費消ニシテ委託金ノ費消ニラレザル上告人ノ主張ハ其當ヲ得サル旨判示シアリ而シテ公訴判決文第二項ニ依ルモ該畫幅ハ單ニ華族宗家へ賣却スルノ條件ヲ以テ



委託セラレタル代理權限ニ背キ擅ニ之ヲ上告人へ賣渡シタル事實ヲ明示シタルモノレハ此認定タル民法上代理權ヲ越ヘテ委託物件ヲ賣却シタルノ事實ヲ認メ得ヘキモ委託物買消罪ヲ構成スルノ事實理由ト爲スニ足ラス何トナレハ既ニ賣却ノ權限ヲ與ヘラレタル已上ハ其賣却スヘキ場所ト人トノ制限ニ背キシカ如キハ本人ト代理人トノ民法上ノ關係ニ屬シ賣買契約ニ何等ノ關係ナクハナリ況ンヤ犯罪成立ニ於テチヤ然ルニ之ヲ以テ直チニ委託物買消罪ニ該當スルモノト斷定シ以テ控訴棄却ヲ言渡シタルハ刑法第三百九十五條ヲ不當ニ適用シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リテ

○本論旨ハ被告三郎ニ對スル公訴判決ニ對スル論議ニ外ナラス

テ私訴ニ對スル原判決ニ對スル上告ニ於テハ適法ノ理由トナラス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從テ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ總テ之ヲ棄却ス

私訴上告費用ハ私訴上告人之ヲ負擔スヘシ

明治三十年十一月八日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○強盜再審ノ件

明治三十年再審第五九號  
明治三十年十一月八日宣告

○判決要旨

公正證書ヲ以テ犯罪ノ當時二十歳未滿ノ者ニ對シ減等セスシテ判決シタルコトヲ證明シタルトキハ再審ノ訴ヲナスコトヲ得

(參照) 罪ヲ犯ス時十六歳以上二十歳ニ滿タサル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス(刑法第八十條)

再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲ス  
 一 得但判決確定ノ後ニアラサレハ之ヲ爲ス  
 二 得(刑事訴訟法第三百一十條)  
 公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ(同條第五號)

原告 長野重罪裁判所  
 被告人 大塚峰藏

右強盜被告事件ニ付明治二十三年五月十七日長野重罪裁判所ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ再審ノ訴ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第三百六條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

再審ノ訴旨ハ被告ハ出生以來定マラザル住所ヲ父母ト共ニ諸所徘徊中ニ成長シタル者ニシテ素ヨリ教育モナク隨テ其生年月日ノ如キモ記憶セス然ルニ今回監長代理四宮知萬ニ對シ

訴訟記録錯誤ノ再審



親屬ノ所在等ニ付其取調ヲ請求シタル未始メテ被告ノ生年月日ヲ知り得タルヲ以テ之ヲ計算スルニ本案犯罪ノ當時ハ二十歳未満ナレハ明治二十三年五月十七日長野重罪裁判所ニ於テ言渡シタル判決ハ刑法第八十一條ニ依リ一等ヲ減シテ處斷ス可キモノナルニ滿二十歳以上ト認メ判決シタルハ即チ訴訟記録ノ錯誤ニ基クモノニシテ不法ナリト云フニ在テ淺草區役所ノ戸籍證明書ヲ提出セリ○因テ原裁判所ハ訴訟記録ヲ査閱スルニ明治二十二年十二月二十四日長野重罪裁判所上田支部檢察局ハ照會ニ因リ東京市淺草區役所ヨリ送附シタル被告ノ父岩藏ハ寄留届書ニ被告ハ年齡ハ明治二年九月二十八日生トアレトモ其後岩藏ニ於テ當時原籍地タル石川縣鳳至郡岩井村字當目ヨリ東京市淺草區淺草松葉町四十三番地ニ轉籍シ其戸籍面寫即チ被告ハ提出シタル東京市淺草區役所ハ戸籍證明書ニ依リハ被告ハ明治四年九月生ニシテ岩藏ハ寄留届書ニ記載スル被告ハ生年月ハ錯誤ニ係リ犯罪ハ當時二十歳未満ナルコトヲ認ムルニ足レリ故ニ本件ハ公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ錯誤アルコトヲ證明シタルモノニシテ即チ刑事訴訟法第三百一條第五號ニ該當スル再審ノ原因アルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百七條第一項ニ依リ原判決ヲ破毀シ再審ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ札幌地方裁判所ニ移ス

明治三十年十一月八日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢察廳堂融立會宣告ス

○有夫姦ノ件

明治三十年第八三三號  
明治三十年十一月九日宣告

○判決要旨

告訴ノ抛棄ニ因テ公訴權消滅シタル場合ト雖モ一旦正當ニ提起セラレタル公訴ノ處分ハ判決ヲ以テ之ヲ終局ス

第一審 名古屋地方裁判所

第二審 名古屋控訴院

被告人 岩田高造

明治三十年七月十六日名古屋控訴院ニ於テ右高造ニ對スル有夫姦被告事件審理中被害者ヨリ告訴ノ抛棄ヲ爲シタルニ因リ本件公訴ハ消滅シタリト決定スト言渡シタルヲ不當トシ同院檢察長加納謙ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スル左ノ如シ

上告越意書前段ハ本件岩田高造カ尾關喜三郎妻アカト姦通シタリトノ被告事件ハ本夫喜三郎ノ告訴ニ因テ成立シタルモノナル所高造ニ於テ當院へ控訴中明治三十年七月十六日喜三郎ヨリ告訴取下書ヲ提出シタルヲ以テ刑事訴訟法第六條第二號ノ規定ニ基キ公訴權消滅ニ歸スルニ付免訴ヲ言渡スヘキモノナルニ原院ニ於テ判決ヲ用ヒス決定ヲ以テ控訴事件ノ終局ヲ告ケタルハ違法ナリト云フニ在リ○因テ審案スルニ本件ハ如ク告訴ノ抛棄ニ因テ公訴權消滅シタルハ告訴ノ抛棄ニ因ル公訴ノ處分



此場合ト雖モ一旦正當ニ提起セラレタル公訴ノ處分ハ判決ヲ以テ之ヲ終局スヘキハ當然ノコトナレハ設令原院ニ於テ決定トシテ之カ處分ヲ爲シタルモ名義ハ如何ニ拘ラズ事實上之ヲ終局判決ト看做サハルヘカラサルヲ以テ原院カ其判決ノ手續ヲ盡サハリハ法則ヲ適用セサル不法アルモハトス前ニ説明スル如クナルヲ以テ他ノ論旨ニ付テハ説明ヲ要セス因テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本件ヲ大阪控訴院ニ移ス

明治三十年十一月九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十年第八四〇號  
明治三十年十一月九日宣告

○判決要旨

全部控訴ノ場合ニ於テ其一部ニ對シテ理由アリ他ノ部ニ對シテ理由ナキトキハ當然二個ノ判決ヲ爲スヘキモノトス

第一審 福島地方裁判所白河支部 第二審 宮城控訴院

被告人 和田是運 辯護人 高木益太郎

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十年六月二十四日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
上告趣意第一點ハ本按被告事件ハ民事上ノ取引ニシテ刑事上ノ制裁ヲ受クヘキモノニ非スト云フニ在レトモ○原院ノ認メタル事實ハ被告ハ青木勘三郎ニ對シテ鎌谷堀製造過燐酸肥料一袋ヲ代金一圓ヲ以テ百三十袋賣却スヘキ旨申欺キ他人ノ所有ニ係ル過燐酸ヲ勘三郎ニ示シ約定ノ引渡品ナリト詐ハリ同人ヨリ金圓ヲ騙取シタルトコトナルヲ以テ原院カ此事實ニ對シ刑法ヲ適用シタルハ相當ナリトス同第二點ハ原院ハ刑事訴訟法ニ規定セル訊問手續ヲ踐行セスシテ裁判ヲ爲シタル同第三點ハ原院ハ本件ノ重要證據品タル過燐酸ヲ示シテ取調ヲ爲サトリシ同第四點ハ證據物件ハ被告人ニ示シテ辯解ヲ爲サシムヘキ規定ナルニ之ヲ無視シタルハ違法ナリ故ニ被告ハ充分辯論ヲ爲サントセシモ裁判長ニ於テ之ヲ制止シ及ヒ被告ヲシテ最終ニ發言セシムヘシトノ規定ニ背キタルハ不法ナリ同第五點ハ公法ハ契約ヲ以テ左右スルヲ得ヘキモノニ非ス然ルニ原院カ前項ノ過燐酸ヲ法廷ニ出サスシテ判決ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニ在リ○依テ原院ノ公判始末書ヲ閱スルニ裁判長ハ本件ノ證據トシテ押收ノ金圓及書類等一切ヲ被告人ニ示シ「問右證據物一切ニ對シ申立ツヘキ意見ナキカ」答「一切無之」裁判長ハ被告ニ對シ「檢事ノ論告ニ對シ申立ツヘキ意見及ヒ最終ノ陳述トシテ申立ツヘキ事ナキカ」答「檢事ノ論告ニ對シ云フ處ハ何レニアルカ知ラサルモ實際左様ナ處ハ無ヒト思フナリ其外申立ハ無之」トアリ各證據ニ對スル取調アリタルコト及ヒ被告ヲシテ最終ニ發言セシメタルコト明白ナルノミ



ナラス其他ノ訊問手續ニ於ケル毫モ法律ニ違背シタルコトナシ同第六點ハ被告カ勘三郎ヲ欺  
 罔シタリトスルモ此欺罔ハ決シテ刑法上ノ責任ヲ受クヘキモノニ非スト云フニ在リテ○縷々  
 論述スル所アルモ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス而シテ原院ノ  
 認定シタル事實ニ依レハ被告カ刑法上ノ責任ヲ免レサル前ニ辯明セシ所ノ如シ同第六點ハ原  
 判文ニ青木六郎ノ所有ニ係ル過燐酸ヲ示シ勘三郎ニ引渡スヘキ物品ナリト詐リ云々トアレト  
 ○青木六郎ナルモノハ本按ニ關係アル者ニ非ス且一件記録中同人カ取調ヲ受ケタル事蹟ナキ  
 ナリテ同人ハ判文上ニ現出スヘキ筋ニ非ス又小松川警察署ノ回答書ニ依レハ東京ニ鎌谷畑過  
 燐酸製造會社ナルモノナシトコトナレハ勘三郎ノ主張スル所ニ反セリ是理由ノ顯露ナリト  
 云フニ在レトモ○是亦原院ノ認定ニ屬スル事實ニ對シテ非難ヲ加フルモノニシテ原判決ノ理  
 由ニ於テハ毫モ顯露スル所ナシ同第八點ハ證人齊藤新平カ豫審廷ニ於テ取調ヲ受ケタル際被  
 告ト同人トノ身分上ノ關係ヲ問查シタルコトナシ而シテ被告ト同人トハ親族ナリト云フニ在  
 レトモ○同人ノ調書ニハ「問汝ハ和田是運トハ親族後見人雇人同居人等ノ關係ナキヤ答何モ聞  
 係無之トアルヲ以テ新平ハ本件ノ證人タル資格ニ於テ欠ケル所ナク從テ原院カ之ヲ證據ニ供  
 シタルハ相當ナリ」同第九點ハ原院カ公判廷ニ於テ取調ヘタル證據ハ甲第一號約定書同附屬書  
 及ヒ辯護士ヨリ提出シタル分ニ過キス故ニ原判決ノ破毀ヲ求ムト云フニ在レトモ○原院ノ證  
 據調等ニ付テ不法ノ點ナキコトハ前ニ辯明セシ所ノ如シ上告擴張書第一點ハ原判文ニ被告ハ  
 明治二十九年十二月四日新潟地方裁判所ニ於テ竊盜罪ニ依リ重禁錮一年ニ處セラレ云々トア

レトモ被告ハ明治二十九年十二月中ハ本按被告事件ノ爲メ白河監獄署ニ入監中ナリト云フニ  
 在リ○然レトモ原判決原本ニハ明治二十九年十二月四日新潟輕罪裁判所ニ於テ云々トアルヲ  
 以テ被告カ二十九年ナリトシテ陳述スルハ或ハ原判決原本ノ誤寫ニ基クモノナルヘシ則チ該  
 論旨ハ原判決ニ副ハサルモノトス同第二點ハ青木六郎ナル者ハ本按ニ關係ナシト云フニ在リ  
 テ○上告趣意第六點前段ノ論旨ト全ク同一ナルヲ以テ重テ説明ヲ與ヘス同第三點ハ原判文ニ  
 依レハ百三十俵ノ過燐酸ハ青木六郎ノ所有ナリトシ之ヲ六郎ニ還付セシモノ、如シ然ルニ右  
 過燐酸保管人ハ杉村大助ニシテ同人ハ六郎ヨリ預リタルモノニ非ス故ニ原判文ニ於ケル下付  
 ノ言渡ハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判文ニ所謂青木六郎ノ所有ニ係ル過燐酸ト差出人ニ  
 還付スヘキ過燐酸トハ全ク別物ナルヲ以テ則チ差出人ニ還付スト言渡シタルハ保管人杉村大  
 助ニ還付ストノ旨趣ニシテ青木六郎ニ關係ナク從テ還付ノ處分ニ於テ不法ナシ同第四點及ヒ  
 第五點ハ證據ノ取調手續上不法アリト云フニ在リテ○第一點乃至第四點ノ論旨ヲ再述スルニ  
 過キサルヲ以テ重テ説明ヲ與ヘス

辯護人高木益太郎辯明書第一點ハ原判決理由ニ「控訴ノ理由アル點ニ付テハ同(刑事訴訟法第二  
 百六十一條)第二項ニ從ヒ主文ノ判決ヲ爲スモノナリト掲ケアリ而シテ第二項ニハ控訴ヲ理由  
 アリトスルトキハ原判決ヲ取消シ更ニ判決ヲナスヘシトノ規定アルニ依リ原判決主文ニ第一  
 審判決ヲ取消ス旨ノ表示ヲ欠キタリシハ刑事訴訟法第百六十一條ニ背反シタル裁判ナリト云  
 フニ在レトモ○原判文ニハ原判決中「過燐酸百三十俵還付ノ點ハ之ヲ取消ス」保管ニ付シタル過



燐酸百三十袋ハ差出人ニ還付ストアリテ則第一審判決ヲ取消ス旨ヲ示シ更ニ判決ヲ爲シタル  
 コト明白ニシテ上告論旨ノ如キ瑕瑾ナシ同第二點ハ控訴ノ旨趣數多アル場合ニ於テモ控訴ハ  
 一個ノ上訴ニシテ數多ノ上訴アリタルニ非サレハ苟モ其理由申一個ニテモ正當ト認メラレタ  
 ル場合ニハ其控訴ハ全然成立シタルモノト看做ス可キモノナリ然ルニ原判決ノ理由ヲ視ルニ  
 控訴ノ理由ナキ點ニ付テハ刑事訴訟法第二百六十一條第一項ニ其理由アル點ニ付テハ同第二  
 項ニ從ヒ主文ノ判決ヲナスト説明シ一個ノ控訴ニ付二個ノ判決ヲ與フヘキモノトナシタルハ  
 法則違反ノ裁判ナルノミナラス其判決主文ノ初段ニハ本件控訴ハ左ノ部分ヲ除ク外之ヲ棄却  
 ス其次段ニ保管ニ付シタル燐酸百三十袋ヲ差出人ニ還付スト表示シタルモ亦同一撤ノ違法  
 アルモノナリト云フニ在リ○依テ案スルニ控訴ハ固ヨリ一個ナリト雖モ其控訴ハ第一審判決  
 ハ全部ヲ抗擊スルモノニシテ物件還付ノ如キ其一部ニ瑕瑾アリテ他ノ部ハ完全ナル場合ニ於  
 テハ則チ一部ニ對スル控訴ハ理由アリテ他ノ部ニ對スル控訴ハ理由ナキモノナレハ一個ノ控  
 訴ニ付キ二種ノ判決ヲ爲スハキハ當然ナリトス故ニ原院カ第一審判決ノ一部ハ之ヲ取消シ他  
 ノ部ニ對スル控訴ヲ棄却シタルハ相當ニシテ何等ノ法則ニモ反スルコトナシ  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十年十一月九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○印影盜用私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治三十年第九三八號  
明治三十年十一月九日宣告

○判決要旨

印影盜用罪ハ其影蹟ヲ行使スルニ因テ成立ス從テ他人ニ於テ盜捺シタル印影  
 ナリト雖モ之ヲ行使シタル者アルトキハ其行使者ハ印影盜用罪ヲ犯シタルモ  
 ノトス

(參照) 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓  
 以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減ス(刑法第  
 二百八  
 條)

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院  
 被告人 清水條之助 辯護人 花井卓藏

右印影盜用私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十年九月十日大阪控訴院ニ於テ言渡シ  
 タル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ  
 辯護士花井卓藏ノ辯論檢事安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ  
 上告趣意第一點ハ第一審判決ハ被告ノ金圓ヲ取得シタル所爲ヲ詐欺取財ト認メナカラ欺罔ノ  
 事實理由ヲ明示セサル違法アルニ原院カ之ヲ取消サスシテ控訴ヲ棄却シタルハ違法ナリト云  
 他人盜捺ノ印影行使



フニ在レトモ○第一審判決ノ說明ニ據レハ被告カ瀧川繁太郎等ト共謀シテ泉角之助ヨリ金百三拾圓騙取シタル事實ノ理由ハ明瞭ナルニ依リ原院カ第一審判決ヲ取消サ、リシハ違法ニアラス第二點ハ第一審判決ノ認定ニ據レハ被告ハ證書偽造行使ニ加功シタルノミニテ印影盜用ノ罪ヲ犯シタルニアラサルニ被告ヲ印影盜用罪ニ問擬シタルハ違法ナリ從テ原院カ第一審判決ヲ取消サ、リシハ違法ナリト云フニ在レトモ○被告ハ泉常助カ其父角之助ノ實印ヲ盜捺セシ白紙ヲ常助及ヒ繁太郎ト共ニ使用シテ角之助名義ノ證書ヲ偽造行使シ即角之助ノ印影ヲ盜用シタル事實ハ第一審判決ニ明示スル所ナルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ第三點ハ原判決ノ認定ニ據レハ泉角之助カ金百三十圓ヲ提供シタルハ任意ニ出テタルモノニシテ被告等ノ欺罔ニ依リ錯誤ニ陥リタルモノニアラス然ラハ被告等ノ所爲ハ詐欺取財ニアラサルニ原院カ其罪アリト認定シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○被告等カ詐言ヲ以テ角之助ヲ欺罔シ同人ヲシテ本件ノ證書ニ對抗スヘキ反證アラサル限リハ該證書ヲ無効ト爲スニハ多少出金セサルヲ得ストノ觀念ヲ起サシメタル事實ハ原判決ニ明示スル所ナリ夫レ斯ノ如ク角之助カ被告等ノ詐言ニ依リ虚偽ノ證書ニ對シ多少出金セサルヲ得ストノ觀念ヲ生シタルハ即チ欺罔ニ依リ錯誤ニ陥リタルモノナルヲ以テ原院カ被告ノ所爲ハ詐欺取財トシテ論シタルハ違法ニアラス第四點ハ原判決ニ詐欺取財ノ理由ヲ詳悉セサルハ被告等ノ所爲ハ欺罔ニアラスト爲シタルモノト假定センカ是レ明カニ犯罪成立ノ條件ヲ欠ケスルヲ以テ原判決ハ第一審判決ヲ取消シ無罪ヲ宣渡スヘキ筋ナルニ原院ノ處置茲ニ出テサルハ違法ナリト云フニ在レトモ○被告カ角之助

ヲ欺罔シテ金圓ヲ騙取シタル事實ノ理由ハ原判決ニ明示スル所ナルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ第五點ハ第二點ノ趣意ヲ敷衍シタルニ過キサレヲ以テ重子テ說明ヲ要セス第六點ハ原院カ自ら聽カサル第一審公廷ニ於ケル被告ノ供述ヲ斷罪ノ資料ト爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○第一審公廷ニ於ケル被告ノ供述ハ其公判始末書ニ錄取シアルヲ以テ之ヲ證據トシテ採用シタルハ違法ニアラス辯護士花井卓藏ノ擴張第一點ハ印影盜用ノ罪ハ他人ノ印章ヲ盜捺シ且ツ使用スルヲ以テ構成スルモノナリ然ルニ原判決ニ被告ハ他人ノ盜捺シタル印影ヲ行使シタルノミナル事實ヲ認メナカラ被告ニ印影盜用罪アリト爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○印影盜用ノ罪ハ其影蹟ヲ行使スルヲ以テ其罪ヲ構成スルモノナルカ故ニ他人ハ盜捺シタル印影ヲ行使シタルモノハ即チ印影盜用罪ヲ犯シタルモノナルヲ免レス然レハ原判決ハ違法ニシテ上告論旨ハ其理由ナシ第二點ハ原院カ印影盜用罪ニ付刑法第二百八條第二項ヲ適用シタルノミニシテ其第一項ヲ適用セザリシハ法律ノ理由ヲ具備セサル違法アリト云フニ在レトモ○刑法第二百八條第二項ヲ明示スレハ其刑ハ同條第一項ノ刑ニ一等ヲ減シタルモノナルコト明カナルニ依リ同第一項ヲ明示セザルモ法律ノ理由ヲ欠キタル違法アルコトナシ第三點ハ上告趣意第三點ヲ敷衍シタルニ過キサレヲ以テ重子テ說明ヲ要セス右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス明治三十年十一月九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス



○強盜殺人ノ件

明治三十年第九五四號  
明治三十年十一月十一日宣告

○判決要旨

止宿人ハ同居人ニアラス

第一審 長崎地方裁判所 第二審 長崎控訴院

被告人 横山幾太郎 辯護人 今井忠治

右強盜殺人被告事件ノ控訴ニ付明治三十年九月十日長崎控訴院ニ於テ審理ノ末本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ相手方原院檢事長大島貞敏ハ上告理由ナキ旨ノ答辯書ヲ差出シタリ  
大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ  
上告趣意書ノ要旨ハ原院ニ於テハ被告カ深堀富吉ヲ殺害シ金圓ヲ奪取セント決意シ同人ノ止宿所ニ到リシニ己ニ出發シテアラサリシヨリ直ニ其ノ跡ヲ追ヒ字神ノ浦ニテ追付キ同所ヨリ共ニ渡海船ニ乗シテ度島ニ渡リ同島字神ノ麓ト稱スル人跡稀ナル海邊ニ誘ヒ行キ云々ト判示セラレタレトモ被告カ度島ニ渡リタルハ富吉ノ懇誘ニ依リ己ヲ得スシテ同伴セシモノニシテ

敢テ被告ヨリ誘ヒ行キタルニアラサルコトハ一件記録ニ依リ明瞭ナリ然ルニ原院カ單ニ一片ノ推測ヲ以テ斯ク不當ニ事實ヲ確定セラレタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ被告カ字神ノ浦ヨリ富吉ト共ニ渡海船ニ乗シテ度島ニ渡リタル事實ヲ認メタルニ止マリ其渡島カ被告ノ誘引ニ出テタルコトヲ認メス本論旨ハ原判決ヲ誤解シタルモノニシテ固ヨリ適法上告ノ理由ナシ若シ原判決ニ人跡稀ナル海邊ニ誘ヒ行キトアル點ヲ攻撃スルノ意ナリトセハ是レ即チ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラスシテ同シク適法上告ノ理由ナシト辯護人今井忠治カ上告擴張ノ要旨第一點ハ原判決證據ノ明示ヲ見ルニ押收ノ獵銃及ヒ脚絆アリ然レトモ此二箇ノ物件ハ何レノ場所ニ於テ押收セラレタルモノナルヤ明ナラス其押收目錄ナルモノヲ開スルニ出張先ニ係ルヲ以テ官署ノ印ヲ用ヒサル旨ノ附記アリト雖モ其出張先トハ何レノ場所ナルヤ明記ナキハ以テ之ヲ知ルニ由ナシ或ハ家宅搜索ノ結果之ヲ押収セラレタルモノナランカ然ラハ其調書ト右押收目錄トニ契印ナカルヘカラサルニ其之ナキヲ見レハ其場所ニ於テセルモノト云フヲ得ス此ノ如ク其場所ヲ知ルヲ得ス且其手續ノ適法ニ行ハレタルヤ否ヲ審査スルヲ得サル事實ナルヲ以テ右二箇ノ物件ハ押收セラレタルモノト云フヘカラズスレテ法律上無効タルモノナリ若シ押收手續ニ依ラサル物ナルモ現存セル物件ニ徴シ罪ヲ斷スルヲ得ルトセンカ原判決ニ於テ此二箇ノ物件ヲ押收ノモノト明示セラレタルハ證據ノ明示ナキ違法アルモノト云ハサルヘカラスト云フニ在レテ○家宅搜索調査ト押收物件目錄トハ全



ク別箇ノ書類ナルヲ以テ其間ニ契印ヲ用ユルヲ要セス而シテ本件家宅搜索調査ニ獵統一挺及  
 附屬品并血痕ノ附符セシ脚絆ハ犯罪ヲ證スルニ足ランカト思料シ押収ヲナシタリト記シ又押  
 収物件目錄押収ノ場所ノ欄内ニ川久保馬太郎宅ト記シアリテ豫審判事カ川久保馬太郎方ニ出  
 張シ家宅搜索ノ上右獵銃等ヲ適法ニ押収シタルコトヲ知ルニ足レリ故ニ原院カ是等押収物件  
 ナ斷罪ノ資料ニ供シタルハ相當ニシテ毫モ違法ノ疵アルコトナシ同第二點ハ被告カ白石イ  
 方ニ同居セル者ナルコトハ被告豫審調査ニ住所ハ北松浦郡大島村的山白石イエ方止宿トアル  
 ニ徴シテ明瞭ナリ然レハ白石イエハ證人ト爲ルコトヲ許サハル者ナルニ之ヲ證人トシテ訊問  
 シタル豫審調査ハ無効ノモノト云ハサルカラス隨テ此無効ノ書類ヲ斷罪ノ具トセラレタル第  
 一審判決ハ不法ナルニ原院ハ之ヲ是認シ被告ノ控訴ヲ棄却セラレタルハ不法ヲ免カレサルモ  
 ノナリト云フニ在レトモ○證人白石イエハ調査ヲ查閱スルニ問汝ハ被告ハ横山幾太郎ニ對シ  
 刑事訴訟法第二百二十三條各項ニ抵觸スル者ニアラスヤ答ナシトアルニ依リハ被告ハ調査ニ白  
 石イエ方止宿トアルハ一時宿泊シ居ルトハ意ナルコトヲ推知スルニ足ルハシ左レハ白石イエ  
 證人トシテ訊問シタル豫審調査ハ區ヨリ有効ニシテ第一審判決之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ  
 決シテ違法ニ非ス隨テ原院カ第一審判決ヲ認可シ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ相當ナリトス  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十年十一月十一日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○監守盜ノ件

明治三十年第一〇〇四號  
明治三十年十一月十一日宣告

○判決要旨

刑事訴訟法第二百二十三條第四號ニ所謂雇人トハ一私人ニ雇傭セラル、者ヲ指  
 示ニ官吏公吏ヲ包含セス

(參照) 左ニ記載シタル者ハ證人トナルコトヲ許サス但宣誓ヲ爲サスシテ事實參考ノ  
 爲メ其供述ヲ聽クコトヲ得(刑事訴訟法第百二十三條)

民事原告人及ヒ被告人ノ雇人又ハ同居人(同條第)

第一審 長崎地方裁判所 第二審 長崎控訴院

被告人 猪股正規 辯護人 高木益太郎

右監守盜被告事件ニ付明治三十年十月五日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上  
 告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ  
 上告趣旨ハ原院カ費消シタリト認メタル金員中ニ紛失金種別ニ關スル届書並ニ證人原口精四

雇人ノ意義



耶ノ豫審調書ニモ明ナル如ク尙武會寄附金上ノ浦講金火災救助金ノ如キ村税ニアラサル金員アリテ収入役カ職務上保管ス可キ金員ノモニアラス然ルニ原院ハ悉皆村税ト認メ右等ノ金員ニ對シテモ亦監守ノ責アルモノト爲シタルハ不法ナリト云フニ在テ○本論旨ハ要スルニ原院カ認定外ノ事實ヲ論疏シ以テ其職權ニ存スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナルヘキモノニアラス

辯護人高木益太郎カ辯明論旨ノ第一點ハ第一審公判始末書ニ依レハ判決言渡ヲ公行シタルノ記載ナキニ付第一審判決ハ適法ニ言渡サレタルモノニアラサルニ原院カ第一審判決ヲ取消サリシハ違法ナリト云フニ在レトモ○第一審公判始末書ヲ査閱スルニ公廷ヲ開始シタリト記載シアリテ公廷ヲ開始スルトキハ即チ公開ノ意義ナルコト自ラ瞭然ナレハ判決言渡ヲ公行シタルモノト認メサルヲ得ス故ニ本論旨ハ適法ノ理由ナキモノトス

同第二點ハ刑事訴訟法第二百二十三條ニ所謂雇人トハ公私ノ雇人ヲ指スモノナレハ村ノ民事原告人タル場合ニハ證人ニ對シ其雇人ナルヤ否ヤヲ問ハサル可カラサルハ勿論ナリ而シテ本件ハ福田村長原口精四郎ヨリ私訴ノ申立ヲ爲シタル後豫審判事ハ證人溝口正路今道勝次ヲ取調フルニ當リ民事原告人ニ對シ雇人ノ關係アリト否ヤヲ問查セス故ニ右兩名ノ供述ハ證言ノ効ナキモノナルニ第一審カ之ヲ證言トシテ罪證ニ供シタルハ不法ナリ然ルニ原院カ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ是亦不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百二十三條第四號ニ所謂雇人トハ一私人ニ雇傭セラルルハ所ハ者ヲ指シタルモノニシテ官吏若クハ公吏ハ如キハ之ニ

包含セカハコト勿論ナリ而シテ本件ノ民事原告人ハ福田村ニシテ村長原口精四郎之カ代表者タルニ過キサレハ證人溝口正路外一名カ公ノ法人タル民事原告人ニ對シテ雇人タルヤ否ヤハ毫モ右第二百二十三條第四號ニ關係ナ有スル事柄ニアラサルヲ以テ之ヲ問查スルコトヲ要セザルナリ因テ第一審ニ於テ溝口正路外一名ノ豫審調書ヲ證言ノ効アルモノトシテ罪證ニ供シタルハ相當ナルニ付原院カ被告ノ控訴ヲ棄却シタルモ亦當然ナリトス

同第三點ハ醫師今道勝次カ巡查立會ノ上作タリル檢案書ノ如キハ固ヨリ罪證トナル可キモノニアラス然ルニ第一審カ之ヲ罪證ニ供シタルハ不法ナルニ原院カ第一審判決ヲ認可シタルモ亦不法ナリト云フニ在レトモ○檢案書ノ如キハ固ヨリ法式ニ依テ作成ス可キモノニアラサルハ巡查カ其檢案ニ立會タリトテ之ヲ以テ右檢案書ヲ無効ナリト爲スノ謂レナシ故ニ其之ヲ罪證ニ供シタルハ不法ニアラサルニ付原院カ第一審判決ヲ認可シタルハ是亦相當ナリトス

同第四點ハ原判決ハ保管金三百九十九圓ヲ費消シタル場所ヲ明示セス即チ理由ヲ付セサルモノナリト云フニ在レトモ○被告カ竊取シタル金員ヲ費消スルカ如キハ即チ本案犯罪ノ結果タルニ過キサレハ其費消ノ場所ノ如キハ固ヨリ之ヲ明示スルコトヲ要セス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年十一月十一日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス



○私印盗用等ノ件

明治三十年第九六四號  
明治三十年十一月十二日宣告

○判決要旨

偽造文書ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリ從テ官衙ニ保存スルモノト雖モ亦之ヲ沒收ス

第一審 富山地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 加藤 一二

右加藤一二カ私印盗用私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十年九月二十七日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル第二審ノ判決ニ服セス被告人ハ上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

上告ノ要旨ハ第一原判決書ヲ閱スルニ第一項ニ右私印盗用私書偽造行使詐欺取財被告事件云々判決ノ全部ニ對スル被告ノ控訴及檢事ノ附帶控訴審理判決スルコト左ノ如シトアルモ本件被害者淺野助三郎ハ詐欺取財ノ被害無之シテ豫審判事ニ於テモ私印盗用私書偽造行使被告事件トシテ取調ヲ爲シタリ然ルニ何レヨリ詐欺取財事件ノ起訴アリタルモノナルカ被告人之ヲ知ラス又檢事ノ附帶控訴トアルモ何裁判所檢事ノ附帶控訴ナルヤ明記ナキハ共ニ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○富山地方裁判所檢事ノ豫審請求書ニ被告カ淺野助三郎ノ實印ヲ盗用

シ同人ノ金借證書ヲ偽造シ其偽造證書ヲ以テ他ヨリ金圓ヲ騙取セシ事件ト記載シアリテ詐欺取財事件ニ付適法ノ起訴アリタルヤ明瞭ナリ而シテ豫審調書ニ私印盗用私書偽造行使等被告事件トアリテ其詐欺取財事件ヲモ取調ヘタルヤ亦明カナリ又本件ハ前ニ大阪控訴院ニ於テ立會檢事ノ附帶控訴アリ仍ホ原控訴院立會檢事ニ於テモ委任狀偽造行使ハ刑法第二百十條一項ニ依リ處分セラレタシトノ附帶控訴アリタルコトハ各公判始末書ニ掲載スル所ニシテ其檢事ノ氏名及ヒ何レノ裁判所ナルヤノ事實ハ之ヲ判文ニ記載スルノ必要ナシ第二假リニ詐欺取財罪アリトスルモ被害者ハ藏島吉治郎ニシテ淺野助三郎ヨリ訴ヲ受ケル限ニアラス吉治郎ハ證人トシテ取調ヘテ受ケ居ルノミニテ訴ヲ爲シタルコトナシ其豫審調書ニ依ルモ詐欺ノ事實ナキハ勿論相被告上野安太郎吉田磯次郎兩名ニテ吉次郎ト正當ノ貸借ヲ爲シ明治三十年二月下旬頃既ニ返金シタル事實ニシテ不正ノ所爲ナキコトハ明白ナルニ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○詐欺取財罪ハ固ヨリ告訴ヲ待テ受理スヘキモノニ非サレハ被害者カ告訴ノ有無ヲ問フノ必要ナシ其他ノ論旨ハ裁判官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キスシテ適法ノ理由ナシ第三原判決書中ニ他ノ紙片ニ同人ノ印影ヲ盜捺シ置キ云々其捺印トアル紙片ヲ使用シトアルモ其紙片トハ如何ナルモノナルヤ半面紙又ハ紙切ノ極小ナルモノナラシカ本件犯罪ニ供シタリト認メタル物件ハ總テ全紙ノ紙又ハ活版摺ノ證文用紙ニシテ全紙五枚以上ニ涉リ相當印紙ヲ貼用シ消印ヲ爲シ助三郎名下ニ同人ノ實印ヲ押捺シ用紙ノ每葉ニ実印迄アルモノナルニ斯カルモノテ紙片ト稱スルヤ是レ理由ノ失當ナリト云フニ在レトモ



○他ノ紙片ニ印影ヲ捺捺シトアルハ他ノ白紙ノ一片ニ捺印シタリトノ事ニシテ紙切ノ小ナルモノトノ謂ヒニ非ス本論旨モ亦事實認定ノ非難ニ止マリテ適法ノ理由ナシ第四證人池田小次郎ノ豫審調書ハ被告ノ利益不利益ニ拘ハラズ原判決書中ニ之ヲ記載セス排斥セラレタルハ違フ、ト云フニ在レトモ○裁判官ノ職權ニ屬スル證據取捨ノ當否ヲ非難スルニ過キスシテ適法ノ理由ナキモノトス其擴張書ノ要旨ハ第一原判決書ニ同月四日富山市大字殿町末廣亭ニ於テ磯次郎名義ノ金百三十五圓ノ借用證書ニ前記偽造ノ借用證書ヲ添ヘ之ヲ吉次郎ニ交付セシメ被告ハ磯次郎ヲシテ吉次郎ヨリ現金五十圓ト額面七十五圓ノ預リ證書ヲ騙取シタリトアルモノ一件記録ニ依レハ忠太郎磯次郎兩名ニテ末廣亭ニ至リタルモノナルニ被告カ右亭ニ至リタル如クアルハ理由ノ失當ナリ又吉次郎ニ交付セシ借用證書ハ金額百二十五圓ナルニ之ヲ百三十五圓ノ證書ヲ交付シ現金五十圓ト七十五圓ノ預リ證書ヲ騙取シタリト爲シ合計金高二十圓ノ差ヲ生シ不利益ナル失當アリ右金額ノ百二十五圓ナルコトハ第一審判決及ヒ一件記録押取ノ證書ニ依リ明カナルニ金百三十五圓ト記載セシハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判文ニ金百三十五圓トアルハ百二十五圓ノ誤記ナルコト訴訟記録ニ徴シ明瞭ナレハ文字ノ誤記ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス其他ノ論旨ハ事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス第二原判決書ニ右被告カ借用證書并ニ其附屬ノ反別明細表及ヒ委任狀ニ淺野助三郎ノ印影ヲ盗用シタル二所爲ハ共ニ刑法第二百八條第二項及第一項同第二百十二條ニ借用證書并ニ其附屬明細表及委任狀偽造行使ノ所爲ニ從ヒ右第二百八條第二項

及第一項第二百十二條ニ依リ處斷シトアルモ私印盗用罪ハ刑法第二百八條第二項ノ罪ナルニ原院ハ其重キ私印偽造ノ刑タル同條第一項ヲモ適用シタルハ違法ナリ又反別明細表偽造ノ所爲ハ同第二百十條第二項ナルニ之ヲ重キ第一項ニ適用シ委任狀偽造ノ所爲ハ同條第一項ニ適用ハ正當トスルモ第一審ハ之ヲ二項ニ適用シアルヲ其重キ第一項ヲ適用シタルハ共ニ被告ノ不利益ニ變更シタル違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○私印盗用ノ所爲ハ刑法第二百八條第二項ニ該當シ同第一項偽造ノ刑ニ一等ヲ減スヘキモノニシテ第一項ニ照シ刑期ヲ定ムヘキモノナレハ同條第二項及第一項ト記載シタルハ相當ナリ又反別明細表ハ借用證書ニ附屬シタルモノナレハ原判文ニ借用證書并ニ其附屬明細表及委任狀偽造行使ノ二所爲ハ云々トアリテ借用證書偽造ト明細表偽造トヲ合シテ一所爲ト認メタルモノニシテ明細表偽造ノ所爲ニ付別ニ刑ノ首渡ヲ爲シタルニ非ス委任狀偽造ノ所爲ニ付テハ原院立會檢事ノ附帶控訴ニ依リ第一審判決ヲ變更シタルモノナレハ共ニ相當ニシテ一モ違法ノ點ナシトス第三原判決書ニ第一審裁判所ニ於テ云々被告カ詐欺取財ヲ爲スニ因テ私書ヲ偽造行使シタル所爲ハ云々其刑ヲ科シタルハ前後ノ理由支吾スル失當ノ判決ナルニ付被告及檢事ノ附帶控訴ハ何レモ其理由アリトアルモ被告カ詐欺取財ノ所爲ナキハ右被告人ノ證人磯島吉次郎池田小次郎ノ各豫審調書ニ依リ明白ナリ又被告ハ私書ヲ偽造行使セス其私書ニ借用證書ト委任狀トノ二個アリ其何レノ私書ナルヤチ明示セサルハ失當ナリ又假ニ詐欺取財ノ所爲アリトアルモ被害者ハ磯島吉次郎ナルニ原院檢事ノ上告答辯書ニ淺野助三郎ニ對スル詐欺取財事件云々トアルハ不當ナリ又原院檢



事ノ論告中ニ附帶控訴ノ論告ナシ假リニ附帶控訴アルトスルモ被告ニ利益ノ控訴ナルニ原院ハ第一審判決ヲ取消シ更ニ同一ノ刑ヲ言渡シ其理由ニ不利益ノ變更ヲ爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○被告カ詐欺取財及私書偽造行使ノ所爲ナシトノ論點ハ事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス而シテ其犯罪ノ事實ハ列文前段ニ明示スル所ナレハ其後段ニ至リ重子テ私書ハ如何ナル種類ナルヤヲ示スノ必要ナシ又原院檢事ノ上告答辯書ニ報復アリトスルモ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコト得ス又檢事ノ附帶控訴アリタルハ上告第一點ニ對シ説明スル如シ而シテ原控訴院檢事ハ附帶控訴ヲ爲スト明言セスト雖モ公判始末書中ニ檢事ハ云々原判決ヲ取消サレ且委任狀偽造行使ハ刑法第二百十條一項ニ依リ處分セラレタシトノ趣意ヲ陳述シタリト記載シアレハ其附帶控訴ナルヤ明瞭ニシテ且被告ニ利益ノ控訴ニ非サルヤ論ヲ俟タス要スルニ原判決違法ノ點ナシ第四原判決書末項ニ押収書類ノ内偽造ニ係ル借用證書ト其附屬反別明細表ノ正本謄本及委任狀各一通ハ之ヲ沒收シ其他ノ分ハ各差出人ニ還付ストアルモ押収書類ニ二種アリテ一ハ吉田機次郎ノ手元ヨリ押収シタルモノ一ハ豫審ニ於テ富山區裁判所ヨリ取り寄セニ相成リタルモノトス而シテ其二種ノ内ヨリ偽造ノ借用證書ト其附屬反別明細表正本謄本及委任狀各一通ヲ沒收スルトキハ區裁判所ニ於テ登錄シタル爲メ保存シ置クヘキ書類ハ何ヲ保存スルヤ其證據ヲ失フ如シ犯罪ノ用ニ供シタル物件トシテ沒收スルモノナラハ登記願書點檢用紙等數通ノ書類アルニ之ヲ沒收セス却テ區裁判所カ保存スヘキ必要ノ書面ヲ沒收シタルハ失當ナリ假リニ其沒收ハ正當ナリトスルモ第一審判決ハ偽造ニ係ル借用證書一通ヲ沒收

シアルニ原院カ右數多ノ書類ヲ沒收シタルハ刑事訴訟法第二百六十五條ニ違背セル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○被告カ借用證書委任狀等ヲ偽造行使シタル事實ハ原判文前段ニ明示スル所ナレハ其末段ニ至リ押収書類ノ内偽造ニ係ル云々ト記載シアレハ前段ニ記載セシ偽造書類ナルヤ明瞭ナリ而シテ偽造文書ハ法律上ノ禁制物ナルヲ以テ區裁判所ニ保存シ置キタルモノト雖モ之ヲ沒收スルハ當然ニシテ原判決違法ノ點ナシ又刑事訴訟法第二百六十五條ハ被告入ノミ控訴ヲ爲シ又ハ被告ノ利益ノ爲メ檢事ヨリ控訴ヲ爲シタル場合ニ適用スヘキモノニシテ本作ノ如キ被告ニ不利益ナル檢事ノ附帶控訴アリタル場合ニ於テ同條ヲ適用スルコトヲ得ス要スルニ本論旨ハ一モ適法ノ理由ナキモノトス

右ノ理由由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十年十一月十二日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事安居修談立會宣告ス

○私書偽造行使等ノ件

明治三十年第六九〇號  
明治三十年十一月十五日宣告

○判決要旨

豫審ノ決定ハ公判ノ判決ヲ拘束セス

豫審決定ノ効力



第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 水野次郎 酒井次郎 藤野次郎 岡田嘉吉 辯護人 田澤鎮太郎

右私印私書偽造行使詐欺取財未遂被告事件ニ付明治三十年六月十五日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告四名ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ裁判所構成法第四十九條ニ基キ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告水野次郎ノ上告趣旨ハ被告ハ相被告ト共謀シ本案ノ送金手形ヲ偽造シタルモ何人ニモ一見其偽造タルコトヲ認メ得ラル可キモノニシテ到底其目的ヲ達シ得サルヲ覺悟シ共謀者一同相談ノ上悉皆焼却シ且解散スルコトニ決シ所用ノ爲メ静岡地方ニ旅行シ其後ノ事情ハ毫モ與リ知ラス又偽造ノ所爲ニ付テモ相被告酒井次郎ヨリ相談ニ與リタル迄ニシテ更ニ關係セスト云ヒ同擴張書ノ論旨ハ右上告趣旨ヲ敷衍スルニ在テ

○本論旨ハ要スルニ原承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラス  
被告酒井次郎ノ上告趣旨第一點ハ本件ニ付被告ノ所爲ハ中止犯ナルコト訴訟記録ニ徴シテ明瞭ナリ抑中止犯ノ如キハ所謂心性作用上ノ運動ニシテ其眞非ハ情狀ノミヲ以テ推測ス可カラサルモノニシテ實ニ法理上ノ判斷ヲ必要トス云々然ルニ原院ハ第一審ノ相被告タル河村信敏ノ調書ノ如キハ其供述眞偽相半シ毫モ罪ヲ斷スルノ價值ナキモノナルニ同人ノ調書ノミニ依

リ被告ヲ有罪ト斷定シタルハ願フニ被告等ハ前科アルヲ以テ其情狀ヲ惡ミ中止犯ノ如キハ輕キニ之ヲ看過シタルモノナリト云フニ在レトモ  
○本論旨ハ要スルニ原院ノ認定外ノ事實ヲ以テ其認定シタル事實ヲ論難シ且其斷案ノ資料ニ供シタル證憑ノ當否ヲ非議スルニ外ナラサレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラサルナリ

同第二點ノ第一ハ本案ノ送金手形ハ權利義務ニ關スル普通ノ證書ニシテ刑法第二百十條ニ開擬ス可キモノナルニ同第二百九條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ナリト云ヒ第二ハ本件ニ付相被告岡田嘉吉ハ豫審終結決定ニ對シ原院ニ抗告ヲ爲シタルニ原院ハ原決定ヲ取消更ニ輕罪公判ニ付ス可キモノト決定シタリ故ニ第一審ハ此決定ニ基キ輕罪ト認メタレトモ被告ハ尙ホ之ニ服スル能ハスシテ原院ニ控訴ヲ爲シタルニ原院ハ檢事ノ附帶控訴ヲ採用シテ輕懲役ニ處シタリ此ノ如ク原院ハ同一事件ニ付前ニハ輕罪ト決定シ後ニハ重罪ト判決シタルハ不當モ亦甚シト云フニ在レトモ  
○送金手形ハ原院文ニ認ムル如ク名宛人若クハ其手形持參人ニ對シ手形ト引替ニ直チニ金員ヲ拂渡ス可キモノナレハ右手形ハ金額ト交換ス可キモノニシテ決シテ權利義務ヲ證明スルニ過キササル普通ノ證書ト同視ス可キモノニアラズ故ニ原院ハ刑法第二百九條ヲ適用シタルハ相當ノ判決ナリ又豫審ニ於ケル抗告ノ決定ハ即チ豫審ノ決定ナレハ豫審ノ決定ハ公判ハ判決ヲ拘束ス可キモノニアラス故ニ原院ニ於テ豫審ノ抗告ニ對シテハ本件ヲ輕罪トナリト決定シ公判ノ控訴ニ對シテハ本件ヲ重罪ナリト判決スルモ決シテ不當ニアラサルナリ  
同第三點ハ本件支拂切符ノ如キハ權利義務ヲ證スル文言ノ記載ナク又其證印ナク其他債權者



及ヒ債務者ノ氏名金額年月日ノ記載ナク一片ノ反古紙ニ過キササルニ刑法第二百十條ニ間擬シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○支拂切符ハ其支拂ヲ爲ス可キコトヲ證明スルモノナレハ即チ刑法第二百十條第一項ニ所謂債利義務ニ關スル證書ニ外ナラス故ニ原院力之ニ間擬シタルハ相當ナリトス

同第一辯明書ノ第一論旨ハ本件ノ犯罪ハ明治二十七年十二月二十九日ニシテ被告力承諾上巡查ト同行シテ警視廳ニ至リタルハ明治二十八年十二月十四日ナレハ非現行犯ナルコト訴訟記録ニ徴シテ明ナリ抑非現行犯ノ場合ニ於テハ司法警察官ハ被告ヲ訊問シテ其調書ヲ作ルノ職權ナシ然ルニ第一審力司法警察官ノ作リタル訊問調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不當ナリ故ニ原院ニ於テハ此訊問調書ヲ罪證ニ供セス然ラハ則被告ノ控訴ハ其理由アルモノナルニ之ヲ棄却シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○訴訟記録ヲ查閱スルニ被告酒井次郎及ヒ水野次郎ハ司法警察官ニ於テ監視違犯ノ準現行犯ト認メ被告兩名ヲ訊問シ其調書ヲ作リタルモノナレハ第一審力此訊問調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ失當ニアラサルニ付原院カ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ違法ニアラサルナリ

同第二論旨ハ原判決ノ事實理由中ニ同所支拂掛ヘ偽造ノ手形及ヒ支拂切符ヲ差出シトアリテ明カニ二所爲ナルコトヲ認メナカラ法律適用ノ理由ニ至リ送金手形偽造行使ノ所爲ハ刑法第二百九條ニ大倉組名義ノ受取書及ヒ支拂切符偽造行使ノ所爲ハ同法第二百十條第一項第二百十二條ニ云々トアリテ三所爲ト爲シタルハ理由ノ顯赫ナルヲ云フニ在レトモ○原院ノ認メタル事實ニ依レハ大倉組名義ノ受取書ハ送金手形ノ裏面ニ記載シタルモノナレハ偽造ノ手形及ヒ支拂切符ヲ差出シタルコトアル判文中ニ右大倉組名義ノ受取書モ亦之ニ包含スルコト勿論ナレハ事實ノ理由ニ於テモ亦三所爲ヲ認メタルコト明カナリ故ニ原判決ハ本論旨ノ如キ不法アルコトナシ

同第二辯明書ノ第一論旨ハ上告趣旨ノ第一點ヲ敷衍スルニ過キサス其第二論旨ハ本件ノ送金手形タルヲ其當日ノ相印ハ丁日即チ二十八日ハ鵜形ノ印ヲ押捺シ半日即チ二十九日ハ鵜形ノ印ヲ押捺スルモノナリ而シテ本來最初ノ計畫ハ丁日即チ二十八日ニ實行スル答ニテ其日ノ相印ニ押捺スル鵜形ノ印ヲ刻セシモ半日即チ二十九日ニ押捺スル鵜形ノ印ハ彫刻セス故ニ送金手形ニ押捺シアルハ鵜形ノ印ハ二十九日ニ之ヲ實行シタルハ相印相違シ居リテ決シテ通用シ得ヘキモノニアラス即不能犯ナリト云フニ在レトモ○本論旨ハ原院カ認定外ノ事實ヲ以テ其認定シタル事實ヲ非難スルニ外ナラサレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

被告瀧澤菊吉ノ上告趣旨ノ第一點辯明書ノ第一點第一上告趣意追伸書ノ第三點第三追申書ノ第一點ノ論旨ハ前掲被告酒井次郎カ上告趣旨第二點ノ第二論旨ト同一ニ歸着シ之ヲ敷衍スルニ過キサレハ其説明ニ過キサレハ其説明ニ依テ之ヲ了解ス可シ



同上告趣旨ノ第三點ハ原院公廷ニ於テ被告ハ相被告ト面識アラサルコトヲ證スルニ於テハ其共謀ノ事實ハ最モ緊要ノ點ニシテ共謀又ハ行爲ノ如何等ニ依リ罪ノ輕重ハ勿論罪ハ有無ノ由ヲ岐ル所ナルニ之ヲ詳ニセサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○已ニ原院ニ於テ共謀ト認メタル上ハ要スルニ本論旨ハ事實點ニ非難ニ過キサレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

同上告趣旨ノ第四點ハ假リニ川村信敏ノ妄言ヲ信シ被告カ本件ノ紹介ヲ爲シタルモノトスレハ從犯ヲ以テ論セサル可カラサルニ原判決茲ニ出テサルハ不法ナリト云フニ在テ○辯明書ノ第四點ノ論旨ハ之ヲ反覆敷衍スルニ過キヌ要スルニ本論旨モ亦原院カ認定外ノ事實ヲ以テ其認定シタル事實ヲ論難スルモノニシテ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

同辯明書ノ第三點ノ論旨ハ川村信敏ノ供述中新井云々ノ間ニ對シ俄ニ思ヒ直セシ如ク實ハ偽名云々ト答ヘタル一言ハ甚々訝カシキ所ナリ云々然ルニ同人カ虛無ノ一言ニ信憑ヲ置ク上ハ被告及ヒ社會ノ安寧ヲ保持スルコトヲ得ス云々ト云フニ在テ○事實點ノ論難ニ過キサレハ固ヨリ採ルニ足ラサルモノトス

同第一上告趣旨追伸書ノ第一點ノ論旨ハ原判文中只共謀シトアテ被告カ共謀ノ事跡ナケレハ事實理由ノ明示ヲ缺キタルモノナリト云フニ在レトモ○被告カ共謀ノ事跡ナシト云フハ原院カ認定外ノ事實ニ屬ス故ニ原判文ニ共謀ト認メタル上ハ理由ノ明示ヲ缺キタルモノニアラス

同第二追申書ノ論旨ハ被告ハ新井ト稱シタルコトナシ云々又相被告酒井次郎ノ供述等ニ依ル

○本件手形ノ偽造ハ以前ニ成立チタルモノナルニ原判文ニ被告四名ハ云々ト同一視シタルハ不法ナリ且被告ニ對シ共謀ノ事實理由ヲ明示セスト云フニ在レトモ○右前段ノ論旨ハ事實上ノ論難ニ過キサレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラス又後段ノ論旨ハ原判文ニ共謀ノ事實理由ヲ明示シアルニ付其謂レナキモノトス

同第三追申書ノ第二段ノ論旨ハ被告ニ對シ所爲ノ形跡ヲ明示セサルハ即チ事實ノ理由ヲ付セザルモノナリト云フニ在レトモ○已ニ原判文ニ共謀ノ事實ヲ認メ他ノ共犯ニ於テ其實行ヲ爲シタルノ事實ヲ認メタル上ハ即チ分身一體ノ行爲ナルニ付被告ノ所爲ニ對スル事實ノ理由ヲ付セザルモノト論スルコトヲ得ス

同上告追加參考書ト題スル書面ヲ提出シタレトモ上告論旨ト認メ難キニ付説明ヲ與ヘス

被告岡田壽寧カ上告趣旨ノ前段ハ原院ニ於テ相被告數名ト共謀シテ送金手形偽造行使ノ所爲ニ加功シタルモノト認メタルトモ被告ハ毫モ關係シタルニトナシ故ニ其關係シタリトノ證據ナキノミナラス被告ヨリ提供シタル立證申請ヲ却下シナカラ送ニ共謀者ト判定シタルハ不法ナリト云ヒ其後段ハ被告ノ所爲ヲ刑法第二百九條ニ問擬シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在テ

辯明書第一點ノ論旨ハ右後段ノ趣旨ヲ敷衍シ同第三點前段ノ論旨ハ上告趣旨ト同一ニ歸着スルモノナリ○然レトモ前掲上告趣旨ノ前段ハ原承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラス又其後段ハ被告酒井次郎ノ上告趣旨第二點ノ第一論旨ト同一ナルニ付其説明ニ依テ了解ス可シ



同擴張書第二點ノ論旨ハ前掲被告酒井次郎ノ上告趣旨第二點ノ第二論旨ト同一ナルニ付其說明ニ依テ了解ス可シ

同擴張書第三點後段ノ論旨ハ被告ハ正犯ヲ幫助シタル從犯ナルニ刑法第九條ヲ適用セザルハ不法ナリト云フニ在テ○本論旨ハ原院カ認定外ノ事實ヲ以テ其認定ニテハ事實ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナルヘキモノニアラス

被告水野次郎酒井次郎岡田壽寧ノ辯護人田澤鎮太郎ノ擴張論旨第一點ハ被告酒井次郎ノ上告趣旨第二點ノ第一論旨ヲ敷衍スルニ過キサレハ前掲ノ說明ニ依リ了解ス可シ

同第二點ハ被告酒井次郎ノ上告趣旨第二點ノ第二論旨ト同一ナルニ付是亦其說明ニ依テ了解ス可シ

同第三點ハ被告岡田壽寧ノ擴張書第三點後段ノ論旨ト同一ナルニ付爰ニ復タ說明ヲ與フルコトヲ要セス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年十一月十五日大審院刑事聯合部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○紙幣偽造行使等ノ件

明治三十年第七九八號  
明治三十年十一月十五日片告

○判決要旨

(判旨第五點) 重罪事件ニ付被告數名ニ對シ一名ノ辯護人ヲ選定スルモ不法アララス

(判旨第九點) 偽造紙幣ナリヤ否ノ事實ヲ決定スルハ承審官ノ職權ニ屬ス

第一審 長野地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人

澤山喜四郎 石川茂吉 和田喜太郎 中川喜太郎 福田喜太郎 阪井八郎 上原喜太郎 上原喜太郎 松原喜太郎 中川喜太郎 小川喜太郎 窪田喜太郎

辯護人

田澤鎮太郎 兒玉一太郎 高木益太郎

右喜四郎倉吉茂吉牧太郎喜助八郎次莊吉傳右衛門幾四郎ニ對スル紙幣偽造行使被告事件光次郎ニ對スル同幫助被告事件榮之助髮治五市ニ對スル偽造紙幣知情行使被告事件庄治ニ對スル偽造紙幣知情收受被告事件ニ付明治三十年六月二十八日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ被告數名ノ辯護人ノ偽造紙幣ノ認定



眼セスシテ各被告ハ上告ヲ爲シタリ  
 大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スル左ノ如シ  
 喜四郎カ上告趣意ハ原院ハ被告カ小池倉吉外數名ト共謀シテ日本銀行兌換五圓銀券ヲ偽造シ  
 タリト判定シタルトモ右行爲ハ被告ノ曾テ干與セサル事柄ニシテ蒐集セラレタル證據物件ニ  
 依ルモ被告カ之ニ干與シタリト認定スヘキ證據アルコトナシ設令事實ノ認定證據ノ取捨ハ原  
 院ノ職權ニ屬スル事柄ナリトスルモ詳カニ其認定シタル事實理由ヲ開示セサルハ理由不備ノ  
 裁判ナリト云ヒ倉吉カ上告趣意ハ原判決ハ不當ニ事實ノ認定ヲ爲シタルモノナリ何トナレハ  
 被告カ加功セサルコトハ終始陳述ノ變ルナク其證トスルモノ一モ之ナケレハナリト云ヒ牧太  
 郎及ヒ喜助カ上告趣意ハ本件ハ紙幣ニ模擬シタル一種ノ玩弄物ヲ以テ詐欺取財ヲ爲サントシ  
 タルコトハ一件記録ニ明カナルニ之ヲ紙幣ヲ偽造行使シタルモノト爲シ以テ無期徒刑ニ處セ  
 ラレタルハ擬律ノ錯誤ナリト云ヒ八郎次カ趣意ハ被告ハ毫モ紙幣偽造ノ行爲ナシ原院ハ他人  
 ノ偽言ニ依リ臆測ノ裁判ヲ下シタルハ不法ナリト云ヒ莊吉カ上告趣意第二ハ本件カ被告ニ幾  
 部ノ關係アリトスルモ紙幣偽造ヲ以テ論スヘキモノニアラス模造紙幣取締法又ハ出版條例等  
 ニ依ルヘキモノナリ故ニ原判決ハ擬律ノ錯誤ナリト云ヒ榮之助カ上告趣意ハ被告ニ犯罪ヲ構  
 成ス可キ行爲アリシ事ハ本件ニ付テ之ヲ見出スコトヲ得ス然ルニ原院カ偽造紙幣ノ罪アリト  
 判決シタルハ不當ノ裁判ナリト云ヒ五市カ上告趣意ハ被告ハ一審以來申立タル如ク賭博ノ見  
 テ金ニ爲スノ意思ヲ以テ偽造ノ何タルチ知ラス買入レタル者ニシテ知情行使ノ目的ニ出テタ

リトハ架空ノ推測ニ過キス原院ハ事實ヲ不法ニ認定シタルモノナリト云ヒ庄治カ上告趣意ハ  
 被告ハ事情ノ何タルコトヲ知ラス柴田哲浩及ヒ田村常五郎ノ依頼ニヨリ玩弄紙幣ト信シ之ヲ  
 以テ詐欺賭博ヲ爲スノ手段トナシ未タ其事ヲ行ハサリシモノナリ然ルニ第一審ニ於テ偽造紙  
 幣知情取受未行使ニ擬セラレ不服ニテ控訴セシニ原院モ亦同様ノ法條ヲ適用シテ處斷セラレ  
 タルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ〇右各論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ專屬スル事實認  
 定ヲ批難スルニ理由ノ不備又ハ擬律ノ錯誤等ノ名ヲ以テスルニ過キスシテ何レモ上告適法ノ  
 理由アルコトナシ

茂吉カ上告趣意ハ原院カ本件審理ノ際一件書類ノ朗讀ヲ省略シタルハ口頭審理ノ原則ニ違反  
 スル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ〇書類朗讀ノ省略ハ被告入及ヒ辯護人等ノ承諾ニ出テ  
 タルコト原院公判始末書ニ明カナレハ之ヲ不法ト云フヲ得サルナリ  
 傳右衛門カ上告趣意及ヒ莊吉カ上告趣意第一ハ貨幣偽造罪ニ付テハ其加功ノ程度ニ依リ其刑  
 ノ輕重アリテ總則ノ正犯從犯ニ依ルヘキモノニアラス故ニ共犯人數名アルトキハ各自其加功  
 ノ程度ヲ明ニセサル可ラス然ルニ本件ニ就テハ只共謀者ト認メタルノミニシテ被告ハ如何ナ  
 ル程度マテ加功セシナチ明示セサルヲ以テ之ヲ知ルニ由ナシ是レ理由不備ノ判決ナリト云フ  
 ニ在レトモ〇原判決ニハ被告等カ他數名ノ者ト共ニ紙幣ヲ偽造シテ利ヲ得ンコトヲ企テ其從  
 事セシ各自ノ行爲ヲモ明示シアリテ事實理由ノ不備アルコトナシ  
 幾四郎カ上告趣意ハ原院ニ於テ取調ノ際自分申立ト豫審調書ト相違シアル事其他尙ホ申立テ



爲サンコトヲ請求シタルニ裁判長ニ於テ差止メラレタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○原院  
公判始末書ニ徴スルニ裁判長ニ於テ被告カ爲サントスル辯解又ハ申立ヲ抑壓シタルカ如キ事  
跡悉ク之ナキノミナラス却テ裁判長ハ被告ニ辯解又ハ申立ヲ促シタルコトノ記載アリ本論ハ  
其謂レナキモノナリ

光次郎カ上告趣意第一ハ原裁判ハ違法ノ點多ク且ツ擬律錯誤アリ今一例ヲ舉クレハ本件ヲ重  
罪トスルニモ不拘辯護士ヲ付セサルカ如キハ違法ノ甚シキモノナリ但シ公判延ニ二三ノ辯護  
士出席シタルヲ以テ被告カ辯護士モ其中ニアリタリトスルヲ得サルナリ強テ其中ニアリトス  
ルモ被告數名ノ辯護士一人ノ辯護士ニ爲サシムルニハ先ツ被告人ニ異議ナキヤチ確メサル可  
ラス然ルニ之カ異議ノ有無ヲ問ハス擅ニ之ヲ爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原院カ  
被告、光次郎、庄治、榮之助、五市、及、七、髮治、五名、ノ爲メ辯護士花井卓藏ヲ辯護人ニ撰定シ公判ノ際同  
人カ五名、ノ爲メ、一々、辯護士ヲ爲シタルコトハ、載セテ公判始末書及ヒ記録ニ徴シテ明カナリ而シ  
テ、被告數名、ノ爲メ、一名、ノ辯護人ヲ付スルコトニ付、被告又ハ、辯護人ニ於テ異議アリシニ非サレ  
ハ、原院ハ、措置、ハ、敢テ、不法、ハ、麻、ナシ、同第二ハ被告ハ紙幣偽造ヲ口實トシテ共同被告等ヨリ金員  
ヲ騙取セン事ヲ島田惣七ニ教唆セシ者ナレハ假リニ惣七ニ於テ紙幣ヲ偽造シタリトスルモ被  
告ハ之ニ對シテ毫モ共謀シタルコトナク、レハ詐欺取財犯ノ教唆者ヲ以テ刑法第百八條ヲ適用  
スヘキニ被告ヲ紙幣偽造ノ從犯トシ同第百九條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云ヒ尙擴張  
辯明書ヲ以テ其事實ナリトスル所ヲ辯スレトモ○要スルニ原判決ノ認メサル事實ヲ提出シテ

判旨第五點

原判決ハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ過キサレハ上告ノ理由ナシ  
鑿治カ上告趣意ハ被告ハ原院ニ於テ認メラレタルカ如キ所爲更ニ之ナシ然ルニ原院ハ證據ヲ  
示シテ辯解セシメタルコトナク又證據書類ノ朗讀ヲ省略シ漫然有罪ノ言渡ヲ爲セシハ不法ノ  
裁判ナリト云フニ在レトモ○其前段ハ事實認定ノ非難ニ過キス又原院公判ノ際證據ヲ示シテ  
被告ノ辯解ヲ求メタル事及ヒ證據書類ノ朗讀ハ被告ノ承諾ニ出テ且其朗讀ヲ省略シタル書類  
ニ付テモ被告ノ辯解ヲ求メタル事公判始末書ニ徴シテ明カナレハ論旨後段モ其理由ナシ同前  
張書ノ要旨第一ハ被告ニ偽造紙幣取受行使ノ所爲ナキコトハ小林五郎ノ第一第二審廷ノ供述  
ニヨルモ明カナレニ原院カ共謀者トシテ處斷セラレタルハ被告カ榮之助等ノ依頼ニヨリ長野  
縣本牧警察署ニ於テ被告カ爲サレタル事ヲ爲シタルモノ、如ク自首シ豫審ニ於テモ不實ノ申立  
ヲ爲シ又榮之助等ハ自分ニ依頼シタル所ヨリ恰モ知ラサルモノ、如ク詐述シタル片言ヲ聽キ  
被告ヲ推問セスシテ處斷セラレタルモノニシテ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○是亦事實  
ノ認定證據取捨ノ非難ニ外ナラサレハ上告ノ理由ナシ同第二ハ假リニ共謀シタリトスルモ本  
件押収ノ物件ハ一目其紙幣ニ非ルヲ知ル玩弄紙幣ニモ及ハサルコト遠クシテ只些少ノ紙幣ニ  
類似セシ給紙ニ外ナラス到底此等ノ物品ヲ以テ偽造紙幣トシテ罰スルコトヲ得サルナリ乃チ  
原判決ハ擬律錯誤ナリト云フニアレトモ○人ヲシテ紙幣ナリト錯誤セシムルニ足ルヘキモノ  
ナリヤ否ヤ即チ偽造紙幣ナリヤ否ヤハ事實問題ニシテ其之ヲ決スルハ原院ノ職權ニ屬スルカ  
故ニ本論旨ハ結局事實認定ニ對スル不服ニシテ上告ノ理由トナフス同第三ハ假リニ偽造紙幣

判旨第九點



トスルモ自分ハ拘引セラレシニアラス又召喚セラレシニモ非スシテ自首シタルモノナリ其理由ハ自分カ入監後上田支部ヨリ中川榮之助カ偽造紙幣事件ニ付證人トシテ出頭スヘシトノ呼出狀ヲ送達セラレタリ由是觀之モ自分ノ自首シタルコト明カナリ然レハ刑法第九十二條ヲ適用セラルヘキニ原院カ是等ノ取調ヲ爲サス漫然刑法第九十條ヲ適用セラレタルハ不法ナリト云フニ在リテ〇其意明瞭ナラサルモ要スルニ偽造紙幣取受ノ後未タ行使セサル前ニ於テ自首シタリト云フニ外ナラサルヘシ然レトモ原判決ニ於テハ被告カ偽造ノ情ヲ知リテ買取リタル五圓銀券五十枚ノ内壹枚ヲ既ニ行使シタリトノ事實ヲ認メアルノミナラス被告カ其行使前ニ於テ官ニ自首シタリトノ事ヲ認メタルコトナシ本論旨モ取ルニ足ラス同第四ハ被告カ偽造紙幣ヲ行使セサリシ事ハ瀧川茂四郎翠川勝三郎ノ警察ニ於ケル陳述ニ依リ明瞭ナリ原院ハ此等ノ證據アルニ拘ハラス行使ノ刑ニ處セラレタルハ不法ナリト云フニ在リテ〇是亦原院ノ事實認定證據ヲ取捨ニ對スル不服ナレハ上告ノ理由トナラス同第五ハ自分等ハ偽造紙幣知情取受事件ニ付取調ヲ受ケタルモ紙幣偽造事件ニ付取調ヲ受ケタルコトナシ故ニ豫審ハ各異ニ終結セラレタリ然レハ刑事ノ裁判費用ハ各異ニ負擔スヘキニ原院カ紙幣偽造ノ被告人ト連帶負擔セシメラレタルハ不法ナリト云フニ在レトモ〇豫審終結決定書ハ各別ニ作成セラレタルニモセヨ紙幣偽造事件ト其知情行使事件トハ相密着シ其證人鑑定人等モ兩件ニ關連スル勿論ナレハ之カ費用ヲ本案被告人全體ノ連帶負擔ト爲シタルハ決シテ不法ノ裁判ニアラス

光次郎カ擴張辯明書ハ其上告趣意第二ノ事實ヲ布行スルニ過キサレハ其理由ナキコト右説明

ニ依リ了解スヘシ

榮之助カ補充趣意書ノ第一ハ豫審廷ニ於テ小林忠次郎ヲ本案被告人トシテ取調ヘラレタルモ同人ハ自分ノ實弟ナレハ證人ノ資格ナキモノト思料スト云フニ在レトモ〇原判決ハ小林忠次郎ノ證人調書ヲ本案ノ證據ニ供シタルコトナケレハ其シ同人ハ證人ノ資格ナキモノトスルモ原判決ニハ何等ノ影響ヲ及ボサス同第二ハ紙幣ヲ行使シタリトノ判決ナルモ右紙幣ハ中川榮治ヨリ翠川勝三郎ヘ渡シタル儘ニテ未タ實使セサル前ニ發覺シタルモノナレハ行使罪ノ成立スヘキ答ナキモノト思料スト云フニ在レトモ〇原判決ニハ被告等カ飲食料ノ支拂ニ對シ偽造ノ五圓銀券ヲ店主勝三郎ニ交付シタルコトヲ認メアリ即チ行使シタルノ事實ナレハ本罪ノ成立スル論ヲ啖タス

庄治カ擴張辯明書ノ前段ハ被告ハ共謀シタルコトナク又偽造ノ情ヲ知ラサリシトノ事ヲ繰述スルニ止マリ上告ノ理由トナルヘキモノニ非ス其後段ハ原院文ニ柴田哲造ヨリ買取リ云々トアルモ被告ハ柴田哲造ハ知人ナルモ柴田哲造ナル者ハ知ラス又原判決ノ末尾ニ然レハ原判決ハ事實ノ認定法律ノ適用并ニ科シタル刑法ニ其當ヲ得タルヨ云々トアルニ拘ハラス其前段ニ榮之助榮治五市ニ對スル偽造紙幣知情行使被告事件トアルヘキヲ偽造紙幣知情取受被告事件ニ付云々トアリ且ツ被告庄治ノ罪名タル偽造紙幣知情取受トアルヘキヲ脱シタルカ如キハ尤モ不備ノ裁判ナリト云フニ在レトモ〇原院文ノ附屬ニハ榮之助榮治五市ニ對スル偽造紙幣知情行使被告事件庄治ニ對スル偽造紙幣知情取受被告事件ニ付云々トアリ又事實ノ理由中ニ被



告庄治ハ云々柴田哲浩ヨリ同人カ惣七ヨリ買受ケタル前額偽造ノ云々トアリテ脱字等之アルヲ見ス或ハ判決謄本ニ誤寫アリシヤ知ル可ラサルモ謄本ノ誤寫ハ固ヨリ判決ニ影響ヲ生セサルナリ本論旨モ取ルニ足ラス

喜四郎辯護人田澤鎮太郎カ擴張第一ハ原判決ニ依ルニ被告カ日本銀行兌換銀券ノ偽造ニ關與シ其偽造ノ成リタル事實ハ明瞭ナルモ之ヲ行使セシ事實ノ認定ナシ然ルニ尙ホ其行為ヲ刑法第百八十二條一項及ヒ第百八十四條ニ問擬セラレタルハ疑律錯誤ニ非サレハ理由顯赫ノ裁判ナリト云フニ在レトモ

〇原判文ヲ閱スルニ其事實ノ理由冒頭ニ被告喜四郎倉吉茂吉牧太郎喜助ハ紙幣ヲ偽造シ之ヲ行使シテ利ヲ得ント企圖シトアリテ其以下ニ於テハ被告等カ職工ノ雇入ニ奔走シ或ハ資金ヲ出シ或ハ房屋ヲ供出シ或ハ器具藥品材料等ヲ出シ或ハ勞力ヲ供スルアリテ遂ニ五圓ノ兌換銀券千枚ヲ偽造シ内四枚ヲ牧太郎茂四郎ニ於テ行使シタル事實ヲ叙シアリ抑モ共謀者ハ異身同鉢ニシテ其共謀ノ範圍内ニ於ル共謀者中一人ノ行為ハ即チ共謀者全體ノ行為ニ外ナラサレハ牧太郎ノ行使ハ亦被告カ行使シタルニ外ナラス故ニ原判決ハ被告ノ行使ヲ認メタルモノニシテ論旨ノ如キ不法ノ裁判ニアラス

同第二ハ田中周三郎ハ小池倉吉外十八名紙幣偽造被告事件ノ證人トシテ宣誓シ原判決モ亦右様ニ看做シテ斷罪ノ證據ニ採用セリ然ルニ同人カ訊問ヲ受ケタル當時ハ小池倉吉阪井八郎上原庄吉石川茂吉山極重次郎片田傳左衛門島田惣七松澤光春小島タミ關塚ワカ今田ケサツ名和ツク澤山喜四郎小澤シナ等ニ對スルノ外ニ起訴ナシ去レハ原判決之ヲ小池倉吉外十八名事件ノ證人ト看做シテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ

〇田中周三郎カ宣誓書ニハ小池倉吉阪井八郎次上原庄吉石川茂吉山極重次郎片田傳左衛門島田惣七春原ワキ松澤光春小島タミ關塚ワカ片田ケサツ名和ツク小澤シナ澤山喜四郎和田文左衛門和田牧太郎福田喜助上原幾四郎紙幣偽造事件ニ付云々トアリテ右田中周三郎カ證人トシテ取調ヲ受ケタル當時即チ明治二十八年六月十日ニ在テハ右十九名ノ被告人ハ孰レモ檢事ノ起訴後ニ係レリ今辯護人カ起訴ナシト云フ被告五人カ起訴セラレタル年月日ヲ舉ンニ春原ワキ事上原ワキハ明治二十八年五月二十三日和田文左衛門ハ同年五月十八日和田牧太郎福田喜助ハ同年五月十一日上原幾四郎ハ同年五月四日ナルコトハ記録中ニ存スル各豫審請求書ニ徴シテ明カナリ本論旨ハ記録調査ノ疎漏ヨリ來リシニ外ナラサルヘシ

藤吉辯護人兒玉一英カ擴張辯明ノ趣旨ハ原院ニ於テ認メラレタル紙幣偽造ノ事實ヲ見ルニ是ヨリ先被告八郎次庄吉傳右衛門幾四郎モ亦前額同様ノ企ヲ爲シ云々互ニ企圖ノ恰モ暗合ナルヲ知リ雙方協議ノ上互ニ連合シテ紙幣ヲ偽造セシコトヲ約シ云々明治二十八年三月中旬迄ニ日本銀行兌換五圓銀券凡ソ一千枚ヲ偽造シタリトアリテ其認定事實ノ當否ハ暫ク措テ論セス兎ニ角ニ共謀シテ一千枚ノ紙幣ヲ偽造シタル迄ノ事實ハ共犯均一ニ認メラレタル事ヲ見得ラレト雖トモ其行使ノ點ニ至リテハ上告人ノ致テ關係セサルヲ見ル何トナレハ其以下ニ於テ而シテ牧太郎ハ同年四月十三日云々地木綿一反チ代金八十錢ニテ買受ケタルニ當リ其代金ニ對シ右偽造ノ五圓銀券一枚ヲ交付シ云々幾四郎ハ同月十日云々林兼作ニ金五圓ヲ貸與スルニ



當リ右偽造ノ五圓銀券一枚ヲ交付シ云々トノミアリテ其行使シタルハ牧太郎、幾四郎ノ兩人ニ於テ單獨ニ之ヲ行使シタル事實ノミヲ認メラレタルヲ以テ上告人カ行使シタル事實ナキ事ハ明瞭ナリトス然ルテ上告人ニ對シ刑法第百八十二條一項ヲ適用シ行使罪ト一般ニ混同セラレタルハ疑律ノ錯誤ナリト云ハサル可カラズ若シ原院ニ於テ上告人ニ對シテモ猶事實行使シタルモノト認メ第百八十二條一項ヲ適用セラレタルモノトスル時ハ上告人自身カ行使シタル事實ノ理由若クハ牧太郎、幾四郎ノ兩人カ行使シタル所爲ニ對シテモ共謀ナリトノ理由ヲ明示セサル可カラズ然ルニ其共謀ナリトノ理由トシテハ單ニ互ニ連合シテ紙幣ヲ偽造セン事ヲ約シ云々トノミアリテ偽造迄ノ共謀ハ見得ヘキモ一人ノ行使ハ共犯一般ノ行使ナリト迄ニ豫謀シタル事實ノ見ルヘキモノナキヲ以テ事實ノ理由ト法律ノ理由ト阻礙シタルモノト云ハサルヘカラスト云フニ在レトモ〇原判文ニ被告八郎次、庄吉、修右衛門、幾四郎モ亦前同様ノ企テ爲シトアルハ同判文ノ冒頭ニ被告喜四郎、倉吉、茂吉、牧太郎、喜助ハ紙幣ヲ偽造シ之ヲ行使シテ利ヲ得ンコトヲ企圖シトアル其企圖ヲ指シタルモノニシテ被告等外三名ニ於テモ亦彼ノ喜四郎外四名ノ者ノ如ク紙幣ヲ偽造シ之ヲ行使シテ利ヲ得ンコトヲ共ニ謀リタルヲ謂フモノナリ而シテ其經營中被告等ノ團體ト喜四郎等ノ團體ト相連合シテ偽造スルコトトナリ偽造成ルノ後共謀者ノ或ル者ニ於テ目的ノ如ク之ヲ行使シタル事實アル以上ハ其共謀者ハ甲乙ヲ論セス孰レモ其行使ノ責メニ任セサル可ラサルナリ故ニ原判決共謀者ノ一二ノ者ノ行使シタル事實ヲ認メ以テ被告其他ノ共謀者一同ニ對シ刑法第百八十二條一項ヲ適用シタルハ疑律ノ錯誤又ハ理

由ノ不備ニアラストス而シテ原判決ニ互ニ連合シテ紙幣ヲ偽造センコトヲ約シトアリテ行使ノ文字ナキヲ以テ兩團體ノ間ニハ偽造ノ共謀ハアリシモ行使ノ共謀ナカリシモノト強テ之ヲ解スルモ尙ホ被告等ハ其行使ノ責ヲ辭スルヲ得サルナリ何トナレハ被告等ノ團體ノ一人ナル幾四郎ニ於テ之ヲ行使シタル事實アルヲ以テナリ其何レヨリ論スルモ本論旨ハ相立テ難シトス

喜助、牧太郎辯護人鹽入太輔及ヒ倉吉外九名辯護人高木益太郎ハ前辯護人兩名ノ論旨ハ各被告ノ爲メ援用スル旨申立タルモ其理由ナキコトハ前説明ニ依リ了解スヘシ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十年十一月十五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス



〇監守盜ノ件 明治三十年第八〇九號  
明治三十年十一月十五日宣告

〇判決要旨

(判旨第二點) 認定シタル事實及ヒ適用スヘキ法則ヲ明示スルハ判決ノ形式ナリ  
上 認定シタル事實ニ對シ法則ニ規定シタル範圍内ニ於テ適當ノ刑ヲ當行スルハ判決ノ實體ナリ

(判旨第十六點) 公訴ノ判決ヲ破毀スル場合ト雖モ其破毀ノ點ハ單ニ擬律ノ部ニ止マルトモハ私訴ノ判決ニ何等ノ影響ヲ及ホサス

第一審 熊本地方裁判所 第二審 長崎控訴院

公訴私訴上告人 竹崎 清  
大川 實  
市川 伊藏  
福岡 武次郎  
辯護人 岡崎正也

右清外三名ニ對スル監守盜官印盗用冒認販賣竊盜被告事件ニ付明治三十年七月三日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル公訴私訴ノ判決ニ對シ被告等ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ  
被告清上告趣意第一ハ原判文第一ノ事實ヲ見ルニ被告市川實竹崎清福岡武次郎ノ三名ハ該風

損木以外ノ生立木ニ官ノ極印ヲ押捺シテ拂下木ト偽リ之ヲ賣却シテ金員ヲ騙取セント企テ(中略)杉ノ生立木十七本(中略)官ノ印章ヲ盗用シ一見シテ何レモ拂下ケ木ノ如ク裝ヒ置キ(中略)古賀健藏ニ對シ右ハ都テ風損木ニシテ拂下ケノ許可アリシモノト申欺キ該生立木十七本ヲ冒認シテ風損木ト共ニ代金五百八十圓ニ販賣シタルモノナリトアリ其前段ノ事實ニ依レハ三名ニテ同一ノ事ヲ企テタルモノニシテ恰モ共謀ナルカ如シ既ニ共謀ナル以上ハ各自ノ身分ニ因リ刑ノ輕重ヲ生スルハ格別其罪ニ至リ宜シク同一ナラサルヘカラス而シテ該末文ニハ「冒認シテ販賣セリトアリ且他ノ共謀者ニ對シテハ現ニ刑法第三百九十三條ヲ適用シタリ故ニ果シテ此適用ニシテ相當ナリトスレハ同一共謀者上告人清ニ對シテモ同シク冒認罪ニ問擬シ同一ノ法條ヲ適用セサルヘカラス然ルニ獨リ清ニ對シテハ監守盜ヲ以テ論シ其刑ヲ適用シタリ若監守盜ニシテ相當ノ擬律ナリトスレハ他ノ二名モ亦竊盜罪ニ問ハサルヘカラス同一共謀者ニシテハ一ハ盜罪トシ一ハ冒認罪ニ問フカ如キハ素ヨリ事理相軋觸シ何レカ一方ハ擬律ノ錯誤タルヲ免レス而シテ其何レヲ相當トスヘキヤ又上告人清ハ全ク共謀者ニアラスシテ前罪ヲ犯シタル者ナルヤ否ハ到底事實ノ理由不判明ニシテ之ヲ識別スルニ由ナシ之ヲ要スルニ原判決ハ擬律ノ錯誤若クハ理由ノ不備アル不法ノ判決ナリトアリ  
依テ案スルニ被告清カ外二名ト風損木以外ノ生立木ニ官ノ印章ヲ盗用シ之ヲ風損木ニシテ拂下ケノ許可アリシモノトシテ古賀健藏ニ販賣シタリト認メタル所爲ハ未タ盜案ノ事跡ナキヲ以テ之ヲ冒認罪トシ刑法第三百九十三條第三百九十四條ニ問擬シテ處斷スヘキモノナルニ原院ハ其判決法律理由ノ部ニ被告清カ第

判決ノ形式〇判決ノ實體〇擬律點ノ破毀







損害價格調査ヲ舉示アリ右ハ小林區署長營林主事ノ作成シタル調査タル事ヲ裁判長ヨリ申聞セアリタリ就テハ該調査タルヤ檢事ノ補佐即チ司法警察官タル權限ニ屬スル處分トシテ調査タルカ如シ(原文ノ儘)果シテ然ラハ無効ノ調査タリ然リ而シテ本件ハ非現行犯ナルヲ以テ檢事ノ調査ト雖モ無効タリ況ンヤ林務官ノ作成シタル者ニ於テヤ然ルニ是調査ヲ採リテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ探證法ヲ誤リタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○右損害價格調査ハ損害ノ價格ヲ調ヘ之ヲ書面ニ認メタルモノニシテ事件ノ現行犯ナルト非現行犯ナルトチ問ハス無効タルヘキモノニアラサレハ本論旨ハ上告適法ノ理由ナシ

被告清カ上告趣意擴張辯明ノ追申書第一第二ノ趣旨ハ繼々陳述スル所アルモ○要スルニ自ラ事實ナリトスル所ヲ主張シ原判決ノ事實認定ヲ非難シ漫リニ不服ヲ唱フルニ過キスシテ上告適法ノ理由トナラス其第三ノ趣旨ハ原判文第二ノ事實ヲ見ルニ上告人ハ被告實伊藏ノ兩名ト共ニ出張シ拂下木以外ノ松ノ生木ヲ盜伐セント企テ明治三十年一月十七日拂下木引渡ノ爲メ彼等セシメタルモノナリト認定セラレタリ然ルニ右ハ相被告伊藏自ラ該樹木ヲ伐倒シタルモノナルカ如何ナル物ニテ如何ナル方法ニヨリ倒伐シ又ハ造材運搬シタルモノナルヤ又ハ賍物ヲ竊取シ遂ケタルヤ將又々伐倒ノ儘山床ニ現存セルヤ若クハ運搬途中ナルカ其金ニ就テハ何等ノ理由ヲ付セサル不明瞭ナル判決ナリ云々ト云フニ在レトモ○右論旨ニ摘示セシ如ク事實ヲ認定シタル以上ハ被告ノ所爲ヲ官印盗用及ヒ監守盜罪ヲ以テ問擬スヘキ理由充分ニシテ其現ニ

伐採シタル者ノ誰ナルカ伐採シタル器具ノ何ナルカ賍物運搬ノ事狀等ノ如キハ犯罪構成ニ必要ナラサルヲ以テ是等ヲ明示セザルモ理由不備ノ不法アリト云フヘカラス

被告實カ上告趣意第一點ハ原院カ認メタル事實ニ依レハ第一第二ノ印章盗用ノ所爲ハ竹崎清カ自己ノ監守ニ係ル樹印ヲ拂下外ノ立木ニ押用シタルモノニシテ上告人ハ只々右立木ノ冒認若クハ盜伐ヲ共謀シタリト云フニ在レハ此所爲ニ對シ刑法第九十七條第九十六條等ヲ適用處斷シタル原判決ハ疑律ノ錯誤ニ出テタルモノナリト云フニ在レトモ○原判決ヲ閱スルニ其第一ノ事實理由ニ於テ(前略)於是被告市川實竹崎清福田武次郎ノ三名ハ該風損木以外ノ生立木ニ官ノ樹印ヲ押捺シテ拂下木ト偽リ之ヲ賣却シテ金員ヲ騙取セント企テ云々トアリ其第二ノ事實理由ニ於テハ被告竹崎清市川實大崎伊藏ハ云々共謀ノ上該風損木以外ノ松ノ生木ヲ盜伐セント企テ云々トアリテ皆其共謀ニ出テタル所爲ナリト認メタルコト明白ナレハ原院カ之ヲ刑法第九十七條第九十六條等ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ疑律錯誤ノ廉アルコトナシ其第二點ハ原院ハ第一ノ所爲ヲ以テ冒認罪ト爲シ第二ノ所爲ヲ以テ盜伐罪ナリト爲シタレトモ抑々立木ハ相當官吏タル竹崎清ニ於テ之ヲ引渡シタル以上ハ假リニ上告人カ其共謀ヲ爲シタリトスレトモ監守盜ト共犯タルヲ得サルニ付キ別ニ冒認又ハ盜伐罪ヲ構成スヘキモノニアラスト云フニ在レトモ○被告ハ監守者ニアラスト雖モ苟モ監守者ト共謀シテ罪ヲ犯シタル以上ハ其罪責ヲ免カハコト能ハス故ニ其所爲盜罪ナラハ盜罪ヲ以テ論シ冒認罪ナラハ冒認罪ヲ以テ論スヘキナリ只監守ノ責ナキ者ハ其責アル者ニ擬スヘキ法條ニ問擬セザルノミ



即チ第二事實ノ内盜伐ノ所爲ニ付テハ被告實チ竊盜ヲ以テ論シ監守ノ責アル清ヲ監守盜ヲ以テ處斷シ第一事實ノ内冒認ノ所爲ニ付テハ冒認罪ヲ以テ處斷スヘキハ當然ナリ而シテ清カ共謀シテ冒認罪ヲ犯シタルヲ監守盜ニ間擬シタル不法ナルコトハ同人ノ上告趣意ニ對スル說明ノ如シ其第三點ハ第一ノ所爲ヲ以テ冒認ト爲ストキハ清ニ於テハ此點ニ付キ監守盜ノ處斷ヲ受ケ居ルモノナルニ付キ一ノ所爲ニ對シテ盜罪ト詐欺罪トヲ構成スルモノトナリ實ニ奇怪千萬ナリ故ニ原院立會檢事ハ上告人ニ對シテハ山林盜伐ナリト論告セラレタリ尤モ盜伐罪ニ擬スルハ不可ナリト雖モ冒認ノ所爲トナスニ至テハ愈々不可ナリト云フヘシ畢竟スルニ疑律ノ錯誤アルヨリ如此キ變狀ヲ來タスモノニシテ原判決ノ不當ナルコト明カナリト云フニ在レトモ

○被告等カ共謀シテ松下木ナリト偽リ杉立木十七本ヲ販賣シタル所爲ハ之ヲ冒認罪トシテ處斷スルヲ相當トシ清ヲ監守盜ヲ以テ論シタルノ不法ナルコト前說明ニ依テ了解スヘシ

被告伊藏上告趣意第一點ハ其趣旨實ノ上告趣意第一點ト同一ニ歸スルヲ以テ更ニ說明セス其第二點ハ假リニ原院ノ認メタル事實ノ如クナルモ尙ホ官印盜用罪ヲ犯シタルモノナリトセハ相被告清ト共ニ正犯者タルカ將々相被告清カ從犯者タルカ免ニ角數人共犯ニ關スル條項ノ適用ナカル可ワサルニ原院ハ相被告清等ト相牽聯シテ罪ヲ犯シタリトノ事實ヲ認定シナカラ共犯ニ關スル條項ヲ適用セス只單ニ刑法第九十七條第一項第九十六條第一項等ニ依テ處斷セラレタルハ前同一ナル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ

○被告伊藏ト被告清トノ關係ニ於テハ共ニ共犯者ニシテ一ハ正犯ニシテ一ハ從犯者タルノ關係ニアラサルコト原院文ニ依テ明

カナリ又盜伐ノ所爲ニ付テハ事實ハ共謀ニ出テタリト雖トモ各別罪ヲ構成スルカ故ニ正犯又ハ從犯ノ關係アルコトナシ而シテ其共犯者タルコト明カナル以上ハ刑法第四百四條ノ如キ總則ノ法條ハ之ヲ明示セサルモ理由不備ノ不法アリトシテ原判決ヲ破毀スヘキ理由トナスニ足ラス被告伊藏辯護人岡崎正也上告趣意擴張ノ第一ハ原裁判ニ於テハ上告人大崎伊藏ヲ竊盜井ニ官印盜用罪ノ數罪併發ナリトセラレタリ然ルニ本件豫審調書請求書ヲ見ルニ本件被告人等ニ對シテハ監守盜竊盜罪ニ付テノミ檢事ノ公訴アルモ官印盜用ノ點ニ付キ起訴アルナシ然ルニ原判決ニ於テハ竊盜罪ト其性質ヲ全ク異ニシタル官印盜用ノ事實アリトシテ直チニ官印盜用罪ヲ認メ其刑ヲ適用シタルハ不法ノ判決タルヲ免レスト云フニ在レトモ

○本件ハ官印ヲ盜用シテ冒認罪又ハ監守盜竊盜罪ヲ犯シタルモノナレハ盜罪ノ起訴中ニ官印盜用罪ヲモ包含シテ起訴シタルモノト認ムルヲ相當アリトス故ニ原裁判所カ官印盜用ノ事實ヲ認メ其刑ヲ科シタルハ當然ニシテ不法ノ廉アルコトナシ其第二ハ原裁判ニ於テ證據トシテ採用シタル損害價格調書ハ營林主事カ豫審進行中檢事正ニ差出タル書面ナルカ右書面ヲ見ルモ其作成場所ヲ記載スルコトナク且所屬官署ノ押印ナク其理由ノ附記ナク刑事訴訟法第二十條ノ趣意ニ違背シタル無効ノ書類ナルニモ拘ハラズ之ヲ採用セテ斷罪ノ證據ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ

○此書面ハ既ニ說明シタルカ如ク損害ノ價格調書記載シタルモノニシテ元來刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ從ヒ作成スヘキモノニアラサルカ故ニ其形式ニ於テ右規定ニ違背スル處アルモ爲メニ之ヲ無効ナリト論スルコトヲ得ス隨テ原院カ採テ斷罪ノ證據ニ供シタルモ不法ニアラ



被告武次郎上告趣意第一點ハ原院カ認メタル事實ニ依レハ明治二十九年十一月日不詳被告清ハ身森林監守ノ職ニ在リナカラ被告實武次郎ト共ニ自己ノ監守ニ係ル右寺床官林ニ立入り云々トアルヲ以テ相被告清カ官印ヲ盗用シタルコト并被告モ共ニ山林ニ立入りタルコトハ見ル可キモ被告モ清等ト共ニ手ヲ下シテ盜竊シタリトノ事實ハ原判決中更ニ記載シタル所ナシ何トナレハ前掲ノ記事ハ總テ清ニ關スル事柄ニ屬スレハナリ畢竟原判決ニ盜用ノ事實ヲ認メラレサルノミナラス被告ハ實際ニ右等ノ所爲ヲ爲シタルコトナシ抑モ教唆者ノ外現ニ手ヲ下サレモノニ對シテ正犯ヲ以テ論スルコトヲ得サルハ勿論ノコトナルニ原院ハ下手ノ事實ヲ認定セス亦教唆ノ條項モ適用セスシテ洩ヲニ刑法第九十七條等ニ依テ處斷セラレタルハ疑律ニ錯誤アル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ〇本論旨ニ揭示シタル原判決ノ文詞ニ被告實武次郎ト共ニ云々寺床官林ニ立入りタルニ依テ被告等共々現ニ罪ヲ犯シタルモノト認メ其記事ハ獨リ清ニ對スルモノニアラサルコト明白ナレハ原院カ刑法第九十七條等ヲ適用シタルハ相當ニシテ疑律上錯誤ノ匪アルコトナシ其第二點ハ假リニ被告モ官印盜用ノ犯罪アリトセハ相被告清等ノ教唆者ナルカ將々共同正犯ナルカ又ハ從犯ナルカ兎ニ角數人共犯ニ係ル相當ノ條項ヲ適用セサル可ラサルモノナルニ只單ニ刑法第九十七條第一項等ノミニ依リ處斷セラレタルハ前同一ナル不法ノ判決ナリト云フニ在リテ〇其趣旨ハ被告伊藏ノ上告趣旨第二點ト同一ナルヲ以テ釋說セス其上告適法ノ理由ナキコトハ右ニ對スル說明ヲ以テ了解スヘシ

判旨第十六

被告清私訴上告趣意ハ公訴ニ於テ上告趣意書ヲ以テ陳辯シタル如ク公訴原判決ヲ取消シ更ニ相當ノ判決ヲ仰クト等シク私訴モ亦公訴ト同一ニ原判決ヲ取消シ適當ノ御裁斷被下度ト云フニ在レトモ〇公訴ノ上告趣意ニ基キ原公訴判決ノ不法ヲ認ムルト雖トモ其破毀スヘキ點ハ疑律ハ部ニ存スルハミナラズ被告ハ所爲ヲ無罪トスルニアラズ且ツ民法上ハ關係ニ移動ナキヲ以テ其破毀ハ私訴ニ付テハ原判決ヲ破毀スヘキ理由トナラス

被告實伊藏武次郎ハ私訴ニ付キ上告ノ申立ヲ爲シタルモ期間内ニ趣意書ヲ提出セサルヲ以テ其申立ハ成立セス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條同第二百八十七條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

被告清ニ對スル原判決中疑律ノ部ヲ破毀シ直チニ判決スル左ノ如シ

竹崎 清

原判決ノ確定シタル事實ヲ法律ニ照ラスニ被告カ實武次郎ト共ニ風損木ニシテ拂下ノ許下アリシモノト許リ生立木十七本ヲ冒認シテ古賀健藏ニ販賣シタル所爲ハ刑法第三百九十三條第三百九十四條ニ當ル其他ハ原判決通り

被告實伊藏武次郎ノ公訴私訴ノ上告及清ノ私訴上告ハ共ニ之ヲ棄却ス

私訴上告費用ハ各其中立人ニ於テ負擔スヘシ

明治三十年十一月十五日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス



○詐欺取財ノ件

明治三十年第九七三號  
明治三十年十一月十五日宣告

○判決要旨

刑事訴訟法第二百六十五條第一項ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サストハ原判決ヲ變更シテ其刑ヲ重クシ又ハ原判決ノ認メサル罪ヲ認ムルコトヲ許サストノ法意ナリ

(參照) 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス(刑事訴訟法第二百六十五條第一項)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 淺野鐵次郎 辯護人 磯部四郎

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十年九月三十日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣旨ハ賭博罪ニテ處斷セラルレハ不服ナキモ詐欺取財又ハ竊盜ヲ爲シタル覺ナシ其理由ハ被告ハ當時神田武平及ヒ牧野安太郎ヨリモ跡ニ殘リ吾妻鐵ヲ立出テタルニ付其跡ニ殘リタ

ル被告カ前ニ立出テタル者ノ金員ヲ取ル可キ理ナシ又牧野安太郎ノ申立書ニ日本橋區米澤町旅人宿永田屋方ニテ金四十九圓ヲ預ケタリトアリ然ルニ其金員カ謂レナクシテ當日ノ中ニ九十九圓トナル可キ管ナシト云フニ在テ○本論旨ハ要スルニ原承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラス  
辯護人磯部四郎ノ擴張論旨第一點ハ原院ノ認メタル事實ニ依レハ被告ハ被害者牧野安太郎ト共ニ酒食シ賭博ヲ爲シタルノミナラス大切ナル金圓在中ノ風呂敷包ヲ其傍ニ差置キタル儘ニテ其場所ヲ一時タリトモ立去リタル行爲ハ實ニ被告ヲ信任シ自己ノ不在中ハ之カ保管ヲ委託シタルモノニシテ即チ默示ノ委託アリタルモノト云フ可シ隨テ被告ハ受寄者タル責任ヲ有シタルモノナルコト明白ナリトス然ラハ則被告カ其金員ヲ隨意ニ費消シタルモノトスルモ純然タル受寄物費消罪ナルニ竊盜罪ニ間擬シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在レトモ○原論文ヲ查閱スルニ(前署)安太郎ハ所持ノ風呂敷包ヲ其傍ニ差置キ便所ヘ行キタル隙ニ竊ヒ被告人等ハ其風呂敷包ノ中ヨリ金九十九圓ヲ竊取逃去リタリトアリテ即チ竊取ノ事實ヲ認メタルモノニシテ被害者安太郎カ被告ニ右金員ノ委託ヲ爲シタリトノ事實ヲ認メタルコトナシ故ニ本論旨ハ原院カ認定外ノ事實ヲ以テ擬律錯誤ナリト附會スルニ過キサレハ適法ノ理山ナキモノトス  
同第二點ハ原判決ハ刑事訴訟法第二百六十五條ノ規定ニ違背シタルモノニシテ即チ其第一ハ第一審ニ於テ本案贓金ノ額ヲ四十九圓ト認メタルニ原院ハ其額ヲ増加シテ九十九圓ト認メタル是即チ財産上ノ負擔ニ於テ第一審判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタルモノナリ其第二ハ第一

不利益變更ノ意義



不利益變更ノ意義

審ニ於テ贓物寄藏及ヒ詐欺取財ノ二罪中一ノ重キ贓物寄藏罪ニ從テ處斷シタリ然ラハ則詐欺取財罪ハ重キ贓物寄藏罪ニ吸收セラレタルヲ以テ特立ノ刑罰ヲ受ケザリシモノナルニ原院カ之ヲ竊盜罪ト認メ重禁錮二年監視十月ニ處シタルハ即チ被告ノ不利益ニ第一審判決ヲ變更シタルモノナリ其第三ハ第一審ニ於テ詐欺取財ト認メタル行爲ヲ原院ニ於テ竊盜ト認メタルハ即チ被告ノ不利益ニ第一審判決ヲ變更シタルモノナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百六十五條第一項ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告ノ不利益ト爲スコトヲ許サストハ即チ原判決ヲ變更シテ更ニ其刑ヲ重クシ又ハ原判決ハ認メサル罪ヲ認ムルコトヲ許サストハ趣旨ニ過キスシテ犯罪ノ狀況若クハ犯罪ノ性ヲ變更スルカ如キハ右ノ規定ニ包含セサルモノトス故ニ原院ニ於テ第一審カ贓金四十九圓ト認メタルヲ更ニ九十九圓ト認メ又詐欺取財罪ト認メタル所爲ヲ更ニ竊盜罪ト認メタルカ如キハ決シテ被告ノ不利益ニ原判決ヲ變更シタルモノト爲スコトヲ得ス又第一審カ本案ノ贓物寄藏及ヒ詐欺取財ノ二罪中所犯情狀輕キモノト認メタル詐欺取財罪ハ一ノ重キ贓物寄藏罪ニ吸收セラレヘキモノニアラスシテ之ニ相當ノ刑ヲ適用シ唯其執行ヲ爲サトルニ過キサルノミ而シテ第一審判決ハ詐欺取財罪ニ適用ス可キ刑ノ程度ヲ明示セサルヲ以テ原院カ之ヲ竊盜罪ト認メ重禁錮二年監視六月ノ刑ヲ科シタリトテ果シテ第一審判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタルモノト認ムルコトヲ得ス何トナレハ則輕罪ノ刑ハ數罪俱發ノ場合ニ於テハ其所犯ノ情狀ニ因リ之カ輕重ヲ定ム可キモノナレハ第一審カ情狀輕シト認メタル詐欺取財ニ適用スヘキ刑ハ必スシモ其情狀重シト認メタル贓物寄藏罪ニ科シタル刑ヨリ

モ輕キモノナリト斷定スルコトヲ得サレハナリ而ルテ況ヤ原院ハ第一審カ情狀重シト認メタル贓物寄藏罪ニ對シテハ無罪ノ言渡ヲ爲シ其竊盜ト認メタル罪ニ科シタル刑ハ第一審カ一ノ重キ贓物寄藏罪ニ科シタル刑ノ程度ヲ超過セサルニ於テチヤ故ニ到底第一審判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタルモノト認ムルコトヲ得サルナリ因テ本論旨モ亦適法ノ理由ナキモノトス同第三點ハ本件ハ終始竊盜犯トシテ起訴アリタルコトナシ然ルニ原院ハ詐欺取財ノ公訴ヲ審理スルニ當リ詐欺取財ニアラス竊盜ナリト判定シ直チニ其刑ヲ宣告シタルハ訴ヲ受ケサル事件ニ付裁判ヲ爲シタルモノナリト云フニ在レトモ○凡ソ檢察ノ起訴シタル被告事件トハ其事件ノ本件ヲ指スモノニシテ檢察カ之ニ付シタル罪名ヲ指スモノニアラス故ニ裁判所ハ檢察カ被告事件ニ付シタル罪名ニ拘束セラル可キモノニアラスハ其事件ノ本體ニ付罪質ヲ異ニスルモノヲ以テ訴ヲ受ケサル事件ニ付裁判ヲ爲シタルモノト論スルコトヲ得ス右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五ニ條依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス明治三十年十一月十五日大審院第一刑事部公庭ニ於テ檢察廳堂融立會宣告ス



○監守盜ノ件

明治三十年第七四四號  
明治三十年十一月十六日宣告

○判決要旨

町村組合ノ管理者ニシテ其監守ニ係ル金員有價證券等ヲ竊取シタルトキハ監守盜罪ヲ構成ス

第一審 廣島控訴院 第二審 廣島控訴院

被告人 二宮興讓 辯護人 石尾一耶助

右興讓カ監守盜被告事件ニ付明治三十年六月二十三日廣島控訴院ニ於テ廣島地方裁判所カ被告興讓ヲ重禁錮一年ニ處シ監視六月ニ付ス云々ト言渡シタル判決ニ對スル被告ヨリノ控訴ヲ審理シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト判決シタル第二審ノ裁判ヲ不法ナリトシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢察長野崎啓造ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ本院ニ於テ裁判所構成法第四十九條ニ基キ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士石尾一耶助ノ辯論立會檢察官野新平ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

被告カ上告要旨ノ第一點原判決記載ノ事實中第四ヲ除ク外ノ金員ハ皆三次町役場ニ於テ監守中自己負債ノ爲メ費消セリトアレトモ被告ハ三次町役場ニ於テ之ヲ所持シタルモノニアラス第六ヲ除クノ外第一四五ハ皆自宅ニ於テ所持シタルモノナリ就中第六ノ如キハ其役場ニ於テセサルハ世情亦能ク認ムル所ナリ抑該金ノ費消ハ被告カ廣島ト大阪トニ出テ滯在中定期米賣

買ノ爲メ費消シタルモノナレハ其役場ニアラサルコト詢ニ明瞭ナリ然ルニ原院カ故ラニ事實ヲ偽造セシハ何等ノ妄ソヤ決シテ事實ト云フヲ得ス是レ則チ刑事訴訟法第二百三條ノ規定ニ違背シタルモノナリト云フニ在レトモ○犯罪ノ場所ヲ認定スルハ承審官ノ職權ニ屬スルモノナルヲ以テ之ヲ批難スルノ論旨ハ上告適法ノ理由トナスヲ得ス同第二點原判決ニハ理由ノ記載ナシ尤モ其末文ニ「右ノ理由ニ依リ」トアルモ個ハ決シテ理由ト云フヲ得スシテ刑ノ適用ヲ陳ヘタルニ過キサルナリ刑事訴訟法第二百三條ニ所謂理由トハ斯々ノ事實ニ對シ被告ハ斯々辯明スレトモ斯々ナルニ付斯々ト云フヲ得スト云フカ如クセサルヘカラス因テ原判決ハ理由ヲ付セサルモノナリト云フニアレトモ○原判決ニハ右ノ理由ニ依リトアル其前段ニ於テ事實ノ理由ハ明カニ判示シアルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ同第三點原判決第二ノ事實中金百十七圓四十錢五厘ヲ受取リ云々トアレトモ斯ル事實アルコトナシ被告カ同年月日同店ニ至リ受取リタル金額ナキニアラサルモ個ハ其金額ヲ異ニセリ是亦決シテ事實ト云フヲ得ス同第四點原判決第三ノ事實中額面百圓ノ無記名公債證書三枚ヲ明治二十五年以來同組合長タル職務ヲ以テ三次町役場ニ於テ自ラ監守スル中明治二十七年六月日時不詳該公債證書悉皆ヲ竊取シ自己負債ノ爲メ之ヲ他ニ質入ト爲シタリトアレトモ斯ル事實アルコトナシ被告ハ該公債證書ヲ他ハ質入トナシタルコトナキニアラサルモ是ハ明治二十七年ニアラスシテ是又其公債證書ノ枚數金額ヲ異ニセリ是亦事實云フヲ得スト云フニアリ○然レトモ右二點ノ論旨ハ全ク原院ノ職權ニ特任セル事實ノ認定ヲ批難スルモノニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由ナシ同第五點被告

町村組合管理者ノ監守盜



ハ昨年十月九日自首ノ當時費消殘金二百二十圓ト外ニ所持金八十二錢六厘ヲ地方裁判所檢察  
ニ差出シテ別紙ノ領收證書ヲ受取リ居レリ而シテ此二百二十圓ニ對シ何等ノ言被シナキハ乃  
チ刑事訴訟法第二百二條ニ違背シタルモノナリト云フニ在レトモ○訴訟記録ニ依ルニ該金額  
ハ明治三十年四月十日第二番公判廷ニ於テ被告承諾ノ上三次郡三次町外二村魚森郡口此村外  
一村組合長三次郡河内村長森川其輔ニ還付シタルモノニシテ其受領證書添付シアルニ依リ原  
院カ該金額ニ對シ還付ノ言渡シテ爲サレハ相當ニシテ上告論旨ハ其理由ナシ同第六點原判  
決言渡シニ際シ裁判長ハ單ニ本件控訴ハ之ヲ棄却ス其理由ハ判決書ニ示シ置クニ付此裁判ニ  
不服ナルトキハ自費ヲ以テ判決書ノ下付ヲ請フヘシト言放シ其理由ノ要領タモ告ケサルハ刑  
事訴訟法第二百四條第二項ニ違背セルモノナリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ヲ查スル  
ニ其末尾ニ裁判長ハ別紙判決書ノ通リ言渡シテ爲シ而シテ三日内ニ上告ヲ爲シ得ルコト及ヒ  
判決書ノ正本謄本抄本ハ自費ヲ以テ請求シ得ル旨ヲ告知スト記載シアレハ原院ハ主文ノミ言  
渡シタルニアラスシテ其全文ヲ宣告シタルモノト認メサル可カラズ因テ上告論旨ハ其理由ナ  
シ同第七點町村制ナル法律第百十六條第一項若クハ第二項ニ依リ組織シタル町村組合長トハ  
即チ町村長ト其性質資格等モ之ヲ異ニセス而シテ町村長ハ町村制實施以來從前ノ戶長ト大ニ  
異ナリ同制第七十一條第百十條ノ規定アリテ町村ノ金穀ハ之ヲ受領スルコトヲ許サス況ンヤ  
其監守ヲヤ故ニ町村長(第六十二條末項ニ依リ郡長ノ許可ヲ得タルモノヲ除ク)ハ金穀ノ受領若  
クハ監守ニ對シテハ全ク無責任ナリ而シテ我刑法第二百八十九條ニ所謂監守トハ職費ヲ以テ

金穀ヲ監守シタル者ノ謂ニシテ決シテ被告カ如キ無責任者ノ行爲ニ適用スヘキモノニアラス  
ト信ス然ルニ被告カ所爲ヲ前條ノ監守盜罪ニ擬シタルハ錯誤ノ尤甚シキモノナリ同第八點前  
ニ所謂監守盜罪ノ成立ニハ其第一ノ要素トシテ金穀物件ノ監守ヲ爲シ得ル身分ヲサレ可ラ  
ス然ルニ被告ハ前項ニ陳ヘタル如キ身分ニシテ第六十二條末項ノ許可ヲ得タルモノニモアラ  
サレハ法律上ニ於テ町村ノ金穀ハ之ヲ受領スルヲ許サス是ヲ以テ被告ハ監守者ニアラサルコ  
ト明カナレハ即チ本罪構成ノ要素ヲ欠キタルモノナルカ故ニ監守盜罪ハ成立セサルモノナリ  
同第九點前項監守盜罪ノ成立ニハ第二ノ要素トシテ自己ノ官職ノ爲メニ監守スル金穀物件ヲ  
竊取シタルコトヲ要ス然ルニ被告ハ金穀監守ノ責任ナキモノナレハ職掌上監守シタル金員ヲ  
竊取シタルモノニアラサルナリ去レハ被告ハ第二ノ要素ヲ欠キタルモノナルカ故ニ監守盜罪  
ハ成立セサルナリ同第十點組合規約カ如何ニ規定スルモ三次三給郡長カ如何ニ牽強附會的ノ  
回答ヲナスモ町村制ナル法律カ町村長ヲシテ町村ノ金穀ノ受領者クハ監守ヲ許サレハ町村  
制中何レノ條項ヲ見ルモ收支事務ヲ收入役以外ニ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得ルノ明文トテハ  
第六十二條末段ノ例外ヲ除クノ外アルコトナシ故ニ被告カ町村ノ金穀ヲ受領シタルハ全ク職  
權外ノ行爲ニシテ無責任ノ行爲ナリ然ルニ原院カ此行爲中ノ費消ヲ以テ直ニ職責者即チ收入  
役ノ行爲ト同一視シ監守盜罪ニ間擬シタルハ錯誤ノ甚タシキモノナリ同第十三點町村制第百  
十六條第一二項ニ依リ組織シタル組合村長カ第百十七條第一項若クハ第二項ニ依リ其事務ヲ  
管理スルト雖モ同第六十二條末項ニ依ルニアラサレハ町村金穀ノ受領者クハ監守ハ之ヲ許サ



ス左レハ其許可ヲ得サル被告ニ其職責ナキハ照々乎トシテ明カナリ而ルニ被告カ行爲ヲ其職責者ト同視シ監守盜罪アリトシタルハ錯誤ナルコト分明ナリ同第十四點今回被告カ費消シタルモノハ悉ク以テ公金ト云フ可ラス何トナレハ法律上受領スヘカラサル無責任者カ錯誤ノ受領中費消セシモノナレハナリ故ニ町村ニ對シ總テノ納金ヲ收入後以外ニ交付シタルモノハ決シテ其納付ノ本務ヲ盡シタルモノトナスヘカラス町村ハ此輩ニ對シ猶徴収スヘシト斷信ス是レ被告カ今回費消シタルモノハ決シテ公金ト稱スヘカラスト爲ス所以ナリ已ニ其公金ニアラサル以上ハ被告ヲ監守盜罪ニ問擬スヘキモノニアラサルナリト云フニ在リ○因テ前數點ノ論旨ニ基キ町村制ヲ案スルニ町村組合ナルモノハ同制ノ規定ニ依リ當然組成スルモノトハ其性質組織ヲ異ニシ同第一百十六條同第一百七條ニ則リ關係町村ノ協議ニ依リ組合會議ノ組織事務管理ノ方法並ニ費用支辨ノ方法等ヲ規定シ監督官廳ノ許可ヲ得テ其組合ヲ設クルヲ得ルモノニシテ其事務管理ノ方法ノ如キモ同制第一百七條ニ於テ況ク事務管理ノ方法ヲ規定シト揭ケ特ニ其要件ヲ示シアルヲ見サレハ從テ何等ノ制限アルコトナシ去レハ町村組合ニ關スル職務權限其他一切ノ事務管理ノ方法等ハ組合町村ノ協議ニ於テ之ヲ規定シ監督官廳ノ許可ヲ得テ初メテ施行スヘキモノナリ故ニ其組合事務管理者ノ職責如何ノ如キハ其町村組合ノ規約ニ依リテ定マルヘキモノトス茲ニ訴訟記録ヲ查スルニ本案學校ニ關スル組合規約ノ第五條ニ組合事務ハ管理者一名ヲ置キ組合町村長交替ヲ以テ一年間執務スルモノトス又道路改修ニ關スル規定ノ第五條ニ本組合ニ關スル一切ノ事務執行ハ三次郡三次町長ニ之ヲ委託スルモノハ

トスルアルハミニシテ他ニ金穀收支ニ關スル機關ハ設ケアルヲ見サレハ組合事務ハ管理者ハ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ管理スヘキモノニシテ其事務中ニハ金穀物件ノ管理モ亦包含セラルモノト云ハサル可カラズ故ニ其事務ノ管理者ハ金穀ヲ受領シ及ヒ共有物件等ヲ監守スルハ職責アルハ勿論ナリトス因テ原院カ被告ハ前縣學校及ヒ道路改修ニ組合事務ハ管理者ニシテ其組合ニ關スル一切ノ事務管理中其監守ニ係ル金員有假證券ヲ竊取シタルモノトハ事案ヲ認メ刑法第二百八十九條ヲ適用シテ處斷シタルモノハ原院判決ハ相當ニシテ上告論旨ハ如キ違法アルコトナシ同第十二點ハ全然原院立會檢事ノ論告ニ對スル批難ニ止マリ判決ニ對スル上告論旨ニアラサルヲ以テ別ニ說明ヲ與フルノ要ナシ

第一回辯明書ハ之ヲ數項ニ分チ喋々陳辯シアルモ要スルニ上告趣意書ノ第七點以下ノ論旨ヲ反覆陳辯スルニ過キサルヲ以テ重子テ說明ヲ與フルヲ要セス  
野崎檢事長ノ上告答辯書ニ對スル辯明書及ヒ緊急辯明書非ニ辯護士石尾一耶助ノ辯明書ハ共ニ原院檢事長ノ答辯ヲ繼々反駁スルニアリテ原判決ノ不法ヲ論訴スルニアラサルヲ以テ說明ヲ與フルノ必要ナシ

辯護士石尾一耶助ノ上告理由擴張書ノ第一點ハ要スルニ被告カ上告第七點以下ノ論旨ヲ詳説敷衍スルニ過キサルヲ以テ該論旨ニ對スル說明ニ依リ了解スヘシ同第二點原院ハ明治二十九年十月十九日附三次三谿郡長山口光風ノ回答書ヲ採テ斷罪ノ證據トセラレタルモ該回答書ノ主意トスル處ハ上告人カ費消シタル金員物件ハ上告人カ監守スル責任アルモノナリト云フニ



アルコトハ其文中特ニ第二第三第四項ニ明記シアルノミナラス豫審判事カ照會シタル主意モ  
 監守ノ責任如何ヲ知ラント欲シタルモノナルコトハ其照會書ノ末文ニ徴シ明瞭ナリトス凡ソ  
 上告人カ職務上ノ責任ヲ判定スルニハ市町村制ノ規定及ヒ町村組合規約ニ依ルヘキモノニシ  
 テ郡長ノ意見ヲ書シタル回答書ヲ以テ判斷スヘカラサルハ勿論ナルノミナラス採テ以テ監守  
 ノ責任有無ヲ斷スル證據トナスヲ得サルモノナリ故ニ原院ハ宜シク責任ノ有無ヲ市町村制及  
 ヒ規約ニ依リ理由ヲ説明スヘキニ事茲ニ出テス事實ニ關係ヲ有セサル責任有無ノ回答書ヲ以  
 テ斷罪ノ證據トナシタルハ不法ノ判決タルヲ免レスト云フニ在レトモ○被告カ法律上監守ノ  
 責任アルコトハ前ニ説明セシカ如シ而シテ事實ノ取調ヲ爲スニ當リ郡衙ニ照會シテ回答ヲ徵  
 スルハ豫審判事ノ職權ニ屬シ其回答書ヲ採用スルト否トハ原院ノ職權ニアルヲ以テ上告論旨  
 ハ要スルニ事實承審官ノ職權ニ特任セル證據ノ取捨事實ノ認定ヲ批難スルニ外ナラサルヲ  
 テ上告適法ノ理由ナシ同第三點原院ハ規定書及ヒ規約書ノ寫ヲ以テ斷罪ノ證據トセラレタル  
 モ是レ證據アル正本謄本ト云フヲ得サルモノナレハ之ヲ以テ直ニ斷罪ノ證據力ヲ有スルモノ  
 ト云フヲ得ス從テ之ヲ採テ斷罪ノ證據ニ供シタル原院判決ハ不法ナリト云フニ在レトモ○該  
 規定書及ヒ規約書ノ寫ノ如キハ刑事訴訟法ノ規定ニ依リ作成スルヲ要セサルモノナレハ認  
 テキモ之ヲ違法トセス而シテ之ヲ書證トシテ採用スルト否トハ承審官ノ職權ニアルヲ以テ原  
 院カ之ヲ採用シタルハトテ違法ナリト云フヲ得ス同第四點第一審裁判所ハ判決書第二ノ項ニ  
 於テ金百三十四圓五十七錢九厘ヲ費消シタリト認定セラレ第二審ニ於テハ判決書第二ノ項ニ

於テ金百十七圓四十七錢五厘ヲ費消シタリト認定セラレタリ然レハ第一審判決ハ事實認定其  
 當ヲ得サルモノナレハ此點ニ於テ控訴人(即チ上告人)ノ控訴ハ其理由アルト謂ハサルヲ得ス從  
 テ原院ハ第一審判決ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲スヘキ答ナルニ事茲ニ出テサリシハ不法ナリト云  
 フニアレトモ○第一二審ノ判決ニ於テ竊取金ノ額ヲ異ニシタル點ハ上告論旨ノ如クナルモ其  
 刑期ニ變更ヲ生セサルヲ以テ原院カ第一審判決ヲ認可シ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ違法ニア  
 ラス

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十年十一月十六日大審院第二刑事聯合部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私印盜用等ノ件

明治三十年第九三六號  
明治三十年十一月十六日宣告

○判決要旨

藥品ヲ使用シテ廢紙ニ押捺シタル印影ヲ白紙ニ寫取リ之ヲ他ノ證書ニ轉寫シ  
 タル所爲ハ私印盜用罪ニシテ私印偽造罪ニアラス

印影ノ轉寫



第一審 岐阜地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 足立 源左衛門

右私印盗用私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十年九月十五日名古屋控訴院ニ於テ岐阜地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ヨリノ控訴ヲ審理シ原判決ハ之ヲ取消ス被告源左衛門ヲ重禁錮二年附加罰金二十四圓監視六月ニ處ス云々ト言渡シタル判決ヲ不法ナリトシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢察事長加納謙ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ遂審理處

上告要旨ノ第一點ハ原判文中(前畧)被告カ薄荷油及ヒ晒蠟等ヲ使用シ已ニ反古ニ屬スル竹中治郎七名義ノ證書申ナル其名下ノ印影ヲ白紙ニ寫取リ即チ同人ノ實印ヲ偽造セシト斷定シ私印偽造罪ニ問擬シ刑法第二百八條第一項ヲ適用セラレタリ抑モ他人ノ影蹟ヲ藥種ヲ以テ他ニ移轉シ其印影ヲ利用スルハ疑モナク影蹟ノ盗用ニシテ刑法第二百八條第二項ノ犯罪ニシテ同條第一項ノ偽造罪ヲ成立スヘキモノニアラス若シ之ヲシモ盗用罪ニアラスシテ偽造罪ナリトセシカ他人ノ印影ヲ盗用シタルモノモ亦偽造罪ヲ以テ論セサル可ラス豈如斯不條理アラシキヤ是即チ疑律ノ錯誤ナリト云フニアリ○因テ原判決ヲ查スルニ(前畧)明治三十年一月中被告ノ寓居ニ於テ薄荷油及ヒ晒蠟等ヲ使用シ已ニ反古ニ屬シタル竹中治郎七名義ノ證書申ニ押捺シタル其印影ヲ白紙ニ寫取リ即チ同人ノ實印ヲ偽造シ曾テ治郎七カ被告ニ依頼シタル捨吉ナルモノヲ送籍事件成就スルトキハ其報酬トシテ金百五十圓ヲ與フヘキ旨ノ契約證書及ヒ治郎七ヨリ

被告宛ナル金百五十圓ノ預リ金證書ヲ偽造シ各證書ノ治郎七名下ニハ前記寫取リタル紙ノ儘ナル偽造印ヲ押捺シ云々トアリ此判示ニ依ルトキハ已ニ反古ニ屬セシ證書申治郎七名下ニ押捺シタル同人ノ印影ヲ藥品ヲ使用シテ白紙ニ寫取リ之ヲ前記ニ通證書ハ治郎七名下ニ轉寫シタルニ過キサルヲ以テ其所爲ハ即チ私印盗用ニシテ私印ヲ偽造シタルモノト云フヲ得ス然ルニ原院カ右ノ事實ヲ認メナカラ被告ニ私印偽造行使罪アリトシテ刑法第二百八條第一項ニ問擬シタルハ要スルニ上告論旨ノ如ク疑律錯誤ノ判決タルヲ免レサルモノトス同第二點ハ原判決事實ノ理由申ニ各其證書ノ治郎七名下ニ前記寫取リタル紙ノ儘ナル偽印ヲ押捺シ云々トアリテ如何ナル手段方法ヲ以テ押捺シタルヤヲ說示セサルハ事實ノ理由ヲ欠キタル不法ノ判決ナリト云フニアレトモ○原判決ニ各證書ノ治郎七名下ニ前記寫取リタル紙ノ儘ナル偽印ヲ押捺シト判示シタルハ即チ事實ノ理由ヲ明示シタルモノニシテ上告論旨ノ如キ違法アルコトナシ同第三點ハ第一審公判始末書ヲ閱スルニ本件公判ニ立會タル檢察ハ山下昌義ナルニ第一審判決書ニハ檢察官吉田平三郎本件ニ干與スルト明記シアリ云々左スレハ山下昌義立會ト記シタル始末書ハ本件外ノモノナリト信スト云フニアレトモ○此點ニ付テハ原院ニ於テ已ニ其違法ヲ認メ第一審判決ヲ取消シ更ニ相當ノ言渡シヲ爲シタルモノナレハ原判決ハ違法ニアラス因テ上告論旨ハ其理由ナシ同第四點原判文ニ(前畧)明治三十年一月中被告カ寓居セル岐阜縣安八郡大垣町大字馬場町ナル居宅ニ於テ薄荷油及ヒ晒蠟等ヲ使用シ云々トアルハ不當ナリ何トナレハ被告ハ明治二十八年十月中ヨリ三十年四月マテ同郡大垣町字竹島四番戸今村友作方ニ全戶



送籍住居致シ居レハナリ抑モ被告ヲ罪スルニハ第一ニ犯罪ノ場所ヲ明記シ而シテ罪ノ有無ヲ論スヘキハ論ヲ俟タス然ルニ原院ハ其當時被告ノ住居セサル大垣町字馬場ト明記シタルハ事實ノ理由ニ顯赫アル違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○犯罪ノ場所ヲ認定スルハ承審官ノ職權ニ屬シ他ヨリ容喙スルヲ許サス因テ上告論旨ハ其理由ナシ同第五點ハ原判決中(前略)右被告居宅ニ於テ「キシ」ノ代人三八及ヒ爲八ヨリ元利合計金百七十圓ヲ受取り之ヲ騙取シタリトアレトモ被告人ハ該金ヲ騙取シタルコトナシ假ニ騙取シタルニモセヨ「キシ」代人三八爲八ノ兩人ヨリハ百五十圓ヲ請取り殘ル二十圓ハ三八爲八兩人ニテ持歸リ後「キシ」ハ返戻シタルコトハ右兩人ノ豫審調書ニ依リ明カナルニ拘ラス原院カ該調書ニ依ラスシテ金百七十圓ヲ騙取シタリト言波シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○本論旨ハ原院ノ職權ニ特任セル證據ノ取捨事實ノ認定ヲ非難スルモノニ外ナラサルヲ以テ上告適法ノ理由ナシ

上告擴張要旨ノ第一點ハ原院ニ於テ國枝三八ハ被告ノ親族ナリヤトノ尋問ニ對シ刑法第百十四條第六ニ該當スルモノナルコトヲ陳述シ且第一審以來其事實ハ顯著ナルニ原院ハ其證言ヲ採テ本件ノ證據トナシタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ヲ查スルニ原院ニ於テ國枝三八ハ被告ノ親族ナリヤト尋問シタルコトノ記載ナク又國枝三八ノ豫審調書ニ依レハ其冒頭ニ豫審判事ヨリ被告及ヒ廣瀬角吉ト刑事訴訟法第二百二十三條ニ記載スル各項ノ關係ナキヤ否ヲ問ヒタル處其關係ナキ旨ヲ答ヘタリ茲ニ於テ證人ノ宣誓ヲ爲サシムト明記シアリ而シテ原院ハ其國枝三八ノ豫審調書ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルモノナルヲ以テ違

法ノ點アルコトナシ同第二點及ヒ第四點第一回辯明書ノ第一點第二回辯明書ノ第一點ハ喋々辯述シアルモ要スルニ上告第一第二點ノ論旨ヲ反覆陳辯スルニ過キササルヲ以テ重子テ說明ヲ與ヘス同第三點原判決勝本ヲ閱スルニ大塚英九郎ノ記名アリ然ルニ同人ヲシテ若シ名古屋控訴院判事ノ代理ナリトセハ其明示ヲ欠キタル違法アリト云フニアレトモ○判事大塚英九郎ノ本件公判ニ陪席シタルハ名古屋控訴院判事ノ代理ナルコトハ公判始末書ニ明記アルニ因リ然タルヲ以テ上告論旨ノ如キ違法アルコトナシ同第五點本件被告ニ對スル公訴ハ私印盜用私書偽造行使詐欺取財ノ三罪ナレハ原院ハ此三罪ニ付審理セラルヘキヲ相當ナリト信ス然ルニ原判決ハ被告ニ私印偽造ノ所爲アリトシテ偽造罪ニ問擬セラレタルモ私印盜用ハ私印偽造罪ニ包含セラルヘキモノニアラス又附帶犯罪ト見ルヘキモノニアラサルニ私印偽造行使罪ヲ以テ處斷セラレタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○檢事カ私印盜用罪ヲ以テ起訴シタル事件ヲ審理ノ末其事實ヲ私印偽造罪ト認定スルカ如キハ即チ罪名ノ變更ニシテ原院ノ職權ニ屬スルモノナルヲ以テ原判決カ私印偽造行使罪ヲ以テ處斷シタルハ違法ニアラス

第一回辯明書ノ第二點ハ上告趣意書ノ第三點第二回辯明書ノ第二點ハ上告趣意書第五點ノ論旨ヲ敷衍スルニ過キササルヲ以テ更ニ說明ヲ與ヘス

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條ノ規定ニ則リ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ判決スルコト左ノ如シ



足立源左衛門

原院カ認メタル事實ニ依ルニ被告カ私印盗用ノ二所爲ハ各刑法第二百八條第二項同第二百十條ニ私書偽造行使ノ二所爲ハ各同法第二百十條第一項同第二百十二條ニ該當ス而シテ本件ハ被告ノミノ上告ニ係ルヲ以テ私印盗用ノ點ハ原判決カ一所爲ト認メタルモノナルヲ以テ之ヲ被告ノ不利益ニ變更セス金員騙取ノ所爲ハ同法第三百九十條第一項同第三百九十四條ニ該當ス而シテ私書偽造行使ニ因レル詐欺取財ナルニ付同法第三百九十二條第二項ニ從ヒ私書偽造行使ノ所爲ヲ重シトス右ハ何レモ輕罪ノ再犯ナルヲ以テ同法第九十二條ニ依リ各本刑ニ一等ヲ加ヘ仍ホ數罪俱發ニ係ルヲ以テ同法第百條第一項ニ依リ重キ私印盗用罪ニ從ヒ被告源左衛門ヲ重禁錮二年ニ處シ罰金二十圓ヲ附加シ監視六月ニ附ス押収書ノ沒收及ヒ還付公訴裁判費用ノ言渡シハ原判決ノ通りタルヘシ

明治三十年十一月十六日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○酒造税法違反ノ件

明治三十年第九八五號  
明治三十年十一月十六日宣告

○判決要旨

酒類請賣營業人甲者ノ代理人乙者ニシテ其業務擔當中免許ヲ得スシテ酒類ヲ製造シタルトキハ乙者ハ酒造税法第二條第二十二條ノ制裁ヲ免カル、ヲ得ス

(參照) 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一個所毎ニ政府ノ免許ヲ受ヘシ(酒造税法) 他ノ委託ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニアラサル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス(酒造税法) 第廿二條

第一審 京都地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 四方民之助

右酒造税法違反事件ニ付明治三十年九月二十九日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ同院檢事長林誠一ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルニト左ノ如シ

上告趣意ハ本件ノ事實ハ被告四方民之助ハ其實弟酒類請賣業四方貫次郎ノ營業代理人ト爲リ其業務擔當中明治三十年三月一日四方太三郎ヨリ白酒膠七斗六升ヲ代金拾九圓ニテ買入レ又同月十三日四方知之助ヨリ白酒膠九石五斗ヲ代金二百三十七圓五十錢ニテ買入レ酒類製造ノ

酒造税法ノ違反



免許ヲ受ケスシテ同月中右拾石餘ノ白酒釀ニ水凡ソ壹石壹斗五合ヲ混和シ樽掛シテ白酒十一石二斗七升五合ヲ製造シ該白酒十一石一斗八升七合ヲ代金三百二十五圓二十八錢ニテ數次ニ自用者ニ販賣シ殘ル六斗ヲ所持シタルモノナリトス而シテ原判決ニ於テ被告民之助カ其實弟四方貫次郎ノ營業代理人ニシテ其業務擔當中本件犯罪ノ行為アリタルコトハ確認スル所ナリ然ハ則チ被告民之助ハ酒造税法第三十二條ニ依リ其責ニ任スヘキ者ニ非ス又四方貫次郎ハ幼者ナルモ同法第三十一條ニ依リ其責ヲ免ル能ハサルモノナレハ本案被告民之助ノ行為ニ付其責ニ任スヘキ者ハ該營業本人タル四方貫次郎タルヘキモノナルニ原判決カ被告民之助ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ疑律錯誤ニシテ刑事訴訟法第二百六十九條第十號ニ該當スル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○然レトモ原判文ニ依レハ前掲上告論旨ノ如ク貫次郎ハ酒類請賣營業人ナルカ故ニ被告民之助ハ其請賣營業ニ付キ代理人ナル資格ヲ有スルト雖トモ酒類製造ニ付テハ貫次郎ト民之助トノ間ニ於テ營業上何等ノ關係アルニ非ス而シテ本件ハ民之助カ免許ヲ受ケスシテ白酒ヲ製造シタルモノト云フニ在リテ則チ酒造税法第二條ニ所謂酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受ケヘシトアルニ反スルモノナルヲ以テ同法第二十二條ハ制裁ヲ免レサルモハトス故ニ原院カ右ノ法條ニ依リ處斷シタルハ相當ニシテ上告ハ理由ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十年十一月十六日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○詐欺取財私訴ノ件

明治三十年第八〇五號  
 明治三十年十一月十九日宣告

○判決要旨

犯罪ニ因テ生シタル義務ハ不成立ナルヲ以テ追認スルヲ得ス

第一審 京都地方裁判所 第二審 大阪控訴院

私訴上告人 川上文次郎 訴訟代理人 磯部四郎

私訴被上告人 中川幸七

明治三十年七月二日大阪控訴院ニ於テ宮川彌三郎カ詐欺取財被告事件ノ公訴ニ附帶スル私訴ノ控訴ヲ審理シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル第二審ノ判決ニ服セス控訴人川上文次郎ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ上告代理人磯部四郎ノ辯論及ヒ立會檢事安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

上告ノ要旨ハ第一宮川彌三郎ニ對スル公訴判決ノ如ク中川幸七所有ノ地所建物ヲ抵當物件トシテ彌三郎ニ貸渡スヘキ公正證書ヲ騙取シタルモノトスルモ上告人ハ善意ノ貸主ナルヲ以テ其債務ヲ償却スルニ非サルヘ登記取消ヲ求ムルハ不當ナル旨第一第二審ニ於テ上告人ハ主張

犯罪ニ因テ生シタル義務ノ追認



セリ然ルニ原院ハ其争點ニ對シ毫モ判決ヲ與ヘサルハ不當ナリト云フニ在レトモ○原判文前段ニ本件甲第一二號證ハ真正ニ成立セシモノニ非ストノ理由ヲ説明シ其後段ニ原裁判所カ被控訴人ノ請求ヲ容レタル本訴判決ハ總テ相當トスト判示シアリテ原院ニ於テ被控訴人申川幸七カ登記取消ノ請求ヲ相當ト認メ控訴ヲ理由ナシト爲シタルモノナレハ其争點ニ對シ判決ヲ爲シタルヤ明瞭ナリ○第二原判決ノ如ク甲第一二號證ハ真正ニ成立セシモノニ非ストスルモ爾後第三號證ノ如ク被上告人申川幸七ハ宮川彌三郎ヨリ金百五拾圓ヲ分借シ上告人ニ對シ共ニ義務ヲ盡スヘキ旨ノ和解契約ヲ爲シタルモノナレハ甲第一二號證ノ成否ニ不拘甲第二號證ノ成立セシ日ヨリ新ニ義務ノ發生セシモノナルコト論ヲ俟タス若シ原判決ノ如ク甲第三號證ニ依リ被上告人幸七カ百五拾圓ヲ分借セシニモ不拘尙ホ毫モ義務ナシトセハ幸七ハ無謂利得ヲ爲スモノト云ハサルヘカラス豈如此道理アラシヤ然ルニ原院ハ甲第三號證ヲ甲第一二號ノ追認證書ト認定シ上告人ノ主張ヲ採用セサルハ事實認定ノ誤謬且法律ヲ不當ニ適用セラレタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判文ニ宮川彌三郎カ詐欺取財事件ノ公訴判決已ニ確定シタル上ハ甲第三號證等ハ最早此附帶訴訟ニ於テ甲第一號第二號證カ真正ニ成立タリトスルヲ證スルニ足ラス殊ニ犯罪ニ因テ生シタル義務ハ固ヨリ不成立ニシテ追認スヘカラサルモノナレハ甲第三號證ヲ以テ被控訴人カ甲第一二號證ヲ追認シタルモノトスル陳述モ亦採用スルヲ得ストアリテ原院ニ於テ甲第三號證ハ甲第一二號ノ真正ニ成立タルヲ證スルニ足ラス又上告人陳述ノ如ク追認證書ナリトスルモ犯罪ニ因テ生シタル義務ハ追認スルヲ得サルモノトノ

理由ヲ以テ上告人ノ請求ヲ斥ケタルモノナリ而シテ甲第三號證ヲ以テ新ニ義務ヲ發生シタルモノトノ論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス要スルニ原判決ハ違法ノ點ナシ

上告代理人磯部四郎カ上告趣意擴張書ノ要旨ハ第一原判決ハ上告人ニ對シ抵當書入登記取消ヲ命シタル第一審判決ヲ是認シタリト雖モ上告人文次郎ハ本件ノ附帶セル公訴ニ於テ有罪ノ判決ヲ受ケタル者ニ非ス而シテ私訴ハ贓物ノ返還損害ノ賠償ヲ目的トスルモノナルニ原判決ノ如キ趣旨ニ於テハ被上告人ノ請求スル原因及ヒ目的ノ如何ニアルヤ知ルヘカラス即チ私訴ニ關スル法則ヲ適用セサル違法アリ加之該判決ノ趣旨ニ依レハ本件ヲ私訴トシテ裁判スルノ理由明瞭ナラサルヲ以テ此點ヨリ云ヘハ理由ノ具備セサルモノナリト云フニ在レトモ○本件私訴ハ被上告人中川幸七ヨリ宮川彌三郎カ詐欺取財事件ノ公訴ニ附帶シ提起シタルモノニシテ其贓物返還ノ目的ヲ以テ登記取消ノ請求ヲ爲シタルノ事實及ヒ私訴トシテ裁判スルノ理由ハ原判決ニ徴シ明瞭ナリ而シテ上告人ハ公訴ニ於テ有罪ノ判決ヲ受ケタル者ニ非スト雖モ其私訴ニ付被告人トシテ贓物返還ノ請求ヲ受ケルハ固ヨリ免カレサル所ナリ要スルニ原判決ハ違法ニ非サルモノトス○第二原判決ノ理由ニ殊ニ犯罪ニ因テ生シタル義務ハ不成立ナレハ追認スヘカラサルモノト云々ト論結セリ此論旨ノ果シテ相當トセハ私訴ノ權利ハ拋棄又ハ和解ヲ爲スヘカラサルモノトノ論理ニ歸着スヘク即チ刑事訴訟法第七條第一號ノ明文ニ違背シタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判文ニ犯罪ニ因テ生シタル義務ハ不成立ナレハ追認スヘ



か、チサレモ、ハトアルハ、即チ義務ノ追認スヘカサレ、理由ヲ説明シタルモ、ハナレハ、之ヲ以テ私訴ハ權利ヲ拋棄シ、又ハ和解ヲ爲スヘカサレ、トハ論理ニ歸着スヘキモノ、ニ非サルヤ、論ヲ俟タズ、因テ本論旨モ亦相立タサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ、本件上告ハ之ヲ棄却ス上告ノ費用ハ上告人ノ負擔タルヘシ

明治三十年十一月十九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○私印盜用等ノ件

明治三十年第九六二號  
明治三十年十一月十九日宣告

○判決要旨

事實ノ認定ニ於テ實父名義ノ小切手ヲ偽造シ銀行ヨリ金圓ヲ騙取シタル所爲アルコトヲ認メナカラ法律ノ適用ニ至リ實父ヲ以テ被害者ナリトシ不論罪ノ言渡ヲナシタル裁判ハ擬律錯誤ノ不法アリ(第三輯第九卷二十六丁登載)  
(手形偽造詐欺取財ノ件參看)

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 阪本平次郎 辯護人 湊 硯 吾

右私印盜用手形偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十年九月十五日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原院檢事長林誠一ヨリ附帶上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士湊硯吾ノ辯論檢事岩野新平ノ意見ヲ聽キ審理スル處

上告趣意第一點ハ原判決ニ被告ノ本刑輕懲役ノ刑ヲ宥減輕及ヒ酌量減輕ニ依リ遞減シテ輕罪ノ刑ニ處シタルニ付テハ加減例ニ依リ其順序及ヒ法條ヲ明示スヘキ筈ナルニ之ヲ明示セス、漠然輕懲役ヲ重禁錮ニ減セラレシハ法律ノ明示ヲ欠キタル違法アリト云フニ在レトモ、○原判決ニ減輕ノ法條ハ總テ之ヲ明示シアルニ依リ上告論旨ハ其理由ナシ加減例ノ如キハ必シモ之ヲ明示スルヲ要セス、第二點ハ上告人ハ一審以來詐欺取財犯トシテ訴追ヲ受ケ居ルモノナレハ原院カ之レニ對シ親族間ニ係ルヲ以テ罪ヲ論セスト言渡スニ付テハ刑事訴訟法第二百二十四條ヲ明示セサルヘカラス然ルニ之ヲ明示セザリシハ違法ナリト云フニ在リ、檢事長林誠一附帶上告ノ趣意ハ原院ハ其判文前段事實理由ノ部ニ於テ被告平次郎カ明治二十九年十二月二十二日實父阪本平兵衛ノ實印ヲ盜ミ出シ之ヲ押用シ以テ小切手ヲ偽造シ其切手ヲ逸身銀行ニ持參シ金五十圓同銀行ヨリ騙取シタル事實ヲ認メナカラ其後段法律理由ノ部ニ於テハ被害者ハ實父阪本平兵衛ト爲シ刑法第三百九十八條ニ依リ其罪ヲ言渡シタルハ理由齟齬ノ違法アル裁判



ナリト云フニ在リ。○依テ、原判決ヲ查閱スルニ、原院ノ認定ニ據レハ、被告ハ騙取シタル金五十圓ハ、被害者ハ、逸身銀行ニシテ、阪本平兵衛ニアラス然ルニ、其實ヲ認め、ハカラ法律適用ニ至リ、被害者ハ、平兵衛ナリト爲シ、秘藏ニ對スル詐欺取財ナルヲ以テ、刑法第三百九十八條ニ從ヒ、其罪ヲ論セ、スト、説明シタルハ、擬律ノ錯誤ニシテ、破毀スヘキ理由アリト、辯護士澁田香ノ辯明ハ、右附帶上告ト同一ノ點ヲ指摘シ理由ヲ附セサル違法ノ判決ナリト云フニ在ルヲ以テ、重テテ説明ヲ要セス、依テ被告平次郎ニ對スル原判決ヲ破毀シ、刑事訴訟法第二百八十七條ニ依リ、本院ニ於テ直チニ判決スル左ノ如シ

阪本平次郎

原院ノ認定シタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ、被告平次郎ノ私印盗用ノ所爲ハ、刑法第二百八條第二項第二百十二條ニ小切手偽造行使ノ所爲ハ、同第二百九條ニ金圓騙取ノ所爲ハ、同第三百九十條第一項第三百九十四條ニ該リ、詐欺取財ニ因テ小切手ヲ偽造行使シタルモノナルニ依リ、同第三百九十條第二項ニ照シ一ノ重キ小切手偽造行使ノ罪ニ從ヒ、同第八十條第二項ニ從ヒ、各本刑ニ二等ヲ減シ、尙原諒スヘキ情狀アルニ依リ、同第八十九條第九十條ニ照シ、各本刑ニ二等ヲ減シ、二罪俱發シタルヲ以テ、同第四百條ニ依リ一ノ重キ小切手偽造行使罪ニ從テ處斷シ、尙同第二百十二條ヲ適用シ、偽造ノ小切手ハ、同第四十三條第四十四條ニ依リ沒收スヘキモノトス、依テ被告平次郎ヲ重禁錮六月監視六月ニ處シ、偽造ノ小切手ハ、官ニ沒收ス、其ノ他ハ、原判決ノ通りタルヘシ

明治三十年十一月十九日大審院第二刑事部公延ニ於テ、檢事岩野新平立會宣告ス

○拐帶及詐欺取財ノ件

明治三十年第一〇〇〇號  
明治三十年十一月十九日宣告

○判決要旨

被告人カ辯護人ヲ用フル權利ハ、公判ノ進行ヲ妨ケサル範圍内ニ於テ之ヲ行フコトヲ得ヘシ、從テ公判開廷ノ際ニ至リ、辯護人ヲ用フル爲メニ延期ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ聽許セサルモ不法ニアラス

(參照) 被告人ハ、辯論ノ爲メ、辯護人ヲ用ユルコトヲ得(刑事訴訟法第百七十九條第一項)

第一審 水戸地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人(青山吉松) 辯護人 花井卓藏

右拐帶及ヒ詐欺取財被告事件ニ付、明治三十年九月二十五日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ、被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付、刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ、判決スルコト左ノ如シ

辯護人ヲ用フル權利



吉松上告趣意第一點ハ上告人ハ原院ニ於テ參考人小田倉章三外一人ノ訊問ヲ申請シタルニ原院カ檢察ノ意見ヲ聽キタルノミニテ評議ヲ爲サスシテ採用セサル旨ヲ言渡シタルハ不法ナリ同第二點ハ原院ハ被告ノ承諾ナキニ書類ノ朗讀ヲ省略シ又證據物件ハ何レモ紙袋ニ入レタル儘示サレタルヲ以テ如何ナル物件ナルヤヲ知ルヲ得スシテ辯解ヲ爲スコト能ハサリシ同第三點ハ被告ニ對スル詐欺取財罪ハ第一(明治二十八年九月三十日)第二(同年十月一日)及ヒ第三(同年十月二日)ノ三罪ナルニ其第一第二ノミニ付キ訊問ヲ爲シ第三ニ付モ訊問ヲ爲サスシテ判決シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ニ依レハ小田倉章三等ノ訊問申請ニ付テハ「裁判長ハ檢察ノ意見ヲ聽キ列席評議ノ上下ハ必要ト認メサルヲ以テ採用セスト言渡セリ」トアリ又「本件ノ證據タルヘキ一切ノ書類ハ讀聞ケヘキカ」トノ間ニ對シ「一回答朗讀ハ要セス」トアリ又「證據物一切ヲ示シ兩名ニ問右ニ對スル辯解ハ如何」兩名答申立ツルコトナシトアリ又被告事件ノ事實訊問ハ第一第二ノ點ニ止マラス一般ニ取調ヲ爲シタル事蹟明瞭ナルヲ以テ原院決ハ上告論旨ノ如キ不法ナシ」同上告擴張書第一點ハ原院判決主文中「公訴私訴ノ原院決ハ總テ之ヲ取消ス」トアリ然レトモ第一審被告人中控訴ヲ爲シタル者ハ上告人(吉松)及ヒ渡邊重次郎ノ兩名ナリ又上告人ハ私訴ニ付キ控訴ヲ爲シタルコトナシ然ルニ全部ヲ取消シタルハ不法ナリ且原院決ノ理由ニ於テハ詐欺取財ノ件ノミニテ拐帶教唆等ノ件ヲ記載セス若シ理由ヲ以テ正當トセハ主文ニ所謂總テ之ヲ取消ストハ不法ナリト云フニ在リ○依テ原院文ヲ閱スルニ吉松ハ第一審判決ニ於テ有罪ト認メタル點即チ詐欺取財ノ點ニ付テノミニ控訴ヲ爲シ重次郎ハ詐欺取

財及ヒ拐帶教唆ノ點并ニ私訴ニ付控訴ヲ爲シタルモノナルヲ以テ其主文ニ所謂公訴私訴ノ原院決トハ右兩名カ控訴ニ係ル第一審判決ヲ指シタルモノナルヲ明ナリ故ニ第一審ニ於テ無罪ノ言渡ヲナシタル吉松カ拐帶事件ニ付キ原院文ニ何等ノ記載ナキハ當然ナリトス同第二點ハ上告人ハ第一審判決中無罪ノ點即チ拐帶教唆ノ件ニ付テモ控訴ヲ爲シタルモノナルニ原院方「詐欺取財ノ點ニ付テノミニ判決ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○控訴申立書ニ依ルモ詐欺取財被告事件ニ付明治二十九年十一月九日水戸地方裁判所ニ於テ重禁錮四年罰金四拾圓監視一年六ヶ月ノ言渡ヲ受ケタルモ全部不服ニ付控訴申立候也」トアリテ前掲ノ如ク上告人(吉松)ノ控訴ハ詐欺取財ノ點ニ止マルコト勿論ナルヲ以テ原院カ此點ニ對シテノミニ判決ヲ與ヘタルハ相當ナリトス同第三點ハ原院文中章三ヨリ由之助宛借用證據四通ヲ騙取シタル旨ノ記載アルモ章三ノ豫審調書中宛名ヲ記載セザリシトノ陳述アルノミナラス一件記録中宛名アル證據ト認メ可キ證據ナク且原院文冒頭ノ文詞ニ照スモ章三ハ由之助ノ本名ヲ知ラサルヲ明ナリ故ニ原院ハ架空ノ事實ヲ認定シタルモノナリト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キササルヲ以テ上告ノ理由トナラス同第四點ハ原院文證據列記ノ部ニ以上ノ事實ハ藤咲傳左衛門ノ拐帶申報書同人及ヒ小田倉章三(中略)ノ各豫審調書トアリ然レトモ證據ハ有罪ノ件ニ對シテ明示スヘキモノニシテ無罪ノ件ノ爲メニスヘキモノニ非ス而シテ詐欺取財事件ノ記録中藤咲傳左衛門ノ拐帶申報書及ヒ同人ノ豫審調書ナルモノナシ故ニ原院決ハ一件記録中存在セサル證據ヲ採用シタル不法アリト云フニ在レトモ○本件ハ最初二件ト



シテ起訴シタルモ二者互ニ牽連シ同一被告人ニ係ルモノナルヲ以テ豫審以來合シテ取調ヲ爲シ其書類ハ亦合シテ一ノ記録トナリ即チ前掲申報書等ノ如キモ其記録中ニ存在スルヲ以テ原院ハ存在セサル證據ヲ採用シタルモノト謂フヲ得ス又該申報書等カ詐欺取財ノ證據トナルヤ否ヤハ原院ノ認定權内ニ在ルヲ以テ之カ當否ヲ論争スルモ上告ノ理由トナラス同第五點ハ原院ハ本件ヲ繼續犯トシテ處斷シタルモ第一第二第三共其手段及ヒ結果ヲ異ニシ且意思モ隔絶シ殊ニ第三回ノ手段ノ一變シ隨テ意思ノ一變セルコトハ原院文上明ナル所ナリ然ラハ如何ナル點ニ於テ之ヲ繼續犯ナリトセシヤ其理由ヲ明示セサル可ラサルニ其明示ナキハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院文ニハ被告等共謀ノ上名ヲ賭博ノ見セ金ニ托シ以テ章三ヲ欺罔シ金員ヲ騙取センコトヲ企圖シ明治二十八年九月三十日ヨリ引續キ三日間同一ノ手段方法ニ依リ現金及ヒ證書ヲ騙取シ且其意思ノ終始繼續シタル事實ヲ明示セルヲ以テ原院決ハ理由ニ於テ欠クル所ナシ同第六點ハ第三回目ハ證書ヲ受領シタルノミニテ金員ヲ騙取セス且其證書ハ宛名ナクシテ法律上證書ト云フヲ得サルモノナルハ第三點ニ開申セシ如クナルノミナラス被告ノ目的ハ金員騙取ニ在リテ證書ノ騙取ニ非サルコトハ原院文ノ冒頭ニ明示スル所ノ如シ故ニ此點ニ付テハ原院ハ無罪ヲ言渡スヘキモノナリト云フニ在レトモ○原院カ借用證書ト認メタル事實ニ對シ非難ヲ加フルコトヲ得サルハ前ニ説明セシ如クナルヲ以テ即チ該證書ヲ騙取シタル事實ナル以上ハ刑法第三百九十條ニ所謂證書類ヲ騙取シタル者ニ該當スルヲ以テ無罪ナリト云フヲ得ス又證書ハ現金ニ代ヘ受領シタルモノナルヲ以テ固ヨリ當利ノ目的ニ反スルモノト

謂フヲ得ス依テ原院カ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ相當ナリトス同第七點ハ原院決ノ末尾ニ「公訴私訴ノ原院決ハ前記理由ニ適合セス」云々トノミアルモ理由ノミ適合セサルニ非スシテ主文ニ於テモ差異アリ左スレハ第一審判決ハ法律上如何ナル點ニ於テ不法アリ被告ノ控訴ハ如何ナル點ニ理由アルヤヲ明示セサル可ラサルニ原院カ之ヲ明示セサルハ裁判ニ理由ヲ付セサルモノナリト云フニ在レトモ○原院決ハ前記理由ニ適合セストアル以上ハ原院決ノ理由ノミニ非スシテ則チ原院決全部ヲ指シタルコト勿論ナリ而シテ原院文ニ本按ノ事實理由ヲ明示シ第一審判決ハ此理由ニ適合セサルカ故ニ不法アリ從テ控訴ハ理由アリト云フニ在ルヲ以テ原院決ハ竊モ不法ナシ第二上告擴張書第一點拐帶事件ノ豫審處分中判事ノ更迭アリ其際相當ノ取調ヲ爲サリシヲ以テ其豫審調書ハ無効ナリ云々ト云フニ在レトモ○前ニ辯明セシ如ク上告人(吉松)ハ拐帶事件ニ付キ原院ニ於テ何等ノ判決ヲ受ケサルモノナルヲ以テ拐帶ニ關スル書類ニ付キ取調アリトスルモ原院決ニ對スル上告理由トナラス同第二點ハ小田倉章三ノ追訊調書ハ參考人トシテ訊問セラレタルモノナルヘキニ末尾ニ被告人小田倉章三ト記載アリ左レハ參考人ナルヤ被告人ナルヤ其調書ノ性質曖昧ナルニ原院カ之ヲ證據ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右被告人トアルハ全ク誤記ナルコト調書ノ全體ニ徴シテ明瞭ナルヲ以テ原院カ之ヲ證據ニ供シタルモ不法ニ非ス

重次郎上告趣意第一點ハ自分ハ相被告人等トハ未聞未見ノ間柄ニテ此事件ニ付キ初メテ面會シ自分ハ賭場ノ世話ヲ爲シ給料ヲ得タル迄ナルニ原院カ共犯トシテ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ



不法ナリト云フニ在テ○原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス同第二點ハ原院ニ於テ檢事ハ法律適用ニ付意見ヲ述ヘス單ニ原裁判カ正當ナリト云ヒタルニ過キス故ニ原判決ハ不法ナリト云フニ在レトモ○原裁判カ正當ナリトノ旨ヲ陳述シタル以上ハ則チ第一審判決ニ於テ適用シタル法律ハ正當ナリト云フニ在リテ法律適用ニ付意見ヲ述ヘタルハ明瞭ナリ故ニ右上古ノ論旨ハ一モ理由ナキモノトス同擴張書第一點乃至第三點ハ自分ハ共犯ニ非ス又證書ヲ騙取シタルコトナシ殊ニ由之助宛ノ證書ヲ騙取シタルトハ最モ甚シキ誤謬ノ認定ナリト云フニ在テ○一件記録中ノ事項ニ付キ繼々陳述スル所アルモ要スルニ事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラス同第四點ハ被告等カ賭博ヲ爲シタルハ三度ニシテ數罪俱發ナルニ一ノ重キニ從フタルヤテ見ルニ由ナク且刑法第百條ヲ適用シタルコトヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本按ハ繼續シタル一罪ナルコトハ吉松ノ上古論旨第五點ニ付説明セシ如クナルヲ以テ原院カ刑法第百條ヲ適用セサルハ當然ナリ第二擴張書第一點ハ藤咲傳左衛門ノ拐帶申報書ヲ以テ證據ニ供シタルハ不當ナリト云フニ在リテ○吉松ノ上古論旨第四點ト同一論旨ナルモ右論旨ノ理由ナキコトハ前ニ辯明セシ如クナルヲ以テ重テ説明ヲ與ヘス同第三點ハ原判決ニ被告ノ前科ヲ掲グルルモ何ニ依リテ之ヲ認メタルヤチ知ルニ由ナク又事實ノ部ニモ前科云々ト云フコトヲ記セス是最モ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニハ被告カ前科ヲ列記シ其後項ニ於テ右ノ事實ハ云々證據十分ナリトアリテ證據ノ明示アルヲ以テ毫モ不法ノ點ナシ辯護人花井卓藏上古趣意擴張第一點ハ被告人ハ辯論ノ爲メ辯護人ヲ用エル權利ヲ有スルハ刑

事訴訟法第七十九條ノ明定スル所ナリ本件ハ輕罪ナルヲ以テ辯護人ヲ用ユルト否トハ裁判ノ構成ニ關係ナシト雖トモ既ニ之ヲ用ユル旨ヲ明言シタル以上ハ裁判所ハ之ヲ拒絕スルコトヲ得サルモノト信ス然ルニ原院カ辯護人選定ノ爲メ公判ノ猶豫ヲ求メタル被告人ノ申請ヲ採用セザリシハ右ノ法則ニ背戾シ被告人ノ辯護權ヲ無視シタル不法アリト云フニ在リ○依テ案スルニ被告人カ辯護人ヲ用ユルコトヲ得ルハ刑事訴訟法第七十九條ニ規定スル所ナルハ上告論旨ハ如クナルモ之ヲ用ユルカ爲メ公判ノ期日ヲ變更シ得ヘキ權利ヲ認メタルモノナシ抑モ公判ノ期日ハ法律ハ規定ニ從ヒ裁判所ハ職權ヲ以テ定ムヘキモノナルヲ以テ被告人カ辯護人ヲ用ユル權利ハ該公判ノ進行ヲ妨ケサル範圍内ニ於テ之ヲ行フコトヲ得ヘキモノトス故ニ被告人カ公判ノ期日ハ至リ辯護人ヲ用ユルカ爲メ公判ノ延期ヲ申請シタル場合ニ於テ之ヲ聽許セザレハトテ刑事訴訟法第七十九條ノ規定ニ背戾シタルモノト謂フヲ得ス同第二點ハ原院ハ被告重次郎ニ重禁錮五年ニ處シタリ而シテ同人ニ對シテ刑法第三百九十條并ニ第九十八條第九十二條ヲ適用シタリ而シテ禁錮ノ刑ハ加ヘテ六年ニ至ルコトヲ得ヘキハ勿論ナリト雖モ如此場合ニ在テハ刑法第七十條末項ノ法則ヲ適用セサル可カラズ然ルニ原院ノ判決爰ニ出テサルハ擬律錯誤若クハ理由不備ノ不法アリト云フニ在レトモ○原判決ニ於テ重次郎ヲ重禁錮五年ニ處シタルハ則チ刑法第七十條ノ末項ヲ適用シタルニ因ルナリ故ニ原判決ハ同條ノ法則ヲ適用セサルモノト謂フヲ得ス又同第九十二條ヲ適用シ一等ヲ加ノ旨ヲ明示シタル以上ハ特ニ第七十條ヲモ適用シタル旨ヲ示サレモ之レカ爲メ理由ヲ備ヘサルモノト謂フヲ得ス依



テ該上告論旨モ亦理由ナキモノトス  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十年十一月十九日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○私書變造行使ノ件

明治三十年第一〇四四號  
明治三十年十一月二十二日宣告

○判決要旨

出訴期限ヲ經過シタル證書面ノ返濟期限ヲ變更シ未タ出訴期限ヲ經過セサル  
モノ、如ク作成シタル所爲ハ私書變造行使罪ヲ構成ス

第一審 長野地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 原山 勇 辯護人 立川雲平  
高木益太郎

右私書變造行使被告事件ニ付明治三十年十月二十五日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對  
シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣旨ハ刑事訴訟法第二百四條ニ判決ノ言渡ハ辯論ヲ終リタル後即日又ハ次ノ開延日ニ於  
テ之ヲ爲ス可シトノ規定ヲ設ケタルハ口頭審理ノ本質ヲ完カラシメ其得タル心證ニ依テ判決  
言渡ヲ爲サシメンカ爲メナリ然ルニ第一審ニ於テ審理ノ終了セシハ本年四月六日ニシテ判決  
言渡ヲ爲セシハ同八月五日ナレハ其間五ヶ月ヲ經過セリ右ハ前條ノ規定ニ違背スルモノナル  
ニ原院ニ於テ第一審判決ヲ認可シ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○刑  
事訴訟法第二百四條ノ規定ハ一ノ訓示法ニ過キスシテ必ス辯論ヲ終ルニ即日又ハ次ノ開延  
日ニ判決言渡ヲ爲ス可シト命令シタルモノニアラス故ニ裁判所ニ於テ或ル事由ノ爲メ即日又  
ハ次ノ開延日ニ判決言渡ヲ爲サレモ敢テ妨ケナキニ付之ヲ以テ其判決ヲ違法ナリト爲スノ  
謂レナシ因テ本論旨ハ適法ノ理由ナキモノトス

辯護人立川雲平高木益太郎ノ辯明論旨第一點ハ原院ニ於テ被告カ未タ出訴期限ヲ經過セサル  
モノト爲サンカ爲メ借用證書ノ返濟期限ハ明治二十四年二月十五日限ト記載シアル其二月ヲ  
十一月ニ變更シタリトノ認定ナレトモ元來出訴期限ハ債務者ヨリ之ヲ援用スルニ非サレハ當  
然其適用ヲ爲ス可キモノニアラス然ルニ原判決ノ理由中ニ債務者ヨリ出訴期限ヲ援用シタル  
場合ナルヤ否ヤナ明示セス若シ債務者ヨリ出訴期限ノ援用ナキ場合ナリトセン乎其期限ノ二  
月タルト十一月タルトハ何等ノ關係ナキニ付假令變造ノ事跡アリトスルモ無害ナルヲ以テ私  
書變造行使罪ヲ構成スルモノニアラス云々ト云フニ在レトモ○原判文ニ認メタル如ク戸谷金  
藏ヨリ被告ニ差入レタル借用金證書ハ既ニ出訴期限ヲ經過シタルヨリ被告ニ於テ各證書面返



濟期限ハ明治三十四年二月十五日限リトアル二月十一月ニ變更シ未ダ出訴期限ヲ經過セザルモハ如ク作爲シ以テ債務者金藏ヲシテ出訴期限ヲ經過シタルニ因リ債務ノ免脱ヲ得タリトノ抗辯ヲ爲スコトヲ得サルニ至ラシメタルモハナレハ其無害アルコト固ヨリ論ヲ俟タサルナリ隨テ原判文ニ債務者ヨリ出訴期限ヲ援用シタル場合ナルヤ否ヤノ事實理由ヲ明示スルコトヲ要セス刑法第二百十條第一項ヲ適用シ處斷シタルハ相當ハ判決ナリトス

同第二點ハ證人宮下利七ノ調書中ニ勇ハ病人テモアルカラ同人ヲ救フ爲メ證明書ヲ提出シタルモノト思ハレマシタト揭ケアリテ此等ノ陳述ハ即チ證人ノ意見ニ屬スルモノニシテ證言ト看做ス可キモノニアラサルニ之ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ違法ナリト云フニ在テ

○原承審官ノ職權ニ存スル探證ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

同第三點ハ抗告裁判所ニ於テ受命判事ヲシテ豫審處分ヲ爲シ報告ヲ爲サシムル必要アリト認メタル場合ニハ原裁判所判事ヨリ受命判事ヲ指定スル決定ヲ爲サハル可カラス然ルニ其決定ヲ爲サス又受命判事ニ於テモ抗告裁判所ニ報告ヲ爲シタル事跡ナシ故ニ同判事ノ取調ヘタル訊問調書ハ違法ニシテ無効ノモノナルニ原院カ之ヲ有罪ノ證據ニ供シタルハ不法ナリト云フニアレントモ

○抗告裁判所ニ於テ受命判事ヲ命スルニ付其決定ヲ要スルモノニアラス又受命判事カ其取調ノ報告ヲ爲スニ付報告書ヲ作成スルコトヲ要スルモノニアラス口頭ニテ其取調ノ結果ヲ報告スルヲ以テ足レリトス隨テ受命判事ノ取調ヘタル訊問調書ハ固ヨリ適法ニシテ

有効ナルニ付原院カ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ當然ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年十一月二十二日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○強姦致傷ノ件

明治三十年第一〇四六號  
明治三十年十一月二十二日宣告

○判決要旨

(判旨第三點) 強姦致傷罪ハ一罪ニシテ強姦ト創傷ト各別ニ一罪ヲ構成スルモノニアラス

(參照) 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタルモノハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ廢篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス(刑法第三百五十一條)

(判旨第五點) 一旦適法ニ作成セラレタル告訴調書ハ告訴取下ノ爲メ無効ニ歸スヘキモノニアラス

強姦致傷罪ノ性質○告訴調書ノ効力



第一審 甲府地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 藤巻新作

右強姦致傷被告事件ノ控訴ニ付明治三十年十月二十二日東京控訴院ニ於テ審理ノ末原判決ハ之ヲ取消ス被告ヲ輕懲役六年ニ處ス押收ノ腰巻ハ清水ハツヘ其他押收品ハ被告ヘ各還付ス公訴裁判費用ハ被告ノ負擔トスト旨渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意書ノ要旨第一點ハ本件ハ被害者及親屬ヨリ告訴ヲ取下ケタルニ因リ消滅シタルモノナルニ原院カ強姦致傷トシテ處罰シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑法第三百五十條ニ前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ストアルニ依リ同法第三百四十八條ニ規定シタル單純ノ強姦罪ニ付テハ告訴ヲ要スルコト勿論ナルモ本件ハ強姦致傷罪ニシテ同法第三百五十一條ニ依リ處斷スヘキモノニ屬ス而シテ右同條ニ依リ處斷スヘキ場合ニ付テハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ要スルノ規定アルコトナシ左レハ本件告訴ノ取下アリタルニ拘ハラス原院カ有罪トシ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ相當ニシテ毫モ違法ノ廉ナシトス同第二點ハ證人伊藤鐵平ノ證言ニ別段創傷ト云フニハ非サルカ初會ノ交接ニハ通例アル事ナリトアリ又清水ハツノ調書ニ「痛クアリタリ」逃ケタル跡ヲ陰部ヲ見タラ血カ付イテ居タリトノミアリテ毫モ創傷シタリトノ事實ナキニ原院カ此證言此調書ヲ證憑ニ供シナカラ創傷シタリト判定セシハ不法ナリト云ヒ同第三點ハ豫審判事カ證人伊藤鐵平ニ對スル「腔中ニ精液ヲ見ルト鑑定

判旨第三點

書ニアルカ是ハ男子ノ精液ガ「ト」同ニ對シ鐵平ノ答ニ「男子ノカ女子ノカ顯微鏡検査セサル故分ラス」トアリ如此曖昧不完全ナル鑑定ヲ採リ斷罪ノ證ニ供セラレタルハ不法ナリト云フニアリテ○原承審官ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス適法上告ノ理由ナシ同第四點ハ原院カ已決犯罪表贈木被告ノ豫審調書口頭告訴調書ヲ讀開カセ辯解ヲ爲サシメスシテ之ヲ證據ニ採用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○是等證憑書類ノ朗讀書畧ニ付被告ニ異議ナカリシコトハ原院公判始末書ニ徴シ明ナレハ本論旨モ亦其理由ナシ同第五點ハ原院カ數罪俱發ニ關スル刑法第百條ヲ適用セザリシハ不法ナリト云フニ在レトモ○強姦ト創傷トハ各別ニ一罪ヲ構成セズ刑法第三百五十一條ニ依リ一罪ト爲ルヘキモノナレハ原院カ同法第百條ヲ適用セザリシハ相當ニシテ擬律錯誤ハ不法アルコトナシ

上告趣意擴張書ノ要旨第一點ハ原判決列記ノ證憑中陰門周圍裂傷ノ事跡ハ毫モ見ルヘキモノナキニ原判決ニ「蒸滲ヲ遂ケ是カ爲メハツチシテ陰門ノ周圍ニ裂傷ヲ負ハシメ」トアルハ不法ナリト云フニ在リテ○證憑ノ取捨事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラサレハ以テ適法上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス同第三點ハ口頭告訴調書ハ被害者及親屬ノ告訴取下ニ因リ消滅シ無効ト爲リタルモノナルニ原院カ之ヲ證據ニ採用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○一旦適法ニ作成セラレタル告訴調書ハ告訴取下ノ爲メ無効ニ歸スヘキモノハニ非サルヲ以テ原院カ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ決シテ違法ニ非ス同第三點ハ被害者清水ハツノ豫審調書ニ「半丁モ連レラレテ云々」トアリ又「目ヲ明テ居ラサル故知ラス」トアルニ依レハ假令被告カ腔クト口ヘホツチテ

判旨第五點

強姦致傷罪ノ性質○告訴調書ノ効力



スルソト言ヒ、陰謀ヲ突入シタリトスルモ強姦ノ所爲ト云フヲ得ス然ルニ原院カ刑法第三  
百四十八條ヲ適用シタルハ不法ナリト云フニ在リテ○事實認定ヲ非難スルニ外ナラサレハ適  
法上告ノ理由ト爲ラス

上告趣意追申書ノ要旨第一點ハ第一審判決ニ檢事澤井重藏立會宣告ストアルモ宣告ノ當日ニ  
ハ他ノ檢事立會ヒタリ是レ事實理由ノ組織アルノミナラス事件ニ干與シタル檢事ノ官氏名ヲ  
記載セサル不法アルニ原院カ此點ニ付第一審判決ヲ是認シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ  
○第一審公判始末書ヲ査閱スルニ檢事澤井重藏カ本件ノ裁判言渡ニ立會タル旨明記シアレハ  
本論旨ハ其謂レナシ同第二點ハ原判決ニ「押收ノ腰巻股引等ニ徴シ證憑充分ナリ」トアリ然ルニ  
原院法廷ニ於テ該證憑ヲ示ササルノミナラス辯解ヲモ爲サシメサリシハ不法ナリト云フニ  
レトモ○原院公判始末書ニ「證據物ニ付辯解ハアル」トノ間ニ對シ被告ハ「別ニ辯解ハアリマセ  
ン」ト答ヘタル旨明記シアレニ依レハ原院ハ是等ノ證憑物件ヲ示シ被告ニ辯解ヲ爲サシメタル  
事蹟分明ナレハ本論旨モ亦其謂レナキモノトス同第三點ハ本件ハ檢事ノ起訴ナクシテ豫審判  
事カ現行重罪犯トシテ檢證調書ヲ作り以テ公判ヲ受理シタルモノナルニ第一審及ヒ原院ニ於  
テ檢證調書ヲ不問ニ置キ採用セサルハ起訴ナキ公訴ヲ受理シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在  
レトモ○本件ハ明治三十年六月十八日甲府地方裁判所ノ檢事澤井重藏ノ起訴ニ係ルモノナル  
コト訴訟記録上明瞭ニシテ本論旨モ亦其謂レナシ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

刑

明治三十年十一月二十二日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○官印官文書偽造等ノ件

明治三十年第八九五號  
明治三十年十一月二十九日宣告

○判決要旨

詐欺取財ヲ爲スニ因リ官文書ヲ偽造行使シタル所爲ハ實質上ノ一罪ニシテ刑  
法第三百九十條第二項ニ依リ重キ官文書偽造行使ノ一罪ト成リ別ニ詐欺取リ  
罪ヲ構成セス而シテ官文書偽造ニ因ル官印偽造罪モ亦刑法第二百六條ニ依リ  
重キ官印偽造ノ一罪ナリ從テ詐欺取財ヲ爲スニ因リ官文書及ヒ官印ヲ偽造行  
使シタル所爲ハ數罪俱發ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

(参照) 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト  
爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ官私  
ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處  
斷ス(刑法第三  
百九十條)

實質上ノ一罪